I-O DATA

GV-DVC3/CB

取扱説明書

はじめにお読みください

112683-01

このたびは、DV編集用PCカード『GV-DVC3/CB』をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用の前に、本書を良くお読みいただき、正しいお取り扱いをお願いします。

本書および別冊での呼び方

呼び方	意味
Windows XP	Microsoft® Windows® XP Professional Operating Systemおよび Microsoft® Windows® XP Home Edition Operating System の総称
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating System
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System
Windows 98 SE	Microsoft® Windows® 98 Second Edition Operating System
Windows XP/2000	Windows XP,Windows 2000の総称
Windows Me/98	Windows Me,Windows 98の総称
Windows	上記Windowsの総称

必ずお守りください

ここでは、お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。
ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。

■ 警告及び注意表示

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人体に多大な損傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性又は物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■ 絵記号の意味

△

この記号は注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）  「発火注意」を表す絵表示

⃠

この記号は禁止の行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）  「分解禁止」を表す絵表示

●

この記号は必ず行っていただきたい行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）  「電源プラグを抜く」を表す絵表示

⚠ 警告



厳守

本製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意表示を厳守してください。



分解禁止

本製品をご自分で修理・分解・改造しないでください。

火災や感電、やけど、故障の原因になります。

修理は弊社修理係にご依頼ください。分解したり、改造した場合、保証期間であっても有償修理となる場合があります。



電源プラグを抜く

煙が出たり、変な臭いや音がしたら、すぐに使用を中止してください。

電源がある場合は、電源を切ってコンセントから電源プラグを抜いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



発火注意

本製品の取り扱いは、必ず取扱説明書で接続方法をご確認になり、以下のことにご注意ください。

- 接続ケーブルなどの部品は、必ず添付品または指定品をご使用ください。指定品以外を使用すると火災や故障の原因となります。
- コネクタやケーブルを間違えると、パソコン本体やケーブルから発煙したり火災の原因になることがあります。
- ケーブルにものをのせたり、引っ張ったり、折り曲げ・押しつけ・加工などは行わないでください。火災や故障の原因となります。
- 指定されたスロットに水平に入れ、奥のコネクタまできちんと差し込んでください。正しく装着されていないと、火災および故障の原因となります。



水濡れ禁止

本製品を濡らしたり、水気の多い場所で使用しないでください。

お風呂場、雨天・降雪中、海岸・水辺での使用は火災・感電・故障の原因となります。

⚠ 注意



注意

本製品を使用中に誤った操作をしてデータが消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。

故障に備えて定期的にバックアップをお取りください。



禁止

本製品は以下のような場所（環境）で保管・使用しないでください。

故障の原因となることがあります。

- 振動や衝撃の加わる場所
- 直射日光のあたる場所
- 湿気やホコリが多い場所
- 温湿度差の激しい場所
- 熱の発生する物の近く（ストーブ、ヒータなど）
- 強い磁力電波の発生する物の近く
  （磁石、ディスプレイ、スピーカ、ラジオ、無線機など）
- 水気の多い場所（台所、浴室など）
- 傾いた場所
- 腐食性ガス雰囲気中（Cl_2、H_2S、NH_3、SO_2、NO_Xなど）
- 静電気の影響の強い場所
- 保温性・保湿性の高い（ジュータン・カーペット・スポンジ・ダンボール・箱・発泡スチロールなど）場所での使用（保管は構いません。）



禁止

本製品は精密部品です。以下のことにご注意ください。

- 落としたり、衝撃を加えない
- 本製品の上に水などの液体や、クリップなどの小部品を置かない
- 重いものを上にのせない
- そばで飲食・喫煙などをしない
- 本製品内部に液体、金属、たばこの煙などの異物を入れない



厳守

本製品のコネクタ部分や部品面には直接手を触れないでください。

静電気が流れ、部品が破壊されるおそれがあります。また、静電気は衣服や人体からも発生するため、本製品の取り付け・取り外しは、スチールキャビネットなどの金属製のものに触れて、静電気を逃がした後で行ってください。

もくじ

必ずお守りください..... ii
もくじ xi

はじめに

使う前の確認

箱の中身を確認しよう・・・・・・・・・・・ 2
GV-DVC3/CBの特徴・・・・・・・・・・・・・・ 5
対応しているパソコンとOS・・・・・・・ 7
● 対応しているパソコンとOS・・・・・・・・7
● 動作環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
● 動作確認済みのDV機器
&D-VHS機器一覧・・・・9
サービス添付品の
お問い合わせ先・・・・・・・ 11

ステップ1 使う前の準備

１．　取り付け前の確認･･･････････ 14
- IRQの空きの確認･･･････････････････14
- DMAの確認･･･････････････････････････18

２．　カードを取り付ける･･･････････ 23
３．　ドライバをインストールする･24
- ドライバのインストール
（Windows 98 SEのみ）･････24
- インストール後の確認･･･････････････32

４．　『DVworks』を
インストールする･･･ 36
５．　『MediaStudio Pro』を
インストールする･･･ 42
- 「MediaStudio Pro」を
インストールする･･･････43
- 「Panasonic DS MPEG PlugIn
for Ulead」をインストールする･46

６．　OS上で本PCカードを
取り外す方法･･･ 49

ステップ2 映像のキャプチャ&書き戻し（DV機器編）

1．　DV機器を接続しよう・・・・・・・・ 62

● DV機器を接続する・・・・・・・・・・・・・・・62

● 確認しよう（Windows XP編）・・・・・64

● 確認しよう（Windows 2000編）・・・66

● 確認しよう（Windows Me編）・・・・・68

● 確認しよう（Windows 98 SE編）・・70

● DV機器を取り外す・・・・・・・・・・・・・・・72

2．　DV機器をパソコン上から操作してみよう・・・・ 73

● 『DVworks』を起動する・・・・・・・・・・73

● 『DVworks』でDV機器の接続を確認する・・・・・・76

● 『DVworks』でDV機器を操作する・・77

3．　ビデオ映像をキャプチャしよう・・・・・・・ 80

● AVI形式でキャプチャする・・・・・・・・81

・シーン検出でキャプチャする・・・82

・タイムコードでキャプチャする・91

・映像を見ながらキャプチャする・95

● MPEG形式でキャプチャする・・・・・・・98

● WMV形式でキャプチャする・・・・・・・102

● 音声だけをキャプチャする・・・・・・104

● 静止画をキャプチャする・・・・・・・・107

4．　AVIファイルをDVテープに書き戻す・・・109

5．　DVテープをダビングする・・・・114

ステップ3 映像のキャプチャ＆書き戻し（D-VHS機器編）

１．　D-VHSデッキを接続しよう･･･118
- D-VHSデッキの接続と
  ドライバのインストール･････119
- D-VHSデッキを取り外す･･･････123

２．　D-VHSデッキから映像を
  キャプチャしよう････124
- D-VHSデッキのコントロール･････126

３．　D-VHSデッキにMPEG
  ファイルを書き戻す････127

ステップ4 『MediaStudio Pro』を使ったビデオ編集

１．　『MediaStudio Pro』を
  起動しよう･･･132

２．　映像を編集しよう･･･････････136
- シーンをカット編集する･･･････137
- 特殊効果でシーンをつなぐ･･･････143
- 編集内容を確認する･･･････････････145
- タイトルを入れる･･･････････････147
- 編集状況（プロジェクト）
  を保存する････149

３．　BGMやナレーションを
  入れよう･･･････････････150

４．　編集した作品を保存しよう
  （レンダリング）･･･････155

ステップ5

ストレージ機器の取り扱い

１．　基本操作について‥‥‥‥‥162

２．　ストレージ機器を接続する‥163
３．　ストレージ機器が正しく接続
　　されているかを確認する‥‥165
４．　ストレージ機器の正しい
　　取り外し手順‥‥171

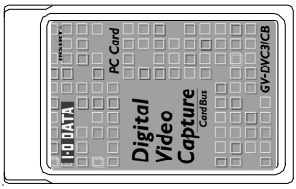
仕様 174
サポートセンターへのお問い合わせ. 175
サポートソフトのバージョンアップ. 176
保証について. 177
修理について. 178

はじめに

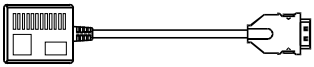
使う前の確認

箱の中身を確認しよう

箱の中には以下のものが入っています。
☐にチェックをつけながら、ご確認ください。



☐ デジタルビデオキャプチャカード
［GV-DVC3/CB］



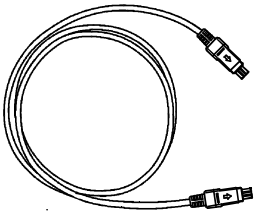
☐ PCカード中継ケーブル



☑ 取扱説明書



☐ 取扱説明書（別冊）



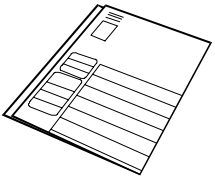
☐ DVケーブル
［4ピン⇔4ピン（1.5m）］



☐ サポートソフト
［CD-ROMディスク］

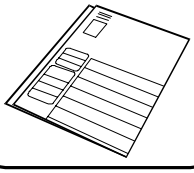


☐ **ハードウェア保証書**



☐ **ユーザー登録カード**

ユーザー登録はお済みですか？
「ユーザー登録カード」に登録方法が記載されています。登録してから次ページへ進みましょう！



＜サービス添付品＞

以下のサービス添付品は、弊社ではサポート致しかねます。お問い合わせ先などについては12ページ【サービス添付品のお問い合わせ先】を参照してください。

- ☐ CD-ROMディスク 3枚
  - Ulead MediaStudio Pro 6.0 Basic VE with Power up kit+Ulead COOL 3D SE Ver 3.0
  - Ulead PhotoImpact 6 SE
  - Sonic Solutions MyDVD
- ☐ Ulead 製品お客様保管用カード注) 1枚
- ☐ Sonic MyDVD用ユーザー登録依頼書 1枚
- ☐ MyDVDインストールガイド注) 1冊

注）インストール時やユーザーサポート時に必要なシリアルナンバーが記載されています。大切に保管してください。

万一不足品がございましたら、弊社サポートセンターまでご連絡ください。

お願い：箱や梱包材は大切に保管し、修理などで輸送の際にご使用ください。

GV-DVC3/CBの特徴

◎デジタル品質の映像をパソコンとDV機器間でダイレクト転送

OHCI準拠IEEE 1394インターフェイスによるデジタル転送方式です。
DV(i.LINK)端子搭載のDV機器とパソコンを１本のケーブルで接続し、双方向の映像データの転送が可能です。

◎添付ソフト「DVworks」を使ってリアルタイムMPEGキャプチャ

添付の「DVworks」を使用すれば、DVカメラの映像をAVI、MPEG-1、MPEG-2、WMV形式でリアルタイムにキャプチャできます。
通常DVカメラから入力される信号をリアルタイムにMPEG-2にエンコードする場合、膨大なCPUパワーが必要ですが、「DVworks」に搭載されたMPEGエンコードエンジンなら、リアルタイム処理が追いつかない場合でも自動的にハードディスク内に一次データをバッファリングし、最終処理時にエンコードが間に合わなかった部分をエンコードします。
したがって、CPUパワーを余すことなく有効活用し、コマ落ちのない滑らかな映像をキャプチャします。

◎添付ソフト「D-VHS Cap」を使って、D-VHSデッキからデジタルキャプチャ

添付の「D-VHS Cap」を利用すれば、パソコンとD-VHSデッキをIEEE 1394で接続し、D-VHSテープに記録されているMPEG-2データをデジタルにキャプチャできます。DVカメラからキャプチャした映像をMPEG-2にエンコードしてD-VHSテープに保存したり、D-VHSデッキのMPEG-2エンコーダで高画質に記録したMPEG-2データをパソコンへデジタルに取り込むこともできます。

◎ビデオ編集ソフトとDVDオーサリングソフトを添付

キャプチャしたDV-AVIファイルやMPEGファイルの編集用に「Ulead MediaStudio Pro 6.0 Basic VE with Power up kit」を標準添付。また、「Sonic MyDVD」を使ってオリジナルDVDの作成も行えます。「Ulead MediaStudio Pro 6.0 Basic VE with Power up kit」にMPEG編集機能を追加する「Panasonic DS MPEG PlugIn for Ulead」も標準添付しています。

◎IEEE 1394ストレージ機器の接続に対応。

Plug&PlayやHot Plugに対応しておりますので、Windows起動状態でもストレージ機器を接続したり、取り外したりできます。
最大63台の機器を接続できます。（デイジーチェーン接続のみの場合は、最大16台まで。）
機器には、電源ケーブルやACアダプタにより自ら電源供給を行うもの（セルフパワー）と接続ケーブルから電源供給を受けるもの（バスパワー）の２種類のタイプが存在しますが、本製品はバスパワーで動作する機器には未対応です。

対応している
パソコンとOS

注意

・本製品を利用しての、パソコンからDV、D-VHS機器への書き戻しについては動作保証外です。

対応しているパソコンとOS

機種
PCカード規格準拠TypeⅡ Card Busスロットを持つ以下の機種 ・PC98-NXシリーズ ・DOS/Vマシン ※ SONY VAIOシリーズ等、標準でDV端子やIEEE 1394端子を搭載する機種ではご使用いただけません。 ※ 他のDVキャプチャカード、IEEE 1394インターフェイスカードとの併用はできません。

ＯＳ（日本語版）
・Windows XP※1 ・Windows 2000 ・Windows Me ・Windows 98 SE※2

※1 「D-VHS Cap」はWindows XPのみの対応となっています。他のOSではご利用になれません。

※2 Windows 98をお使いの場合は、Windows 98 Second Editionへのアップグレードが必要です。バージョンを確認してください。（確認方法は以下をご参照ください。アップグレード方法に関しては、各パソコンメーカーにご確認ください。）

＜Windows 98 Second Editionの確認方法＞

①[マイコンピュータ]を右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。

②[システム]欄に“Microsoft **Windows 98 Second Edition**”と表示されていることをご確認ください。



動作環境

● 「DVworks」を使用してAVIファイルのキャプチャ時に必要な環境

CPU	MMX Pentium 200MHz以上（Pentium Ⅱ 350MHz以上推奨）
メモリ	64Mバイト以上（128Mバイト以上推奨）
ハードディスク	150Mバイト以上（4Gバイト以上推奨） ※ インターフェイスは、UltraATA/33以上
グラフィック	800x600 ハイカラー以上（1024x768 フルカラー以上推奨） （DirectX 8.0以降）
サウンド環境	音声再生用に必要
CD-ROMドライブ	アプリケーションソフトのインストール用

● 「DVworks」を使用してMPEG-2、WMVキャプチャ時に必要な環境

CPU	Pentium Ⅲ 550MHz以上（Pentium Ⅲ 1GHz以上推奨）
メモリ	64Mバイト以上（128Mバイト以上推奨）

● 「D-VHS Cap」を使用してD-VHSデッキからMPEGキャプチャ時に必要な環境

※ Windows XPのみで利用可能です。

CPU	Pentium Ⅱ 350MHz以上（Pentium Ⅲ 933MHz以上推奨）
メモリ	64Mバイト以上（128Mバイト以上推奨）

注意

・CPU速度、ハードディスクの転送速度、その他使用状況により動画キャプチャ時にコマ落ち・音飛びが発生する場合があります。

・BS/CSチューナーには対応しておりません。

・MPEG-2、WMV形式でキャプチャを行う場合、Windowsのファイル容量制限により、１ファイルの最大容量は下記の通りです。

FAT32形式のハードディスクに記録する場合：4Gバイトまで

NTFS形式のハードディスクに記録する場合　：2Tバイトまで

動作確認済みのDV機器＆D-VHS機器一覧

動作確認情報の詳細や、最新機種の確認情報については
弊社ホームページをご覧ください。

● 動作確認済みDV機器

メーカー	種類	DV機種名
Panasonic	DVカメラ	NV-C1, NV-C2, NV-C3, NV-C5, NV-DE3, NV-MG3, NV-DJ100, NV-DS5, NV-DS7, NV-DS9, NV-DS80K, NV-DS200, NV-DB1, NV-C7、NV-MX1000
	DVデッキ	NV-DV10000, NV-DM1
SONY	DVカメラ	DCR-TRV5, DCR-TRV7, DCR-TRV9, DCR-TRV10, DCR-TRV20, DCR-TRV900, DCR-PC1, DCR-PC3, DCR-PC5※1, DCR-PC7, DCR-PC9, DCR-PC10, DCR-PC100, DCR-TRV310K, DCR-TRV220K, DCR-TRV20, DCR-TRV620K, DCR-TRV820K, DCR-VX2000, DCR-VX1000※1, DCR-VX9000
	DVデッキ	WV-D10000, GV-D300, WV-DR7, DSR-30※1
	メディアコンバーター※2	DVMC-DA1, DVMC-MS1, DVMC-DA2
SHARP	DVカメラ	VL-DC3※3, VL-DC5, VL-PD1※3, VL-PD3, VL-PD7, VL-FD1, VL-EF1※3, VL-G1K, VL-MR1, VL-MX1, VL-NX10, VL-AX1
Victor	DVカメラ	GR-DVL※3, GR-DVL7, GR-DVY, GR-DVX7, GR-DVL700, GR-DVX9, GR-DVA10, GR-DVA11K, GR-DVA20K, GR-DVA22K, GR-DV2000, GR-DV3000, GR-DVX5K, GR-DVP3
Canon	DVカメラ	CV11, FV1, FV2, FV10, FV20, IXY DV, IXY DV2, MV1, PV1, XL1, XL1S, XV1, PV130

※1 Windows Meでは、キャプチャや書き戻しを正常にお使いいただけません。
他のOSでご利用ください。

※2 「DVworks」のオプション画面で[DV機器の状態を無視する]と[カメラデバイス]をチェックしてお使いください。（GV-DVC3/CB取扱説明書（別冊）14ページ）

※3 DV機器側が映像入力に対応していないため、パソコンからDVメディアへの録画はできません。

注意

ESP・ELP（長時間モード）で記録されたテープには対応しておりません。

● D-VHSデッキの動作確認情報（D-VHS→MPEG-2キャプチャ）

◎ 正常に動作することを確認しております。
× 正常に動作いたしません。

メーカー	D-VHS機種名	録画モード	
Panasonic	NV-DHE10	STD	◎
		LS-3	◎
	NV-DHE20	STD	◎
		LS-3	◎
Victor	HM-DH10000	STD	×
		LS-3	×
	HM-DH20000	STD	◎
		LS-3	◎
	HM-DH30000	STD	◎
		LS-3	◎
	HM-DH35000	STD	◎
		LS-3	◎
HITACHI	DT-DR20000	STD	◎
		LS-3	◎

サービス添付品のお問い合わせ先

以下のソフトウェアは「サービス添付品」につき、弊社ではサポートしておりません。
製品内容などのお問い合わせ先は以下を参照してください。

・Ulead MediaStudio Pro 6.0 Basic VE with Power up kit
・Ulead PhotoImpact 6 SE,Ulead COOL 3D SE 3.0 のお問い合わせ先

ユーリードシステムズ（株）ユーザーサポート係
住所：東京都世田谷区用賀4-5-16　TEビル
TEL：03-5491-5662
受付時間：月～金曜日（祝祭日を除く）　10:00～12:00、13:00～17:00
※ 「Ulead製品お客様保管用カード」も合わせてご確認ください。

Sonic Solution MyDVDのお問い合わせ先

MyDVD サポートセンター
住所：〒105-0022東京都港区海岸2-6-30 浜松町エメラルドビル5F
　　ソニック・ソルーションズ東京支社　MyDVD サポートセンター
TEL： 03-5232-5065
受付時間：月～金曜日（祝祭日を除く）　10:00～12:00、13:00～17:00

電子メールによるサポート：DVD-IT@sanshin.co.jp
メールをお送りいただくと、技術的な参考文献、FAQへの回答、最新の製品情報を含むメッセージを受け取ることができます。
※ お問い合わせの際は、あらかじめユーザー登録が必要です。必ず添付の「Sonic MyDVD用ユーザー登録依頼書」にてユーザー登録を行ってください。

MEMO

ステップ1

使う前の準備

1 取り付け前の確認

本製品をパソコンに取り付ける前に、以下の確認および設定を行ってください。

IRQの空きの確認

本製品は割り込み（IRQ）を1つ使用します。割り込み（IRQ）の空きがないと本製品は使用できません。以下の手順で割り込み（IRQ）の空きを確認してください。お使いのOSに合わせて、必要な個所をお読みください。

Windows XP/2000 の場合　→下記参照
Windows Me/98 SE の場合　→16 ページ参照

Windows XP/2000の場合

参考

画面例はWindows 2000ですが、注意書きのない限り、Windows XPも操作は同じです。

1 [システムのプロパティ]を開きます。

Windows XP の場合は、以下の手順を行います。

① [スタート]をクリックし、表示された画面内の[マイコンピュータ]を右クリックします。

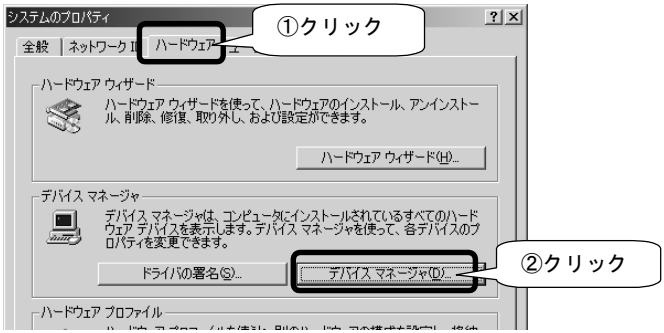
② 表示されたメニューの[プロパティ]をクリックします。

Windows 2000の場合は、以下の手順を行います。

① [マイコンピュータ]アイコンを右クリックします。

② 表示されたメニューの[プロパティ]をクリックします。

2 [ハードウェア]タブをクリックして、[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。



3 [表示]メニューから[リソース（種類別）]をクリックします。

4 [割り込み要求（IRQ）]をダブルクリックして、割り込み（IRQ）の使用状況を確認します。

▼IRQ2、5、7が空いている例



5 画面右上の ✕ ボタンをクリックして画面を閉じます。

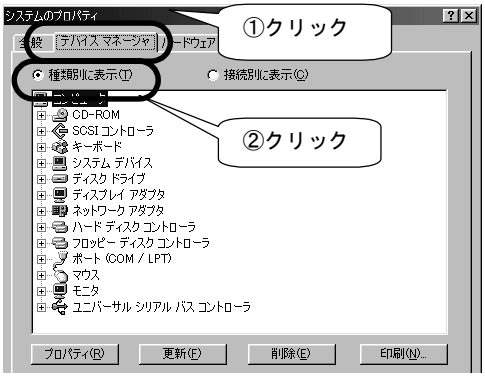
すべての割り込み（IRQ）番号が使用されている場合は割り込みに空きがない状態です。使用していない機器があれば取り外すか無効にして、割り込みの空きを作ってください。

次に、18ページの[DMAの確認]に進んでください。

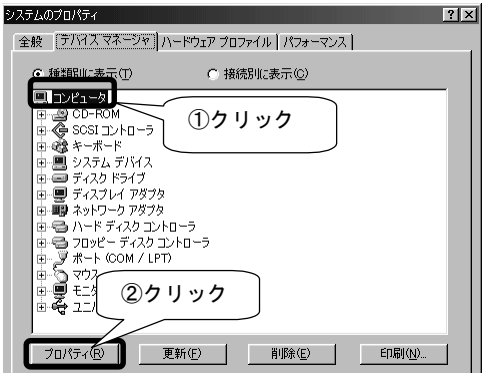
Windows Me/98 SEの場合

1　**[マイコンピュータ]アイコンを右クリックし、[プロパティ]をクリックします。**

2　**[デバイスマネージャ]タブをクリックし、[種類別に表示]をチェックします。**



3　**[コンピュータ]をクリックして、[プロパティ]ボタンをクリックします。**



4　割り込み（IRQ）の使用状況を確認します。

▼IRQ5、9 が空きになっている例



5　[OK]ボタンをクリックして、開いている画面をすべて閉じます。

すべての割り込み（IRQ）番号が使用されている場合は割り込みに空きがない状態です。使用していない機器があれば取り外すか無効にして、割り込みの空きを作ってください。

次に、次ページ[DMAの確認]に進んでください。

DMAの確認

キャプチャしたビデオ映像を内蔵ハードディスクに保存するとき、ハードディスクにDMAの設定がされていないとコマ落ちが発生する場合があります。以下の手順で、DMAの設定がされているか確認してください。
お使いのOSに合わせて、必要な個所をお読みください。

Windows XP/2000 の場合　→下記参照
Windows Me/98 SE の場合　→20 ページ参照

注意

・ビデオ映像を SCSI ハードディスクに保存する場合や、内蔵ハードディスクが Ultra ATA コントローラの場合、DMA の設定は不要です。
・パソコンの取扱説明書に以下のような記述がある場合は、DMA を設定しないでください。
「ハードディスクは PIO モードで転送する」
「ハードディスクで DMA 転送しない」

Windows XP/2000の場合

参考

本書の画面例はWindows 2000ですが、注意書きのない限り、Windows XPも操作は同じです。

1　[マイコンピュータ]アイコンを右クリックし、[プロパティ]をクリックします。

Windows XP の場合は、以下の手順を行います。

① [スタート]をクリックし、表示された画面内の[マイコンピュータ]を右クリックします。
②表示されたメニューの[プロパティ]をクリックします。

Windows 2000の場合は、以下の手順を行います。

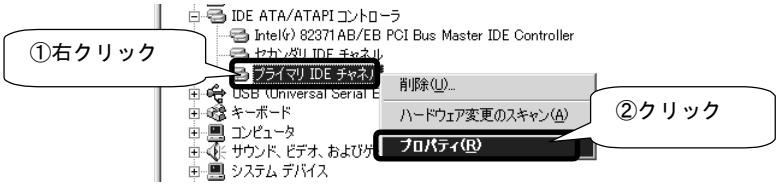
①[マイコンピュータ]アイコンを右クリックします。
② 表示されたメニューの[プロパティ]をクリックします。

2　[ハードウェア]タブをクリックして、[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。

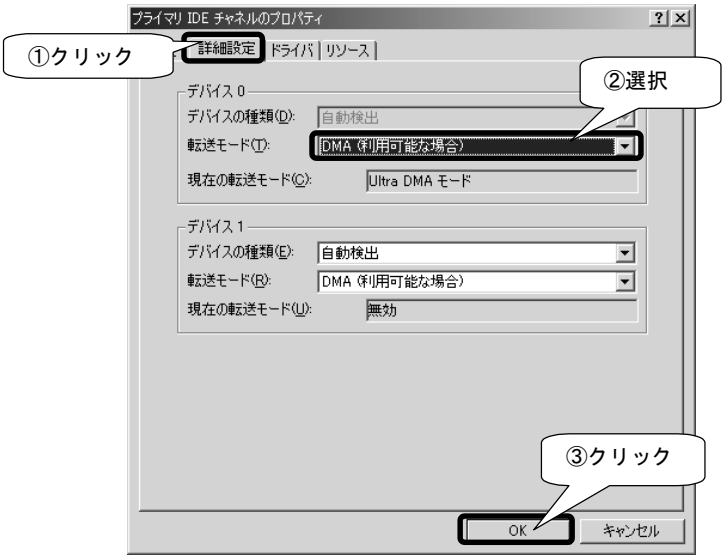
3 [IDE ATA/ATAPIコントローラ]をダブルクリックします。



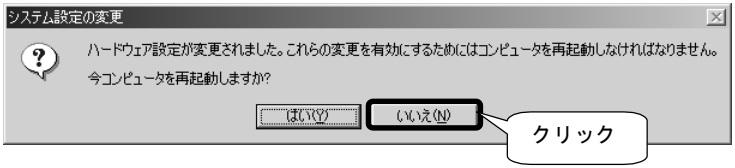
4 [プライマリIDEチャネル]を右クリックし、[プロパティ]をクリックします。



5 [詳細設定]タブをクリックし、[転送モード]欄で[DMA（利用可能な場合）]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。



6　再起動を促す画面が表示された場合は、[いいえ]ボタンをクリックします。



7　手順4の画面に戻るので、[セカンダリ IDE チャンネル]を選択して同様に DMA の設定を確認します。
手順6の画面が表示されたら、[はい]ボタンをクリックして再起動します。

以上で取り付け前の確認は終了です。23ページ【2 カードを取り付ける】へ進んでください。

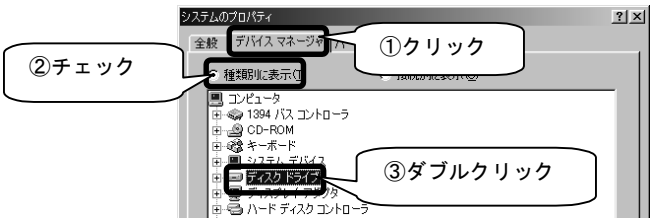
Windows Me/98 SEの場合

参考

本書の画面例はWindows 98 SEですが、注意書きのない限り、Windows Meも操作は同じです。

1　[マイコンピュータ]アイコンを右クリックし、[プロパティ]をクリックします。

2　[デバイスマネージャ]タブをクリックし、[種類別に表示]をチェックして、[ディスクドライブ]をダブルクリックします。



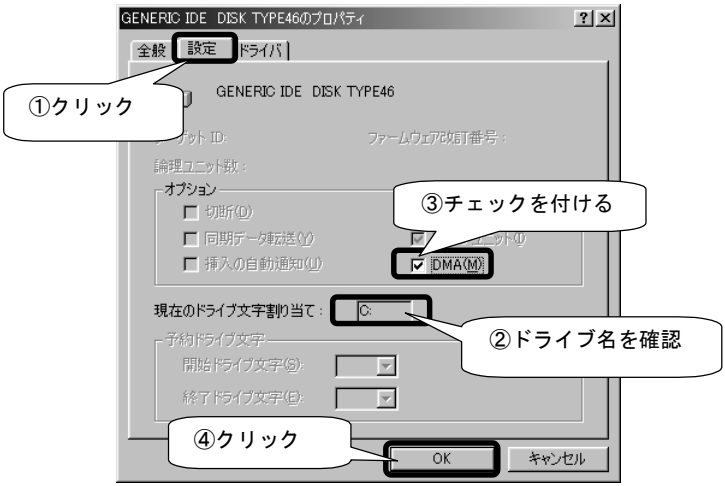
3 お使いの内蔵ハードディスク名をダブルクリックします。

画面は[GENERIC IDE DISK ...]の場合です。複数の内蔵ハードディスク名が表示されている場合は、上から順にダブルクリックして手順**4**を行ってください。



4 [設定]タブをクリックして、以下を確認します。確認後、[OK]ボタンをクリックします。

1. [現在のドライブ文字割り当て]欄に、ファイルを保存するドライブ名が表示されていることを確認します。
2. [オプション]欄の[DMA]にチェックを付けます。



5 再起動を促す画面が表示された場合は、[はい]ボタンをクリックします。

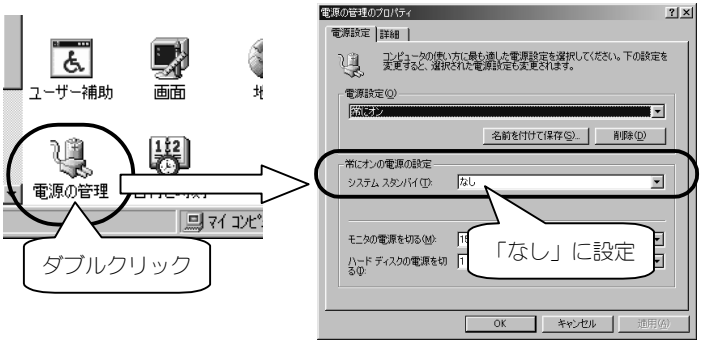
以上でDMAの確認は終了です。

注意

本製品は、WindowsのACPI規格には対応しておりません。
従って、取り付けた状態では以下の①および②にご注意ください。

①スタンバイ機能は無効に設定してください。

1. ［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］を順にクリックします。
2. ［電源の管理］をダブルクリックし、［システムスタンバイ］の設定を［なし］に設定してください。



②［スタート］→［Windowsの終了］→［スタンバイ］は実行しないでください。

ACPIとは？

米マイクロソフト社、米インテル社、東芝の3社が提唱しているパソコンの省電力モードなどの電力制御や、パソコンに接続される家庭電化製品の電源の制御などを、OS(オペレーティング･システム)から行うことができる低消費電力機構の規格です。

2 カードを取り付ける

ここでは、本製品をパソコンのPCカードスロットへ取り付ける手順について説明します。

注意

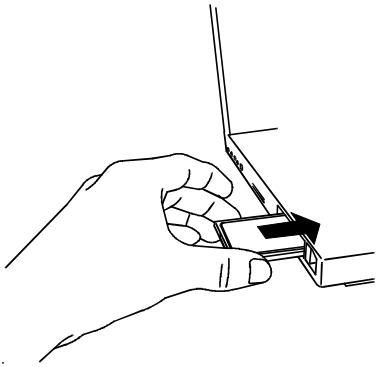
・下記全てに当てはまる場合、特別な作業が必要です。
- **Windows 98 SEをお使いの場合**
- **Windowsがプリインストールでない場合**
- **PCカードスロットがひとつの場合**
- **CD-ROMドライブをPCカードで接続している場合**

※ 特別な作業
Windows 98 SEのCD-ROMから以下のファイルをパソコンの任意のフォルダにコピーしてください。
CD-ROM内のWIN98フォルダ内にあるBASE6.CABファイル
コピー後は、手順7でその任意のフォルダを指定します。
（P28参照）

1 パソコンの電源スイッチを切ります。

2 本製品をPCカードスロットに挿入します。

奥まで確実に挿入してください。



3 ドライバをインストールする

Windows Me/XP/2000をお使いの場合 → **【インストール後の確認】32ページへ**

ここでは、Windows 98 SEで本製品を使用する場合に必要となるドライバソフトのインストールについて説明します。

Windows XP/2000/Meの場合は、自動的にインストールされますので、インストール作業を行う必要はありません。【インストール後の確認】（32ページ）へお進みください。

1　パソコンの電源を入れ、Windows 98 SEを起動します。

2　以下の画面が表示されたら、[次へ]ボタンをクリックします。

「Texas Instruments OHCI Compliant IEEE 1394 Host Controller」と表示されていることを確認してください。



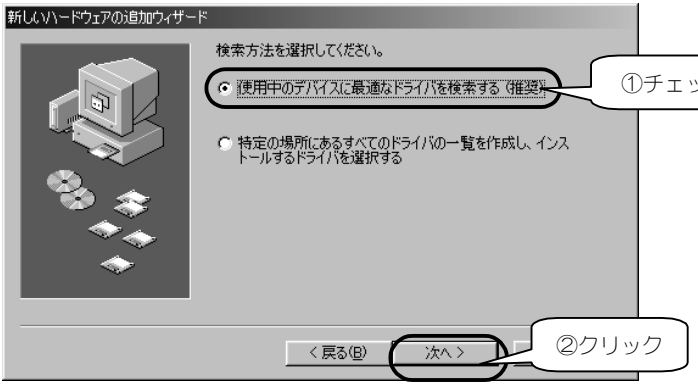


このインストール画面が
表示されない場合は…

本製品のインストールが正常に終了すると次回から上の画面は表示されません。インストールが終了していない状態なのに、上の画面が表示されない場合は以下の原因が考えられます。Windowsを終了し、パソコンの電源を切ってから、次のことを確認してください。

・本製品がPCカードスロットに正しく取り付けられていない。
→確実に取り付けられていることを再度ご確認ください。
→取り付けるスロットを変更してみてください。

3　**［使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)］をチェックし、［次へ］ボタンをクリックします。**



4　**すべてのチェックを外し、［次へ］ボタンをクリックします。**

※ 選択肢のチェックを入れる必要はありません。（選択されている場合はすべてのチェックを外してください。）



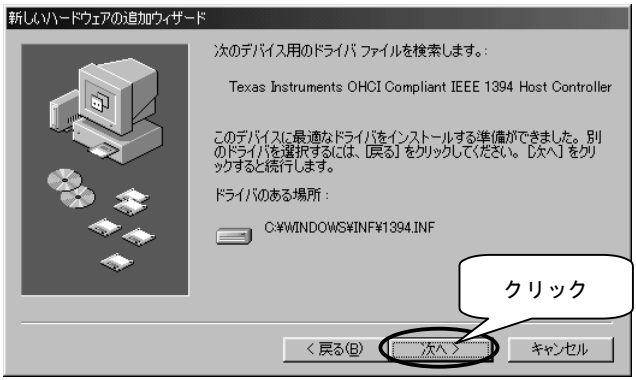
5 ［次へ］ボタンをクリックします。

「更新されたドライバ（推奨）」が選択されていることを確認してから［次へ］ボタンをクリックしてください。



6 ［次へ］ボタンをクリックします。

ファイルのコピーが始まります。



7　［ディスクの挿入］画面が表示される場合があります。

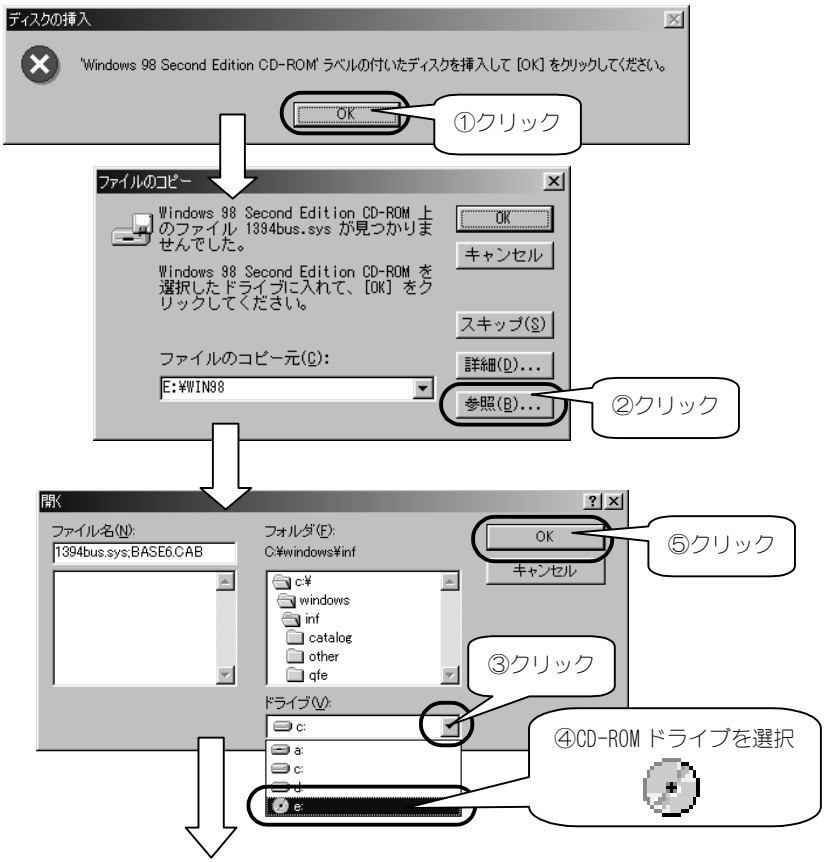
表示されない場合 ⇒ そのまま手順8（30ページ）へお進みください。

表示された場合

⇒ 「Windows 98 SE」CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットし、［OK］ボタンをクリックします。

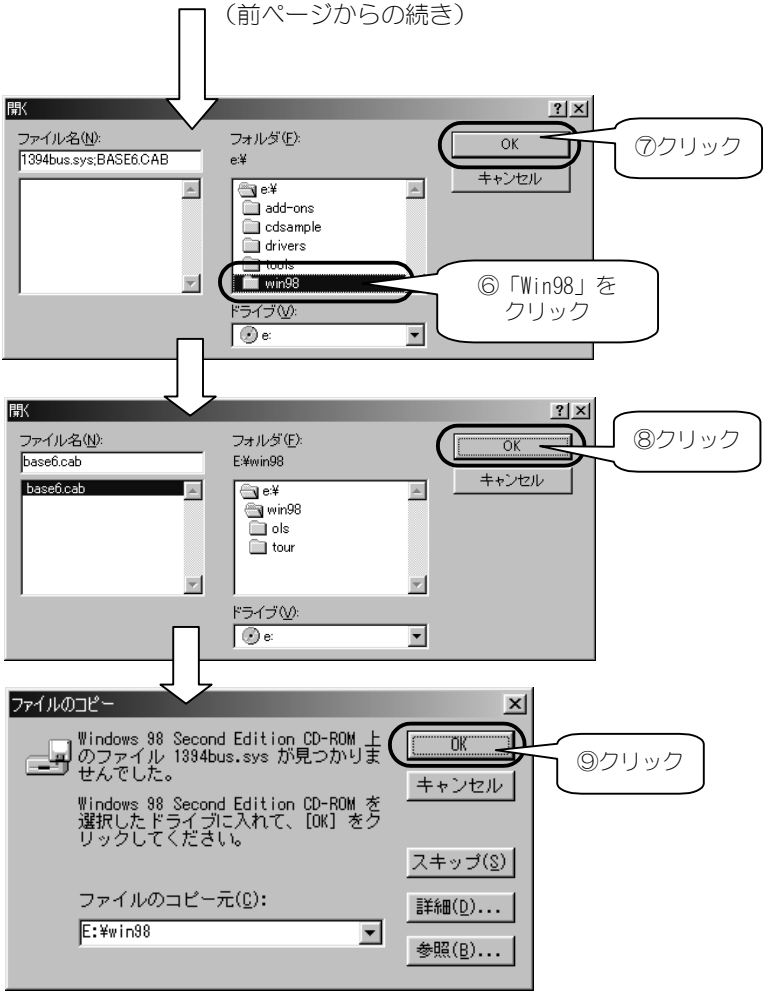
［ファイルのコピー］画面で、［参照］ボタンをクリックして、CD-ROM ドライブ（ここではE：）内の［Win98］を指定します。指定後、［OK］ボタンをクリックします。

23ページの注意で挙げている作業をした場合は、そのフォルダを指定します。



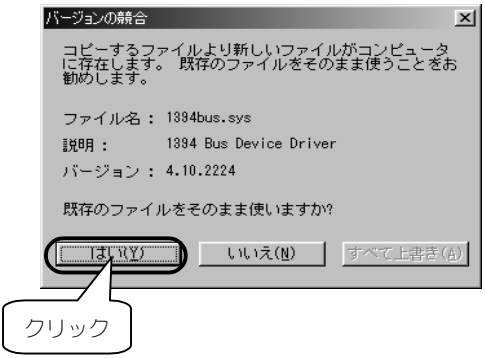
（次ページへ）

（前ページからの続き）

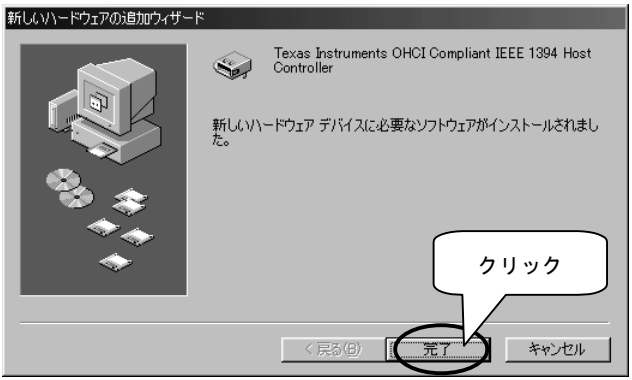

開く
ファイル名(N):
1394bus.sys;BASE6.CAB
フォルダ(F):
e:¥
OK
キャンセル
e:¥
add-ons
cdsample
drivers
tools
win98
ドライブ(V):
e:
⑦クリック
⑥「Win98」をクリック
開く
ファイル名(N):
base6.cab
フォルダ(F):
E:¥win98
OK
キャンセル
base6.cab
e:¥
win98
ols
tour
ドライブ(V):
e:
⑧クリック
ファイルのコピー
Windows 98 Second Edition CD-ROM 上のファイル 1394bus.sys が見つかりませんでした。
Windows 98 Second Edition CD-ROM を選択したドライブに入れて、[OK] をクリックしてください。
OK
キャンセル
スキップ(S)
詳細(D)...
参照(B)...
ファイルのコピー元(C):
E:¥win98
⑨クリック

8　［バージョンの競合］画面が表示された場合は、すべて［はい］ボタンをクリックします。

▼［バージョンの競合］表示例



9　［完了］ボタンをクリックします。



10　**手順7で「Windows 98 SE」CD-ROMを使用した場合は、CD-ROMを取り出します。**

11　**Windowsを再起動します。**

以上で、ドライバのインストールは終了です。

参考

インストールが正常に終了すると、次回からはそのまま使用できます。
（次回から25ページの手順2以降のインストール画面は表示されません。）

インストール後の確認

正常にパソコンに認識されているか（正常にインストールされたか）を確認してみましょう。

・Windows XP/2000の場合は以下を参照してください。
・Windows Me/98 SEの場合は34ページを参照してください。

Windows XP/2000の場合

1　［マイコンピュータ］を右クリックし、メニュー内の［プロパティ］をクリックします。

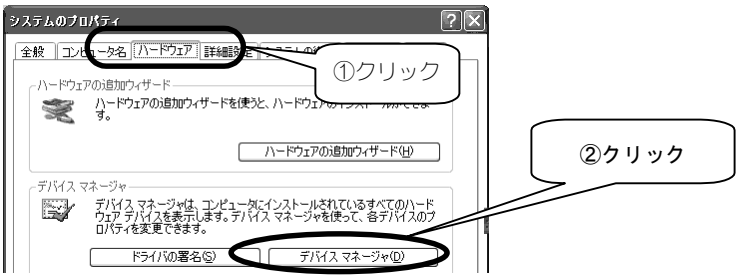
Windows XP の場合は、以下の手順を行います。

① ［スタート］をクリックし、表示された画面内の［マイコンピュータ］を右クリックします。

② 表示されたメニューの［プロパティ］をクリックします。



2　［ハードウェア］タブ、続けて［デバイスマネージャ］ボタンをクリックします。



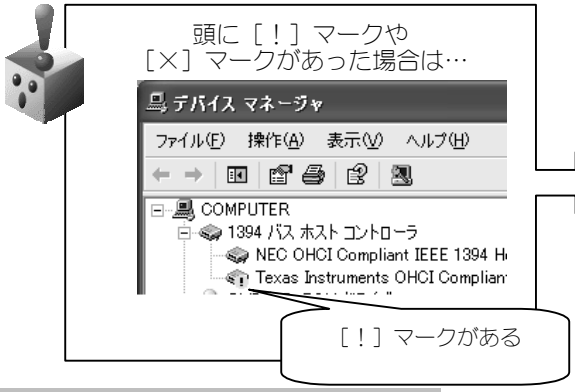
3　[1394バスホストコントローラ] をダブルクリックし、[Texas Instruments OHCI Compliant IEEE 1394 Host Controller] が登録（表示）されていることを確認してください。



［1394 バスホストコントローラ］が見当たらない場合は…

取り付けに問題がないか確認してください。（23 ページ）また、取り付けるカードスロットをかえてみてください。

4　[Texas Instruments OHCI Compliant IEEE 1394 Host Controller] の頭に［！］マークや［×］マークがないことも確認してください。



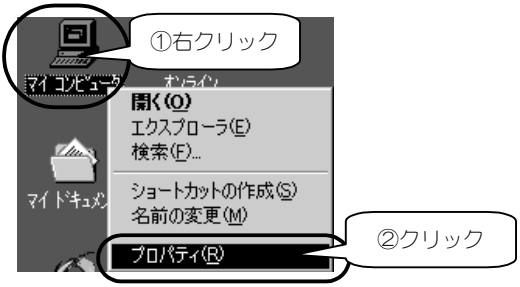
リソースの競合の可能性があります。GV-DVC3/CB 取扱説明書（別冊）71 ページの【リソースの変更方法】を参照してください。

インストールが正常ならば

36ページ【『DVworks』をインストールする】へお進みください。

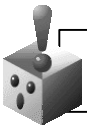
Windows Me/98 SEの場合

1　**［マイコンピュータ］を右クリックし、メニュー内の［プロパティ］をクリックします。**



2　**［デバイスマネージャ］タブをクリックし、［種類別に表示］で［1394 バスコントローラ］をダブルクリックします。**

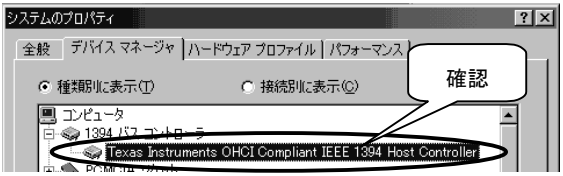




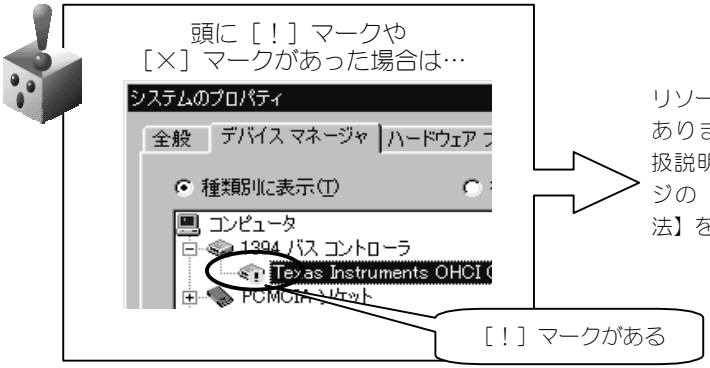
［1394 バスコントローラ］が見当たらない場合は…

取り付けに問題がないか確認してください。
（23 ページ）また、取り付けるカードスロットをかえてみてください。

3　[Texas Instruments OHCI Compliant IEEE 1394 Host Controller]が表示されていることを確認してください。



4　[Texas Instruments OHCI Compliant IEEE 1394 Host Controller]の頭に［！］マークや［×］マークがないことも確認してください。



リソースの競合の可能性があります。GV-DVC3/CB 取扱説明書（別冊）71 ページの【リソースの変更方法】を参照してください。

インストールが正常ならば

次ページ【『DVworks』をインストールする】へお進みください。

4 『DVworks（デーブイ　ワークス）』をインストールする

本製品には、DV機器のテープなどのメディアの映像をディスプレイ上に再生、キャプチャするためのソフトウェア『DVworks』が添付されています。
ここでは、『DVworks』のインストール方法について説明します。
（『DVworks』の使用方法については【ステップ2】61ページ以降で説明します。）
本書はWindows 98 SEの画面で説明していますが、特に明記のない限り、どのOSでも、インストール方法は同じです。

注意

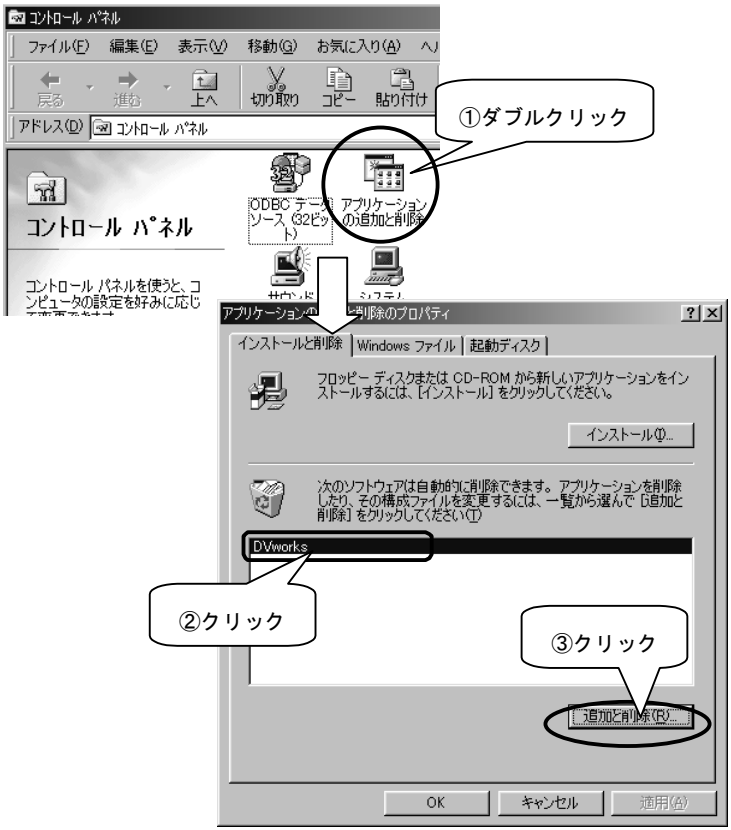
- **『DVworks』のインストール時には、DV機器は接続しないでください。接続している場合は、いったん取り外してください。本製品のみパソコンに取り付けておいてください（本製品を取り付けていないと『DVworks』をインストールできません）。**
- **旧バージョンの『DVworks』をお使いの場合は、アンインストールしてから、本製品添付のバージョンをインストールしてください。（手順については次ページ参照）**
- **Windows XP をお使いの場合はコンピュータの管理者のアカウントで、Windows 2000 をお使いの場合は Administrator 権限で、ログオンしてから『DVworks』をインストールしてください。**
- **Windows 98 SE で IEEE 1394 対応のストレージ機器を本製品に接続してご使用になる場合、OS 自体のアップデートが必要です。アップデートは、「DVworks」インストール時に行われますので、「DVworks」は必ずインストールしてください（38 ページ参照）。**

参考

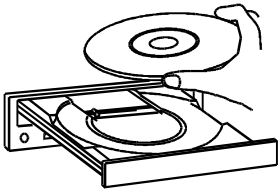
旧バージョンの「DVworks」をアンインストールする

以前のバージョンの「DVworks」をインストールしていない場合は、この作業は必要ありません。

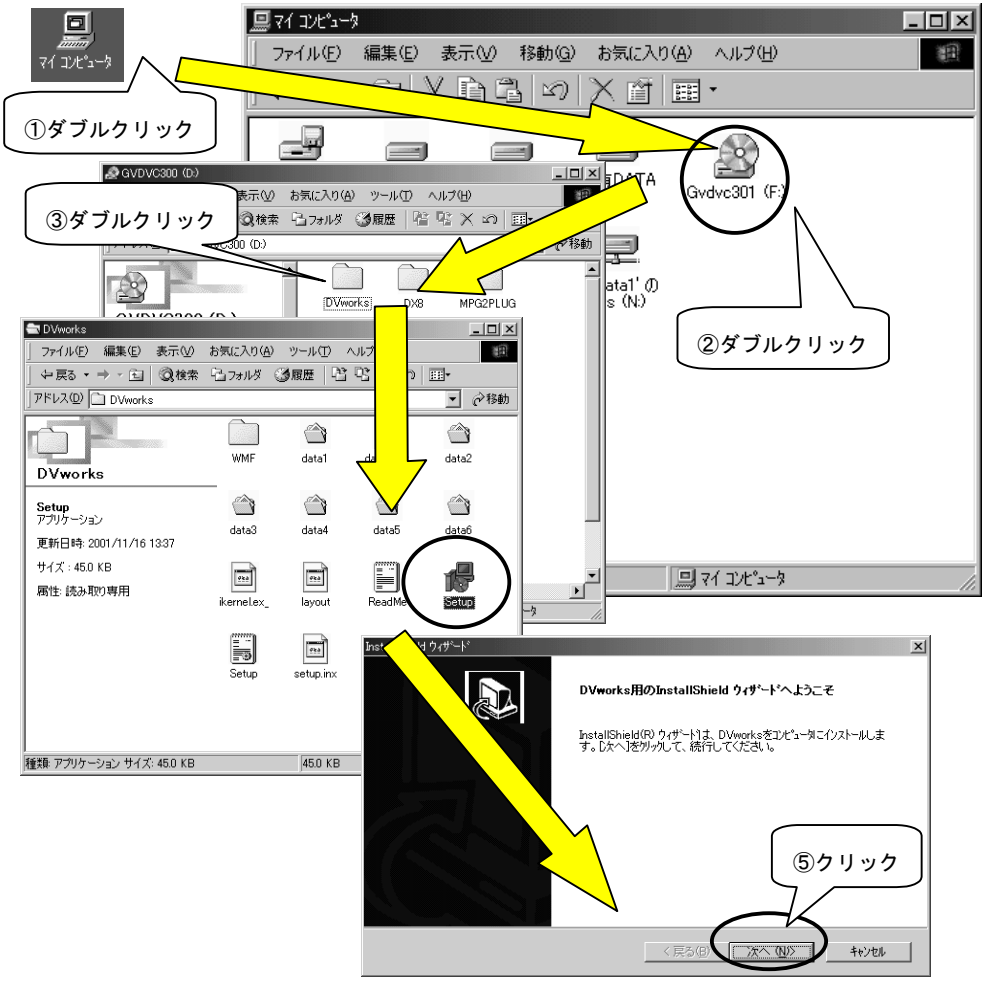
① [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順にクリックし、[アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。
② 表示されている[DVworks]をクリックします。
③ [追加と削除] をクリックします。
(Windows XP/2000の場合は[プログラムの変更と削除]をクリック)
後は画面の指示に従ってください。



1 **サポートソフトディスクをCD-ROMドライブにセットします。**



2 **[マイコンピュータ]→[CD-ROMドライブ]→[DVworks]→[Setup]を順にダブルクリックし、画面の指示に従って操作を進めます。**



参考

Windows XPで使用する場合、下の画面が表示される場合がありますが、動作には問題ありません。
［OK］ボタンをクリックして、作業を進めてください。

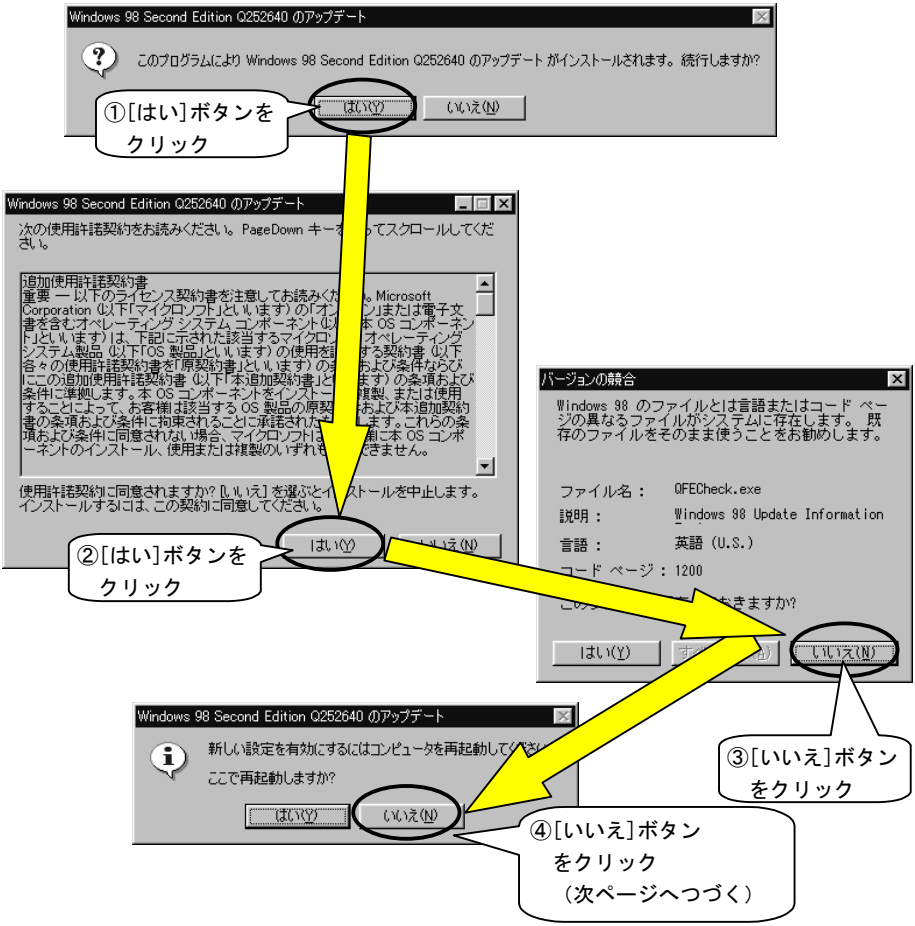


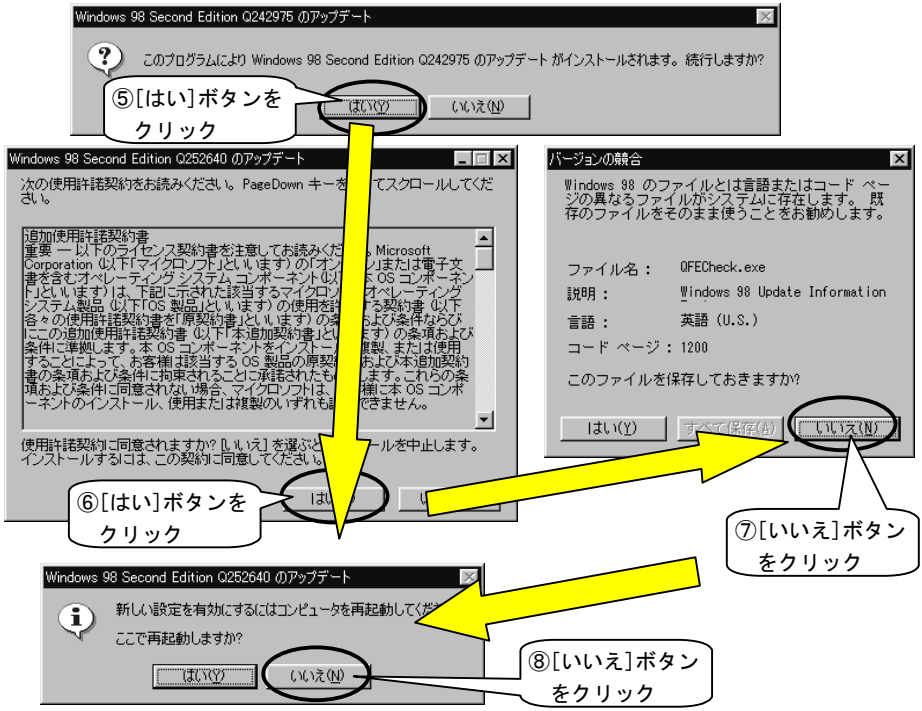
3　以下の画面が表示されたら[OK]ボタンをクリックします。



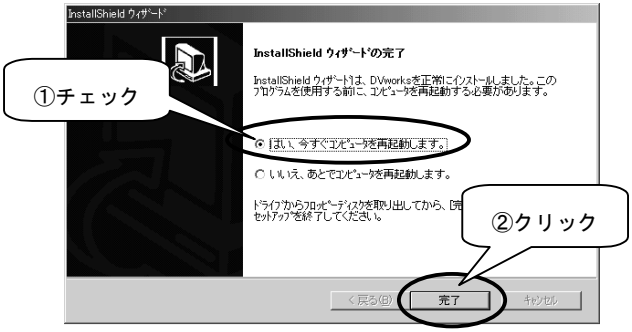
Windows 98 SEの場合は引き続き以下の作業を行います。
この作業はWindows 98 SEをアップデートするためのものです。
その他のOSの場合は、手順4へ進みます。

4　『DVworks』をインストールする





4　セットアップの完了画面で［はい、直ちにコンピュータを…］をチェックし、［完了］ボタンをクリックします。



5　パソコンが再起動します。

以上で『DVworks』のインストールは終了です。
この後、【MediaStudio Proをインストールする】（次ページ）へお進みください。

5 『MediaStudio Pro』をインストールする

本製品には、ビデオクリップ（「動画ファイル」、「AVIファイル」ともいう）のカット編集や特殊効果、タイトル編集、BGM追加などを行って、楽しいビデオ作品を作るためのソフトウェア『Ulead MediaStudio Pro 6.0 Basic VE with Power up kit』が添付されています。
ここでは、『MediaStudio Pro』のインストール方法について説明します。
（『MediaStudio Pro』の使用方法については【ステップ４】131ページ以降で説明します。）
本書はWindows 2000の画面で説明していますが、特に明記のない限り、どのOSでもインストール方法は同じです。

注意

- **Windows XP をお使いの場合はコンピュータの管理者のアカウントで、Windows 2000 をお使いの場合は Administrator 権限で、ログオンしてから『MediaStudio Pro』のインストールを行ってください。**
- **『MediaStudio Pro』は、弊社でのサポートはいたしておりません。お問い合わせなどについては、下記を参照してください。**

MediaStudio Proのお問い合わせ先

ユーリードシステムズ株式会社　ユーザーサポート窓口

TEL　03-5491-5662

受付時間：月～金曜日 10：00～12:00　13:00～17:00

（特定休業日、祝祭日を除く）

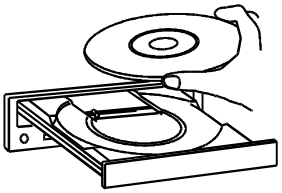
サポートE-mail　support@ulead.co.jp

ホームページ　http://www.ulead.co.jp

住所　〒158-0097　東京都世田谷区用賀4-5-16　ＴＥビル

「MediaStudio Pro」をインストールする

1 **サービス添付の『Ulead MediaStudio Pro』ディスクをCD-ROMドライブにセットします。**



2 **しばらくして下記の画面が表示されたら、[MediaStudio Pro 6 VE Basicパワーアップキット]をクリックします。**



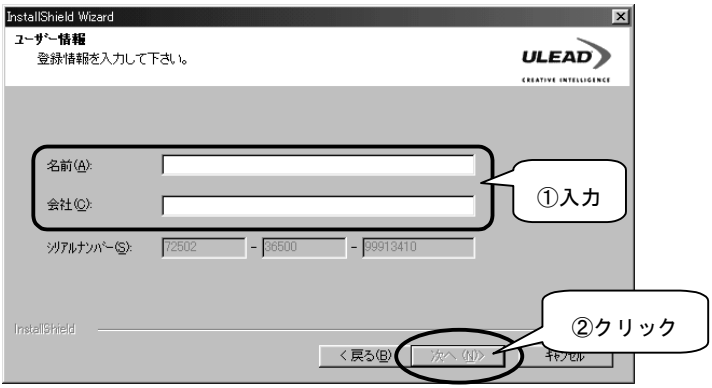
この画面が表示されない場合は

［マイコンピュータ］を開き、CD-ROMドライブアイコンをダブルクリックします。表示された[SETUP]アイコンをダブルクリックしてください。

3 画面の指示に従って操作を進めます。

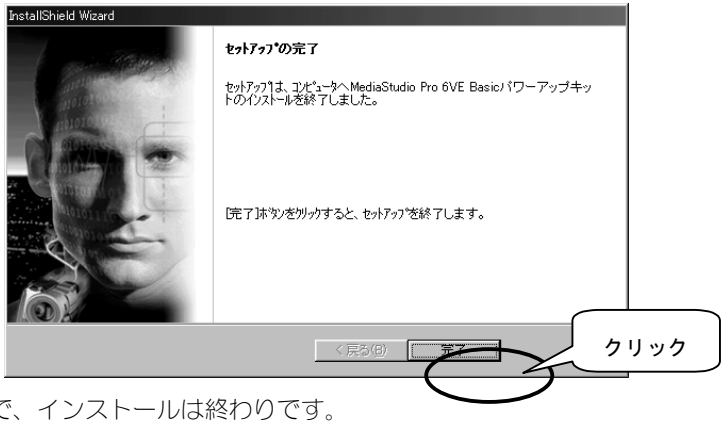


4 以下の画面で[名前]、[会社]を入力後、[次へ]ボタンをクリックし、画面の指示に従って操作を進めます。



5　以下の画面で[完了]ボタンをクリックします。

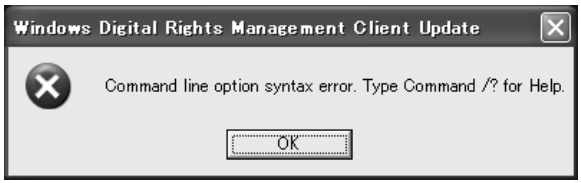
この後、ご使用の環境を自動的に判断して必要なソフトウェアのインストールを行いますので、さらに画面の指示に従って処理を進めてください。



これで、インストールは終わりです。
各機能の詳細についてはヘルプや添付のマニュアルを参照ください。
次に、「Panasonic DS MPEG PlugIn for Ulead」をインストールします。
次ページへ進んでください。

参考

Windows XPで使用する場合、下の画面が表示される場合がありますが、問題ありません。
この画面が表示されても、動作には問題ありません。
[OK] ボタンをクリックして、作業を進めてください。





Panasonic DS MPEG PlugIn for Uleadを インストールする

「Panasonic DS MPEG PlugIn for Ulead」は添付のビデオ編集ソフト「Ulead MediaStudio Pro 6.0 Basic VE with Power up kit」にMPEGファイルの編集機能・エンコード機能を追加するプラグインソフトウェアです。DVworksやD-VHS Capを使ってキャプチャしたMPEGファイルをメディアプレーヤー上で再生したり編集する際は、必ずインストールしてください。
MPEGファイルの保存・編集方法は133ページをご参照ください。

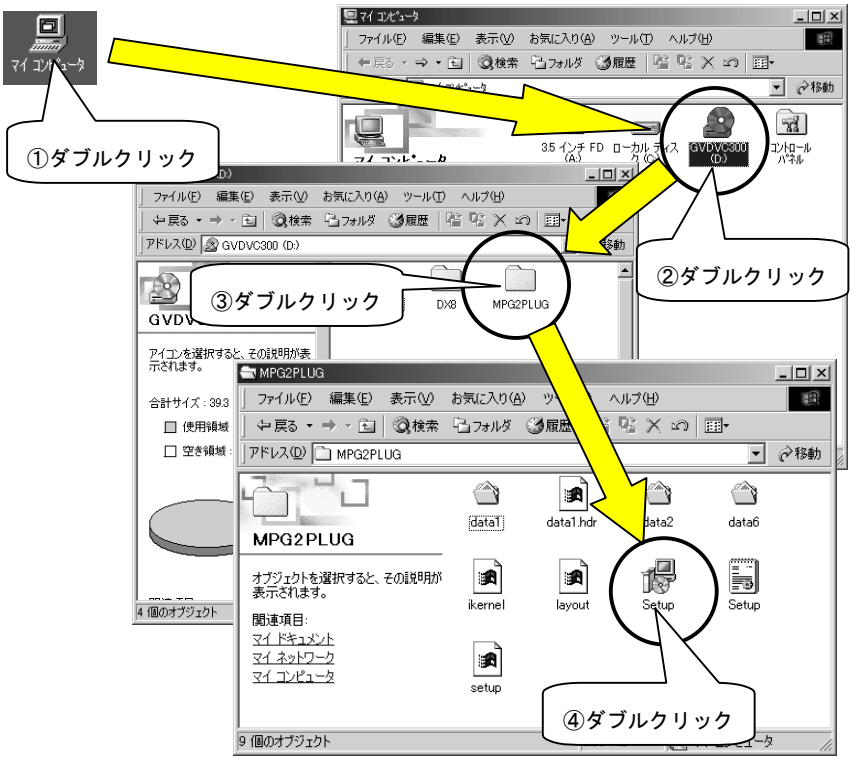
※「Panasonic DS MPEG PlugIn for Ulead」に関するお問い合わせは弊社サポートセンターにてお受けしております。175ページを参照して弊社サポートセンターにお問い合わせください。

注意

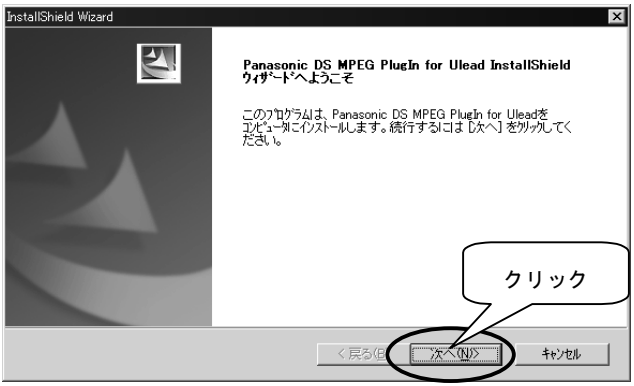
- **「DVworks」で作成したMPEG-2ファイルの再生には、「Panasonic DS MPEG PlugIn for Ulead」のインストールが必要です。**
- **キャプチャしたMPEG-2ファイルを他のパソコンで再生する場合は、そのパソコンにもDVD再生ソフト等のMPEG-2再生ソフトをインストールする必要があります。**

1　サポートソフトディスクをCD-ROMドライブにセットします。

2 [マイコンピュータ]→[CD-ROMドライブ]→[MPEG2PLUG]→[Setup]を順にダブルクリックします。

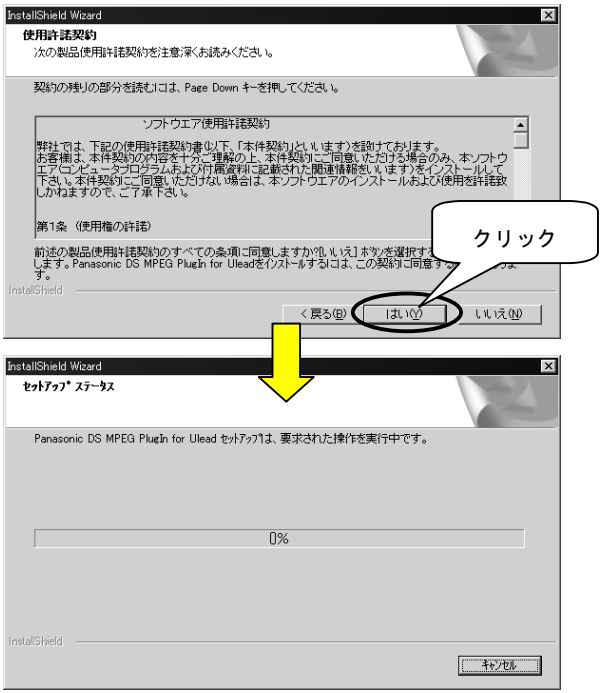


3 [次へ]ボタンをクリックします。

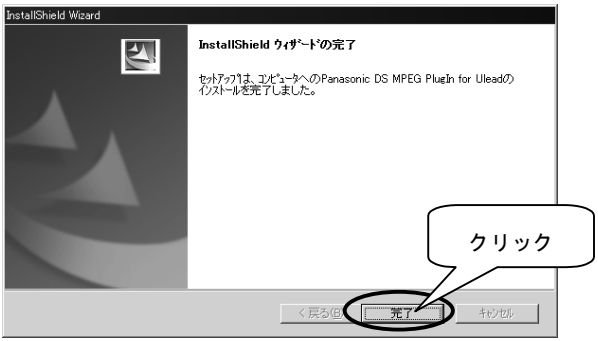


4 [はい]ボタンをクリックします。

ファイルのコピーがはじまります。



5 [完了]ボタンをクリックします。



これで、インストールは終わりです。

次は、パソコンにDV機器を接続して動画をパソコンへ取り込んでみましょう。

【ステップ2】61ページへ進んでください。

6 OS上で本PCカードを取り外す方法

Windows XP、Windows Me、Windows 2000およびWindows 98 SEを使用中でも本PCカードを取り外すことができます。

・Windows XPの場合は次ページを参照してください。
・Windows Me/2000の場合は53ページを参照してください。
・Windows 98 SEの場合は56ページを参照してください。

注意

・ここでの手順および画面は、本PCカードを取り外す場合の手順について説明しています。
DV機器を接続した後の取り外し手順については72ページを、また、1394対応のストレージ機器を接続した後の取り外し手順については161ページを参照してください。
・本PCカードに1394機器を接続したまま、次ページ以降の手順を行うと、接続している機器の停止も自動的に行われ、機器の操作もできなくなります。
・次ページ以降の終了手順後、再度使用したい場合は、パソコンの電源が入っている状態のままで、本PCカードを挿入して使用できます。
1394機器を接続する際は、本PCカードのみを先に接続しから接続してください。必ず1394機器の電源が入っていることを確認してから接続してください。

Windows XPの場合

Windows XPを使用中でも本PCカードを取り外すことができます。
ただし取り外す際には、必ず以下または次ページのどちらかの終了手順を行ってください。

注意

終了手順を行わずに本PCカードをPCカードスロットから取り外すと、予期しない障害が発生する可能性があります。

終了手順ーその１

1　タスクトレイのリムーバブルツールアイコンをクリックして、[Texas Instruments OHCI ‥‥を停止します]をクリックします。



2　[×]ボタンをクリックします。



「取り外しができません」というようなメッセージが表示された場合は…

GV-DVC3/CB 取扱説明書（別冊）69 ページ「ストレージ機器接続時」をご参照ください。

１分以上待っても上記のメッセージが表示されない場合は…

GV-DVC3/CB 取扱説明書（別冊）69 ページ「ストレージ機器接続時」をご参照ください。

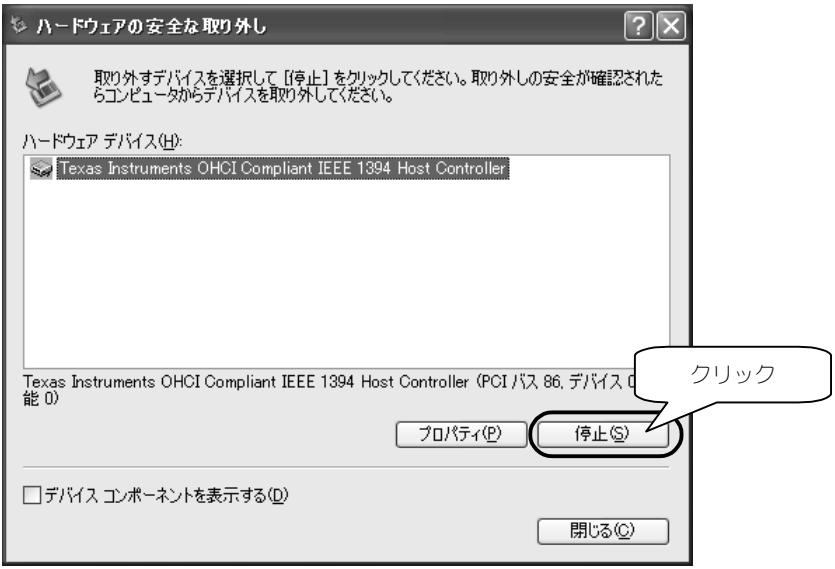
3　**本PCカードをPCカードスロットから取り外します。**

終了手順ーその2

1　**タスクトレイのリムーバブルツールアイコンをダブルクリックします。**



2　**[Texas Instruments OHCI ‥‥] をクリックし、[停止] ボタンをクリックします。**



3　[Texas Instruments OHCI ····]をクリックし、[OK]ボタンをクリックします。



4　[×]ボタンをクリックします。





「取り外しができません」というようなメッセージが表示された場合は…

GV-DVC3/CB 取扱説明書（別冊）69 ページ「ストレージ機器接続時」をご参照ください。



1 分以上待っても上記のメッセージが表示されない場合は…

GV-DVC3/CB 取扱説明書（別冊）69 ページ「ストレージ機器接続時」をご参照ください。

5　本PCカードをPCカードスロットから取り外します。

Windows Me/2000の場合

Windows Me/2000を使用中でも本PCカードを取り外すことができます。
ただし取り外す際には、必ず以下または次ページのどちらかの終了手順を行ってください。

注意

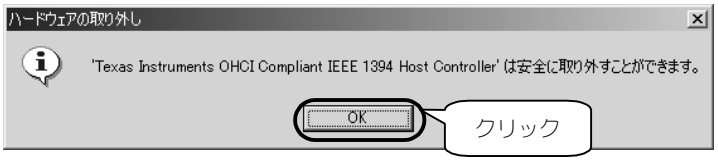
終了手順を行わずに本PCカードをPCカードスロットから取り外すと、予期しない障害が発生する可能性があります。

終了手順ーその１

1　タスクトレイのリムーバブルツールアイコンをクリックして、[Texas Instruments OHCI ‥‥を停止します]をクリックします。



2　[OK] ボタンをクリックします。





「取り外しができません」というようなメッセージが表示された場合は…

GV-DVC3/CB 取扱説明書（別冊）69 ページ「ストレージ機器接続時」をご参照ください。



１分以上待っても上記のメッセージが表示されない場合は…

GV-DVC3/CB 取扱説明書（別冊）69 ページ「ストレージ機器接続時」をご参照ください。

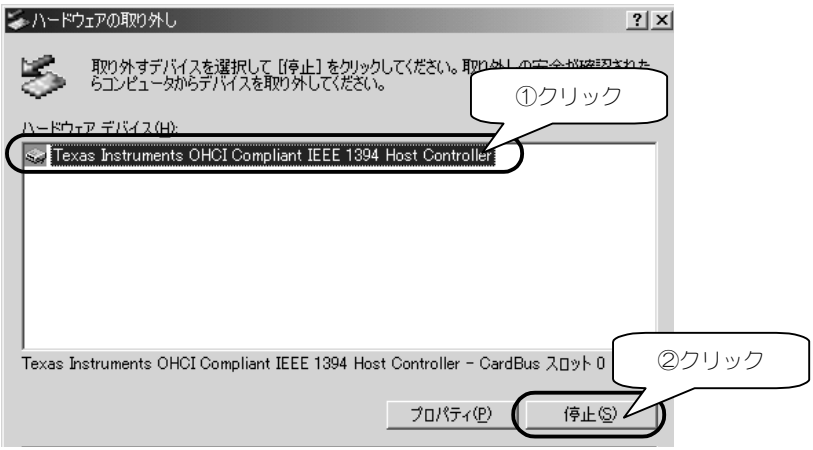
3　**本PCカードをPCカードスロットから取り外します。**

終了手順ーその2

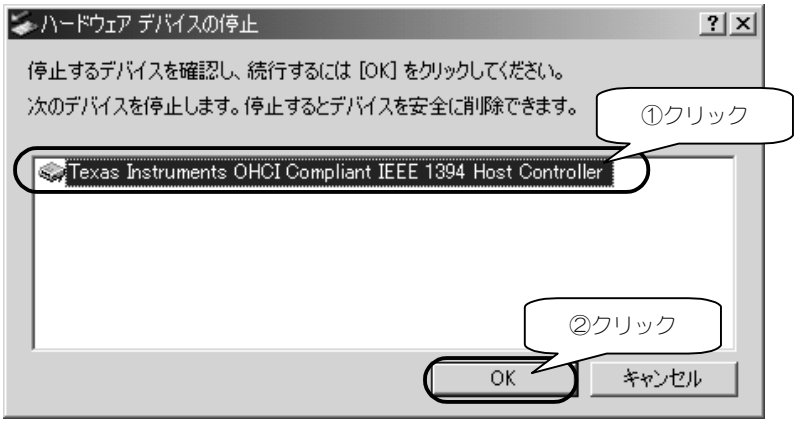
1　**タスクトレイのリムーバブルツールアイコンをダブルクリックします。**



2　**[Texas Instruments OHCI ‥‥] をクリックし、[停止] ボタンをクリックします。**

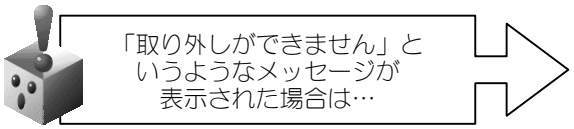


3　[Texas Instruments OHCI ・・・・]をクリックし、[OK]ボタンをクリックします。

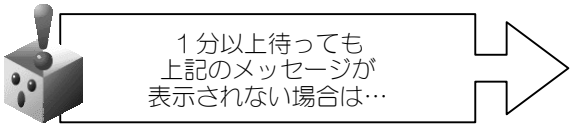


4　[OK]ボタンをクリックします。





GV-DVC3/CB 取扱説明書（別冊）69 ページ「ストレージ機器接続時」をご参照ください。



GV-DVC3/CB 取扱説明書（別冊）69 ページ「ストレージ機器接続時」をご参照ください。

5　本PCカードをPCカードスロットから取り外します。

Windows 98 SEの場合

Windows 98 SEを使用中でも本PCカードを取り外すことができます。
ただし取り外す際には、必ず次ページまたは58ページのどちらかの終了手順を行ってください。

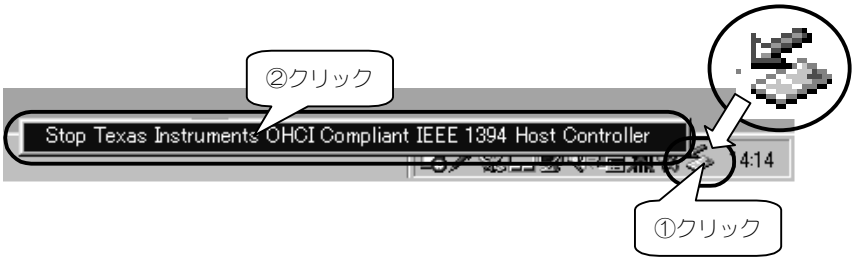
注意

終了手順を行わずに本PCカードをPCカードスロットから取り外すと、予期しない障害が発生する可能性があります。

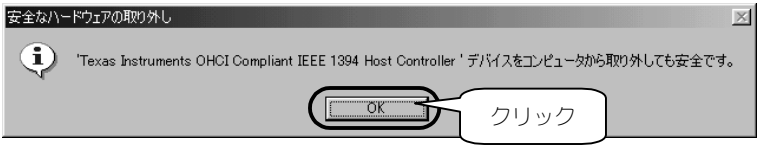


終了手順ーその１

1　タスクトレイのPCカードアイコンをクリックして、[Stop Texas Instruments OHCI ····]をクリックします。



2　[OK] ボタンをクリックします。





「取り外しができません」というようなメッセージが表示された場合は…

GV-DVC3/CB 取扱説明書（別冊）69 ページ「ストレージ機器接続時」をご参照ください。



１分以上待っても上記のメッセージが表示されない場合は…

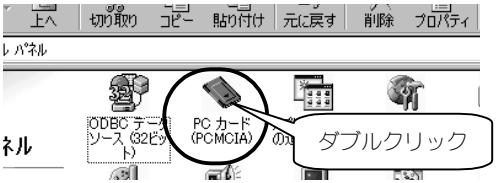
GV-DVC3/CB 取扱説明書（別冊）69 ページ「ストレージ機器接続時」をご参照ください。

3　本PCカードをPCカードスロットから取り外します。

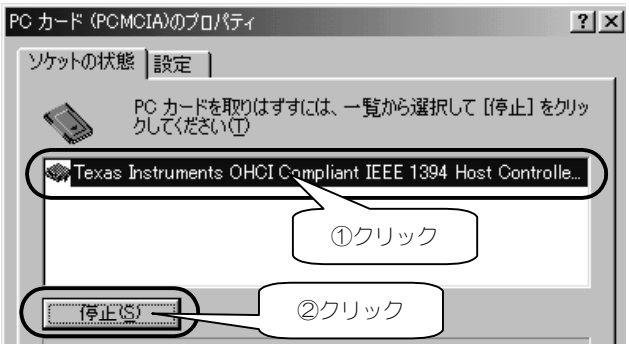
終了手順ーその２

1　**[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順にクリックします。**

2　**[PCカード(PCMCIA)] アイコンをダブルクリックします。**



3　**[Texas Instruments OHCI ‥‥] をクリックし、[停止] ボタンをクリックします。**



4　**[OK]ボタンをクリックします。**





「取り外しができません」というようなメッセージが表示された場合は…

GV-DVC3/CB 取扱説明書（別冊）69 ページ「ストレージ機器接続時」をご参照ください。



1 分以上待っても上記のメッセージが表示されない場合は…

GV-DVC3/CB 取扱説明書（別冊）69 ページ「ストレージ機器接続時」をご参照ください。

5　本PCカードをPCカードスロットから取り外します。

MEMO

ステップ2

映像のキャプチャ＆書き戻し（DV機器編）

1 DV機器を接続しよう

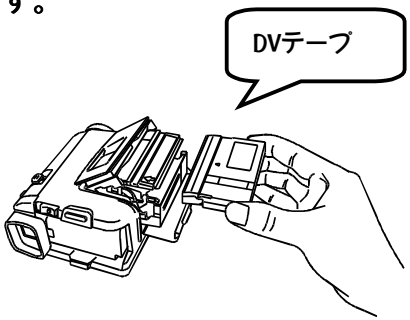
DV機器を接続する

本製品にDV機器を接続します。

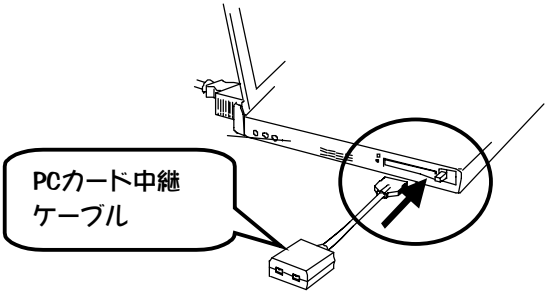
1 **お使いのDV機器の電源を入れ、DV機器を「ビデオ（再生）モード」に設定します。**

DV機器の操作については、各DV機器の取扱説明書を参照してください。

2 **DV機器に録画済みのDVテープなどのメディアを挿入します。**



3 **本製品に「PCカード中継ケーブル」を接続します。**
※ケーブルの向きに注意して接続してください。

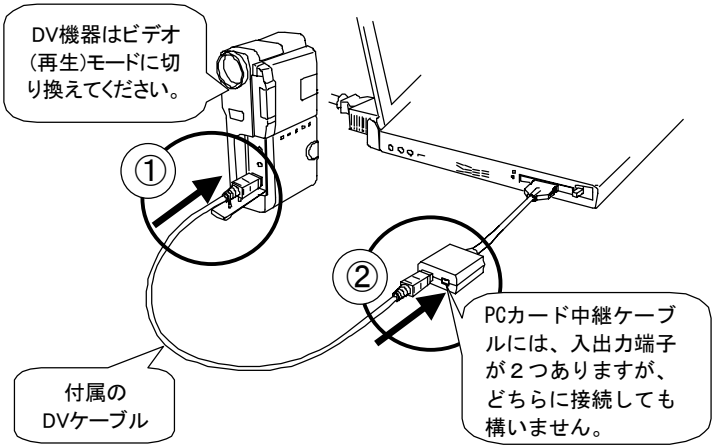


4　DV機器と本製品を付属のケーブルで接続します。

① DV機器にあるDV(i.LINK)端子に付属の「DVケーブル」を接続します。

DV機器側のDV端子の位置については、各DV機器の取扱説明書を参照してください。

② DVケーブルのもう一方を「PCカード中継ケーブル」に接続します。



※同時に2つのDV機器は制御できません。

5　接続すると、パソコンがDV機器を自動認識します。

- **Windows XP、Windows Me、Windows 2000をお使いの場合**
  自動的にドライバをインストールします。
- **Windows 98 Second Editionをお使いの場合**
  Windows 98 Second EditionのCD-ROMディスクが要求されます。28ページの手順 *7*、*8* を参照して処理を進めてください。

次は、接続したDV機器が正しく認識されたかどうかを確認します。
ご使用のOSによって、必要なページをお読みください。

- **Windows XPの場合:次ページ**
- **Windows 2000の場合:66ページ**
- **Windows Meの場合:68ページ**
- **Windows 98 Second Editionの場合:70ページ**

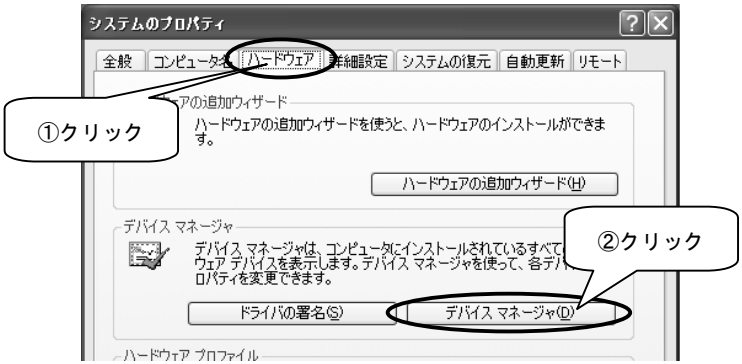
確認しよう（Windows XP編）

DV機器が正常に接続されたかどうかを確認します。

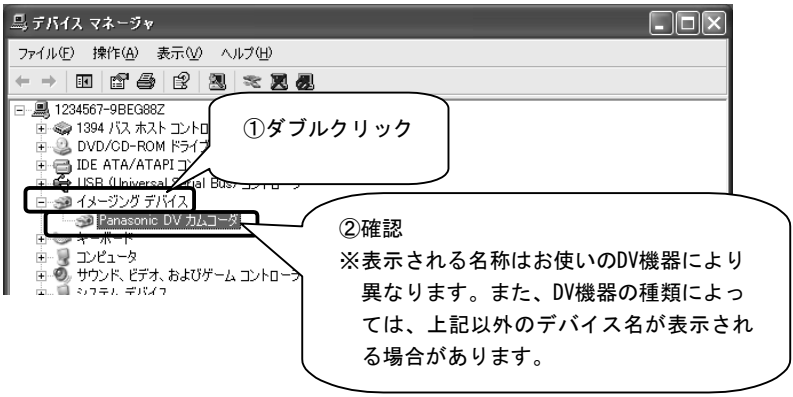
1　**[スタート]をクリックし、[マイコンピュータ]を右クリックします。表示された［プロパティ］をクリックします。**



2　**[ハードウェア]タブをクリックし、[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。**



3　[イメージングデバイス]をダブルクリックして、[Panasonic DV カムコーダ]など、お使いのDV機器名が表示されていれば、正常に接続されています。



「イメージングデバイス」の表示が無い場合

・ケーブルを一度抜き差ししてみてください。
・ケーブルがしっかり差し込まれていることを確認してください。
・DV機器の電源が入っているか確認してください。
・パソコンの電源を切り、本製品を別のカードスロットに挿入し直してみてください。

「Digital VCR」と表示されている場合は

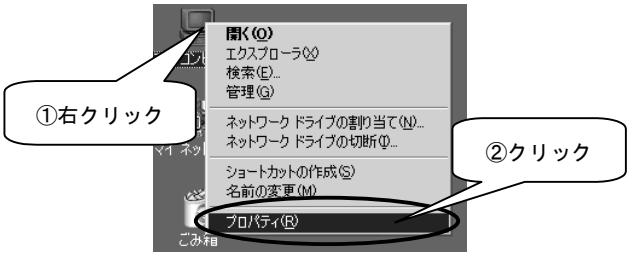
誤認識されています。
[Digital VCR]を選択後、[削除]ボタンをクリックします。その後で、ケーブルを抜き差しして、DV機器を再認識させてください。

以上で、接続の確認は終了です。
「DV機器をパソコン上から操作してみよう」73ページへ進んでください。『DVworks』でDV機器を操作してみましょう。

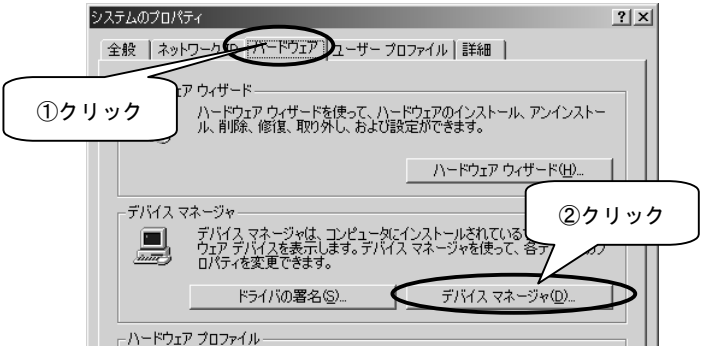
確認しよう（Windows 2000編）

DV機器が正常に接続されたかどうかを確認します。

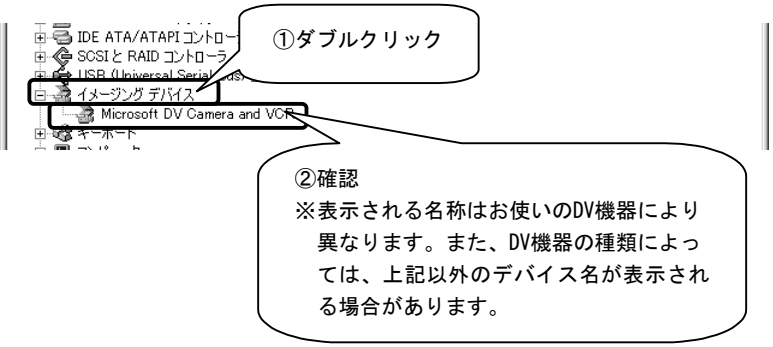
1　**[マイコンピュータ]を右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。**



2　**[ハードウェア]タブをクリックし、[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。**



3 **[イメージングデバイス]をダブルクリックして、[Microsoft DV Camera and VCR]が表示されていれば、正常に接続されています。**



「イメージングデバイス」の表示が無い場合

・ケーブルを一度抜き差ししてみてください。
・ケーブルがしっかり差し込まれていることを確認してください。
・DV機器の電源が入っているか確認してください。
・パソコンの電源を切り、本製品を別のカードスロットに挿入し直してみてください。

「Digital VCR」と表示されている場合は

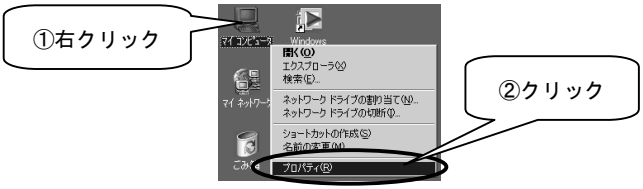
イメージングデバイスが誤認識されています。
[Microsoft DV Camera and VCR]を選択後、[削除]ボタンをクリックします。
その後で、ケーブルを抜き差しして、DV機器を再認識させてください。

以上で、接続の確認は終了です。
「DV機器をパソコン上から操作してみよう」73ページへ進んでください。**『DVworks』でDV機器を操作してみましょう。**

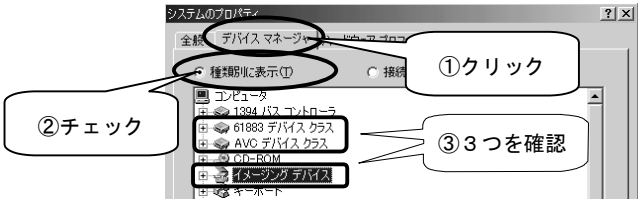
確認しよう（Windows Me編）

DV機器が正常に接続されたかを確認します。

1　**[マイコンピュータ]を右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。**



2　**[デバイスマネージャ]タブをクリックし、[種類別に表示]をチェックします。**
[61883デバイスクラス]、[AVCデバイスクラス]、[イメージングデバイス]の３つが表示されていることを確認します。

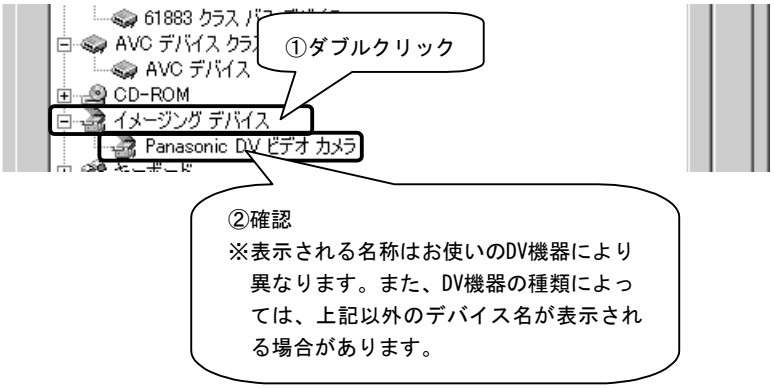


３つのデバイスが表示されない場合

・ケーブルを一度抜き差ししてみてください。
・ケーブルがしっかり差し込まれていることを確認してください。
・DV機器の電源が入っているか確認してください。
・パソコンの電源を切り、本製品を別のカードスロットに挿入してください。

3 [イメージングデバイス]をダブルクリックして、お使いのDV機器が表示されていれば正常に認識されています。

[イメージングデバイス]の他にも[不明なデバイス]が表示される場合がありますが、ご使用上の問題はありません。（表示される名称はお使いのDV機器により異なります。）

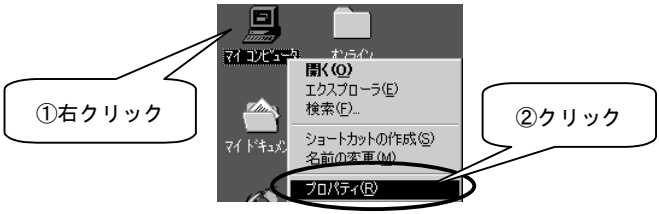


以上で、接続の確認は終了です。
次に「DV機器をパソコン上から操作してみよう」73ページへ進んでください。『DVworks』でDV機器を操作してみましょう。

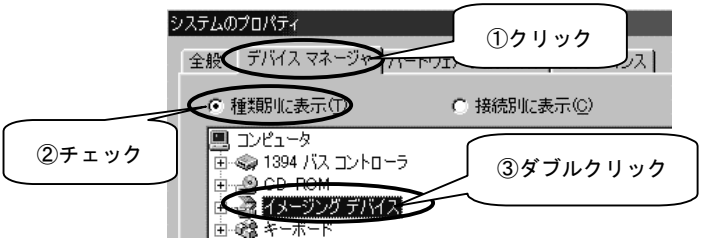
確認しよう（Windows 98 SE編 ）

DV機器が正常に接続されたかを確認します。

1　**[マイコンピュータ]を右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。**



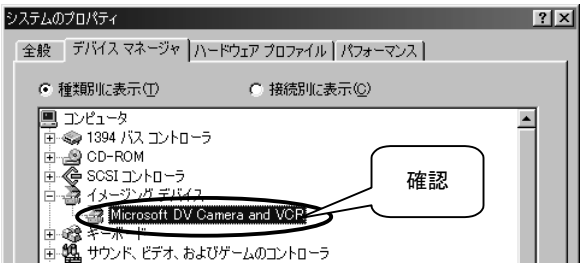
2　**[デバイスマネージャ]タブをクリックし、[種類別に表示]をチェックします。**
[イメージングデバイス]をダブルクリックします。



「イメージングデバイス」の表示が無い場合

・ケーブルを一度抜き差ししてみてください。
・ケーブルがしっかり差し込まれていることを確認してください。
・DV機器の電源が入っているか確認してください。
・パソコンの電源を切り、本製品を別のカードスロットに挿入し直してみてください。

3　**[Microsoft DV Camera and VCR]が表示されていれば正常に接続されています。**



「Digital VCR」と表示されている場合は

誤認識されています。
[Digital VCR]を選択後、[削除]ボタンをクリックします。その後で、ケーブルを抜き差しして、DV機器を再認識させてください。

以上で、接続の確認は終了です。
次に「DV機器をパソコン上から操作してみよう」73ページへ進んでください。『DVworks』でDV機器を操作してみましょう。

DV機器を取り外す

DV機器を取り外す場合は、以下の手順で取り外してください。

1　本PCカードに接続しているケーブルから取り外します。

注意

- **パソコンの電源が入っている状態でも取り外せます。**
- **取り外す際には、必ずケーブルのコネクタを持って取り外してください。ケーブルを持って取り外さないでください。**
- **DV機器が動作していないこと（再生等を行っていないこと）を確認した上で取り外してください。**
- **DV機器を操作するアプリケーション（添付のDVworks, Media Studio等）を終了してから取り外してください。**
- **DV機器を含む複数の1394機器を接続している場合は、他の機器が動作している時に、動作していない機器のケーブルを取り外したり、電源を切ることはおやめください。**

参考

DV機器の電源を切ってから取り外すこともできます。

2　ケーブル取り外し後、DV機器の電源を切ってください。

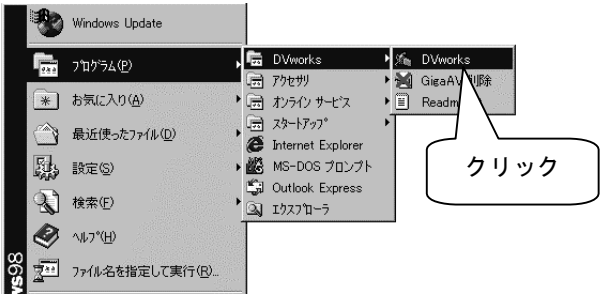
2 DV機器をパソコン上から操作してみよう

『DVworks』を起動する

インストールした『DVworks』を起動してみましょう。
本書ではWindows 98 SEの画面で説明しますが、特に明記のない限り、どのOSでも操作は同じです。

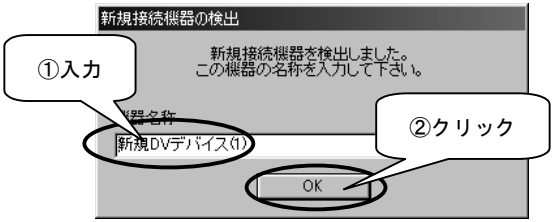
1 [スタート]→[プログラム]※→[DVworks]→[DVworks]を順にクリックします。

※ Windows XPの場合は[すべてのプログラム]



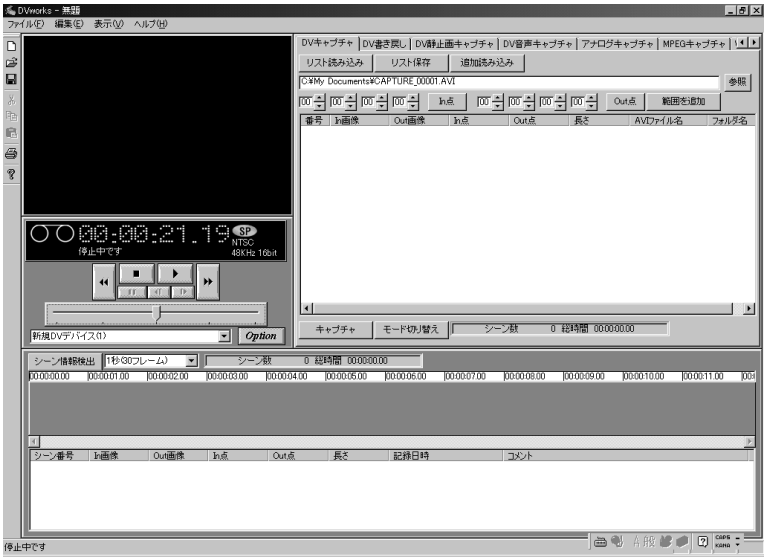
2 以下の画面が表示されます。[機器名称]を入力後、[OK]ボタンをクリックします。

はじめてDVworksがDV機器を認識した場合、以下の画面が表示されます。
DVworksに登録するDV機器の名称（任意）を入力してください。
以後、登録した名前でDVworksはそのDV機器をコントロールします。
一度登録すると、次回からは表示されません。
また、別のDV機器を接続した場合も以下の画面が表示されます。



3　以下の画面が表示されます。

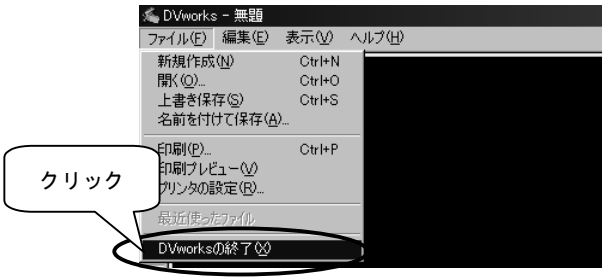
ウィンドウは、起動時にディスプレイー杯に表示されます。
（以下の画面は、画面解像度1024x768時のレイアウトです。）



参考

DVworksは起動時にウィンドウを最大化表示します。ウィンドウは、DVworks起動時のディスプレイ解像度とユーザーの指定したプレビューウィンドウサイズに応じて変化します（プレビューウィンドウサイズの指定方法はGV-DVC3/CB取扱説明書（別冊）6ページ参照）。

4　[ファイル]メニューの[DVworksの終了]をクリックすると、DVworksが終了します。



『DVworks』の画面構成

『DVworks』の画面は、以下の６つの部分から構成されています。



各部の詳細については、GV-DVC3/CB取扱説明書（別冊）の5ページをご覧ください。

No	項目	説明
①	メニュー	メニューを表示します。プレビューウィンドウの横のツールバーにはよく使うアイコンが並んでいます。
②	プレビューウィンドウ	DV機器からの映像や書き戻し時の映像など、プレビュー表示が行われるウィンドウです。
③	情報表示パネル	DV機器・メディアに関する情報を表示するパネルです。
④	コントロールウィンドウ	DV機器をコントロールするためのボタンが配置されているウィンドウです。ウィンドウサイズは一定の大きさに固定されています。
⑤	ファンクションパネル	DVworksの各種機能に関する操作を行うためのパネルです。
⑥	メディアビュー	DVメディアの内容をシーン毎に情報表示する領域です。 ※シーンとは、撮影時に録画ボタンのONからOFFにするまで記録される映像のことです。

『DVworks』でDV機器の接続を確認する

『DVworks』がDV機器を正常に認識しているか、「③情報表示パネル」で確認しましょう。（表示についての詳細は、GV-DVC3/CB取扱説明書（別冊）9ページ【情報表示パネル】参照）

正常に認識されている場合の表示例



エラー表示例

「DV機器を検索中です」と表示されたままとなっている場合



対処

DV機器の電源が入っているか、ビデオ(再生)モードになっているか確認し、ケーブルを一度抜き差ししてみてください。

「メディアが挿入されていません」と表示されている場合



対処

DVメディアが入っていることを確認してください。

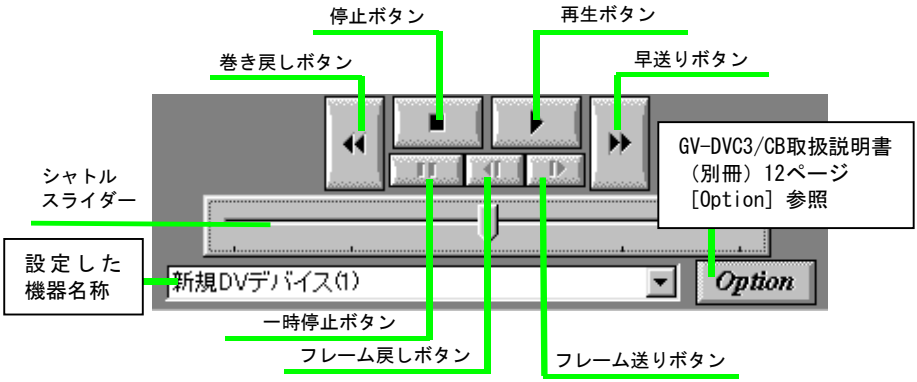
『DVworks』でDV機器を操作する

（再生・停止・早送り・巻き戻し・一時停止・フレーム送り・フレーム戻し・シャトルスライダー）

ここでは、[コントロールウィンドウ]の基本的な操作を行います。

注意

- **お使いのDV機器により、コントロールできる機能に一部制限があります。**
- **［逆再生］ボタンはありません。**
- **ドロップフレーム表示の場合は、フレーム番号が一部抜ける場合があります。**



再生（ ▶ ボタン）

▶ をクリックすると、DV機器側で再生が始まり、しばらくすると[プレビューウィンドウ]に映像が表示されます。

停止（ ■ ボタン）・一時停止（ ⏸ ボタン）

■ をクリックすると、再生・早送り・巻き戻し・フレーム送り・フレーム戻しを終了します。

⏸ をクリックすると、再生・早送り・巻き戻しを一時停止します。

早送り（ ボタン）・巻き戻し（ ボタン）

停止した状態で をクリックすると、DVメディアの早送りを行います。
停止した状態で をクリックすると、DVメディアの巻き戻しを行います。
再生状態でクリックすると、早送り再生・巻き戻し再生を行います。
一時停止状態でクリックすると、スロー再生・スロー逆再生を行います。

フレーム送り（ ボタン）・フレーム戻し（ ボタン）

または をクリックすると再生が一時停止します。
連続してフレーム操作（ ）をクリックすると、映像がフレーム単位（１コマ単位）でコマ送り・コマ戻しを行います。

シャトルスライダー

＜シャトル機能＞

中央が静止状態を表します。スライダー中央からつまみを右へ動かすほどDVメディア順方向への速度が大きくなります。スライダー中央からつまみを左へ動かすほどDVメディア逆方向への速度が大きくなります。

＜ジョグ機能＞

ホイールマウスを使用している場合には、ホイールを前に回すと１フレーム戻し、後ろに回すと１フレーム送りを行います。
（ジョグ機能の使い方は、次ページを参照してください。）

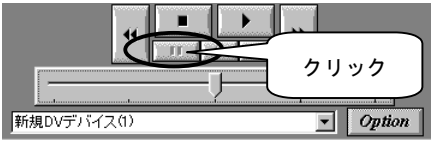
参考

ホイールマウスは、Microsoft製インテリマウスを推奨します。

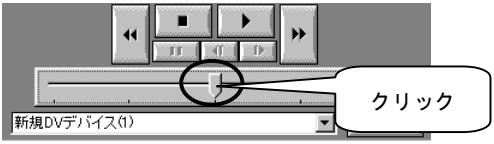
ジョグ機能の使い方

ホイールマウスを利用すれば、ホイールを転がすことで、フレーム送り・フレーム戻しの操作を行うことができます。

1　**（一時停止）をクリックし、映像を一時停止します。**



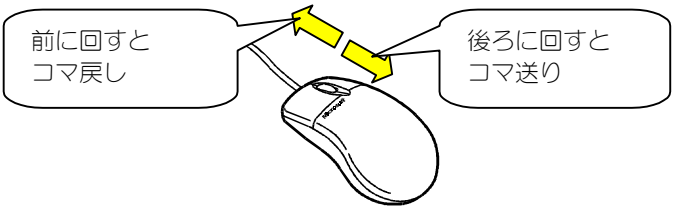
2　**シャトルスライダーのつまみをクリックします。**



3　**マウスのホイールを使ってコマ送り、コマ戻しができます。**

ホイールを前に回すと１フレーム、映像のコマ戻しを行います。

ホイールを後ろに回すと１フレーム、映像のコマ送りを行います。



3 ビデオ映像をキャプチャしよう

ここでは、DV機器にセットされているDVメディアの映像や音声を、パソコン上に取り込んで、ハードディスクに保存してみましょう。この作業を「キャプチャ」といい、『DVworks』では、AVI、MPEG-1/2、WMVの３種類のフォーマットで映像をキャプチャできます。また、音声だけをキャプチャしたり、静止画をキャプチャすることもできます。

- **AVI形式でキャプチャする場合：次ページ**
- **MPEG形式でキャプチャする場合：98ページ**
- **WMV形式でキャプチャする場合：102ページ**
- **音声だけをキャプチャする場合：104ページ**
- **静止画をキャプチャする場合：107ページ**

AVI形式でキャプチャする

キャプチャ後にAVIファイル、またはGigaAVIファイルが作成されます。
（GigaAVIファイルについては下の参考をご覧ください。）

方法	特徴	参照
シーン検出して一括キャプチャ	**『DVworks』がシーン（撮影時に録画ボタンをON/OFFした間の映像）を自動的に検出します。** キャプチャしたいシーンをすべて選んでおき、一括してキャプチャできます。こまめに録画ボタンをON/OFFして撮影した場合におすすめですが、録画ボタンを押したまま長時間撮影した映像には不向きです。	82ページ
タイムコードを指定して一括キャプチャ	**キャプチャしたい映像の開始・終了のタイムコードを指定します。** キャプチャしたい映像のタイムコードをすべて指定しておき、一括してキャプチャできます。キャプチャしたい範囲の大まかな時間がわかっている場合や、正確な位置でキャプチャしたい場合におすすめです。	91ページ
映像を見ながら随時キャプチャ	**映像を再生しながら好きな箇所をキャプチャします。** 複数箇所の一括キャプチャはできません。録画内容があいまいで確認しながらキャプチャしたい場合やテープの一部分だけをキャプチャしたい場合におすすめです。	95ページ

参考：キャプチャ後のAVIファイルサイズについて

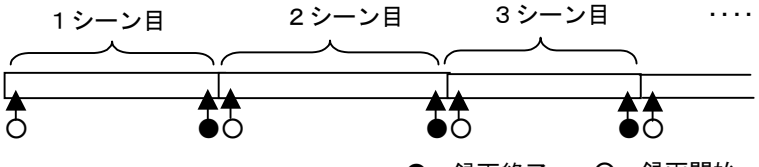
AVIファイルは指定したシーンやキャプチャボタンを押した単位で作成されます。１分間の映像キャプチャには約220Mバイトが必要です。通常のAVIファイルの最大値である2Gバイトの容量がある場合は、約9分30秒のキャプチャを行うことができます。
これ以上のキャプチャを行う場合は、GigaAVIファイルを作成する必要があります（GigaAVIファイルについては、GV-DVC3/CB取扱説明書（別冊）80ページ【2G以上のAVIファイルを扱うには】参照）

シーン検出でキャプチャする

「DVメディアにどんな内容が録画されているか」をシーンの検出を行うことによって確認することができます。
また、その検出したシーンから、キャプチャしたいシーンだけを選択して、AVIファイルにすることもできます。

参考：シーンについて

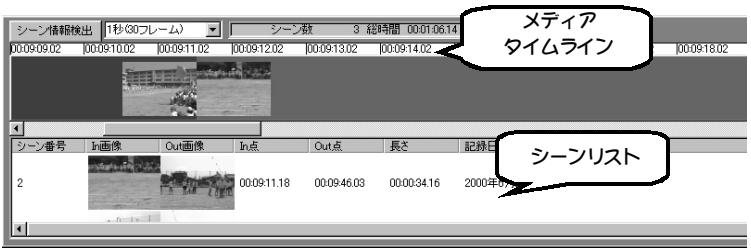
シーンとは、撮影時に録画ボタンをONからOFFにするまでに記録される映像を指します。



注意

- **シーン情報検出は、DVメディアを再生しながら行うので、録画時間と同じ時間がかかります。**
- **シーン検出中はプレビューウィンドウに表示される映像が荒くなります。**

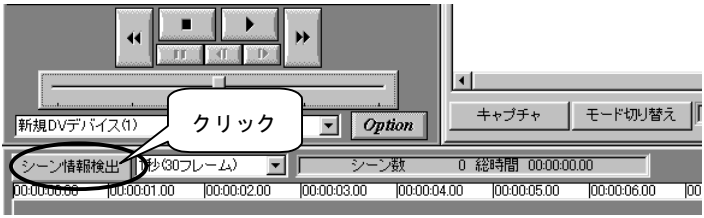
以下はシーンを検出した例です。
シーンリストには各シーンの先頭と終了のサムネイル画像（映像の１フレームを縮小表示したもの）、時間などの情報が表示されます。タイムラインにはシーンを検出した位置に、サムネイル画像が表示されます。



■ シーン情報を検出する

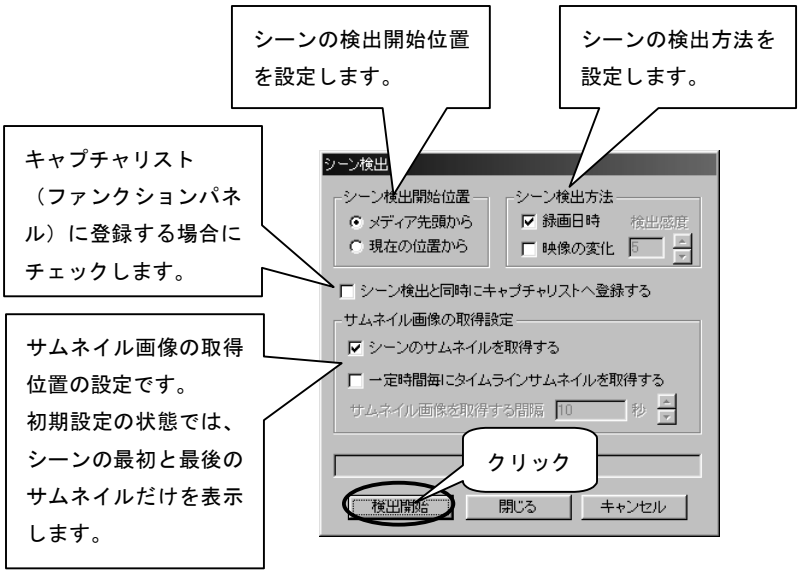
1　**DV機器を停止状態（テープを再生していた場合は停止する）にします。**

2　**[メディアビュー]の[シーン情報検出]ボタンをクリックします。**



3　**シーン検出画面が表示されます。**
設定後、[検出開始]ボタンをクリックします。

設定内容の詳細はGV-DVC3/CB取扱説明書（別冊）40ページを参照してください。



4　シーン検出を開始します。



シーン検出中は、プレビュー表示が粗くなりますが、動作に問題はありません。



5　DVメディアのすべてのシーンを検出するか、[検出終了]ボタンをクリックすると、シーン検出を終了します。

１度検出したシーン情報は、保存しておくことができます。保存しておくと、同じDVメディアから必要なシーンをキャプチャしたいとき、もう１度、シーン検出する時間を節約することができます。次ページの参考をご覧ください。

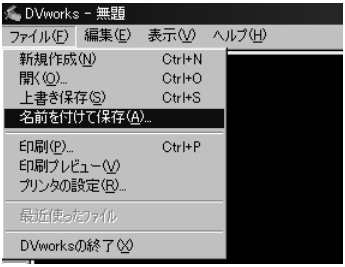
参考

＜シーン情報をファイルにする＞

検出したシーン情報やファンクションパネルに登録したデータすべてをファイル**（プロジェクトファイル）**にして保存することができます。
プロジェクトファイルを保存しておくと、「シーン検出」を行わなくても、ファイルを開くだけで保存した時の状態のデータを表示させることができます。

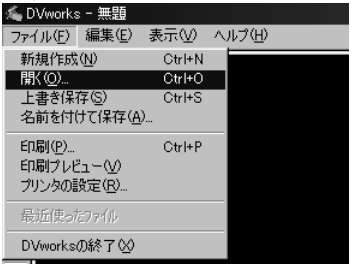
・ファイルの保存方法

［ファイル］メニューの［名前を付けて保存］をクリックして保存場所・保存ファイル名を設定できます。
ファイルは、拡張子DVWとして保存されます。



・ファイルの開き方

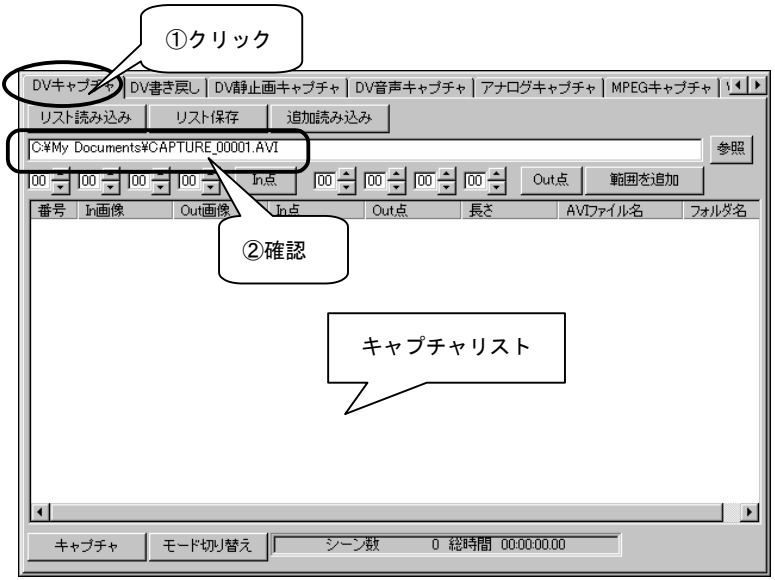
［ファイル］メニューの［開く］をクリックして、保存しているプロジェクトファイル（拡張子DVW）を指定してください。



■ キャプチャしたいシーンを選択する

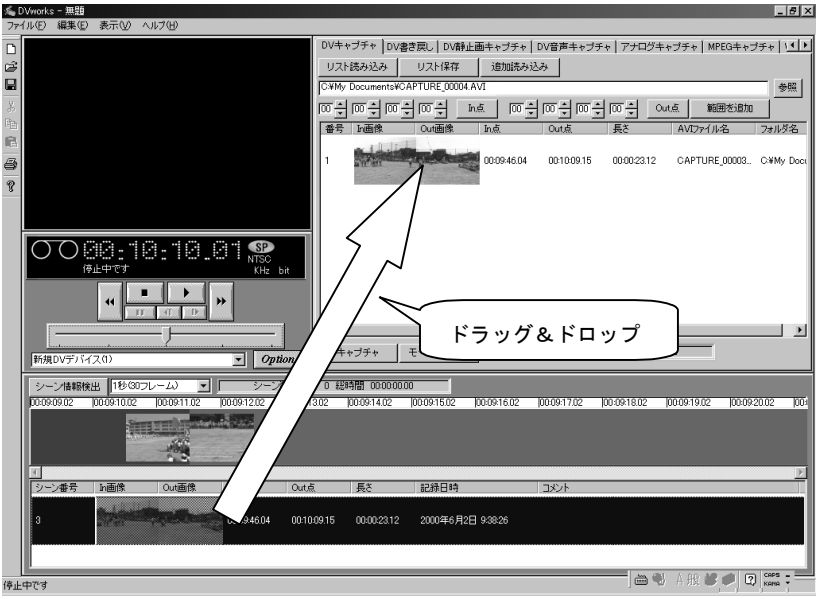
検出したシーンから、キャプチャしたいシーンだけを選択することができます。選択したシーンはファンクションパネルのキャプチャリストに表示されます。（この時点ではまだ映像はキャプチャされません。キャプチャ候補のリストを作る段階です。）

1　[ファンクションパネル]の[DVキャプチャ]タブをクリックし、表示されているファイル名を確認します。



表示されているファイル名がキャプチャ後のAVIファイル名になります。ファイルの格納フォルダを変更したいときは[参照]ボタンをクリックして選択してください。ファイル名を変更したいときは任意のファイル名を入力してください（拡張子は.AVI固定）。

2　シーンリストからキャプチャしたいシーンを選び、キャプチャリストへドラッグ＆ドロップします。

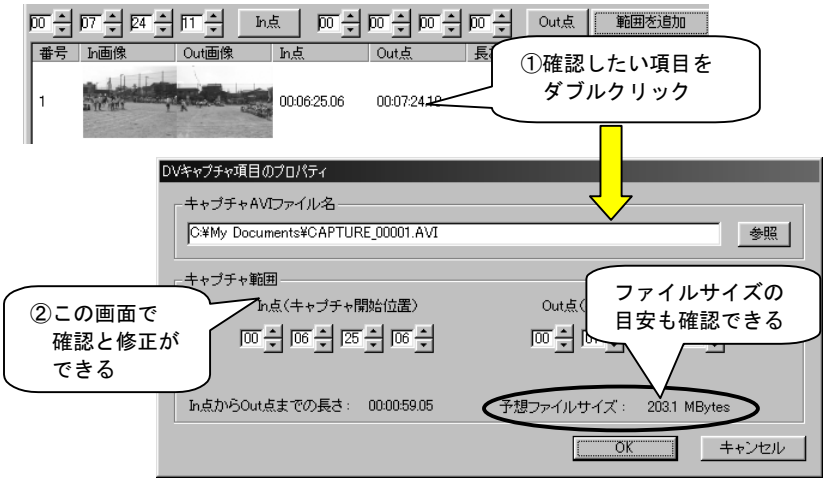


注意

手順 **1** で指定したドライブに十分な空き容量がない場合は、予想ファイルサイズに応じて、空きのあるドライブが自動的に指定されます。キャプチャリストのフォルダ名欄を確認してください。

■ キャプチャ項目の詳細を確認する

キャプチャリスト項目の予想ファイルサイズを確認したり、キャプチャ開始・終了点、格納フォルダやファイル名の変更ができます。確認したいキャプチャ項目をダブルクリックしてください。

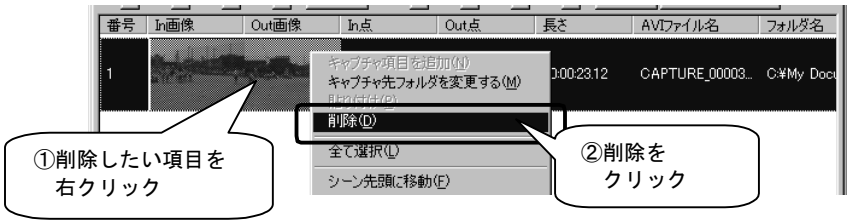


注意

キャプチャ項目のIn点・Out点のいずれかを変更した場合は、その項目のサムネイルは消去されます。

■ キャプチャ項目を削除する

キャプチャリスト上の項目を削除したい場合は、キャプチャ項目を右クリックして[削除]をクリックしてください。



■ キャプチャ項目を一括キャプチャする

キャプチャしたい項目が選択できたら、実際のキャプチャを行います。

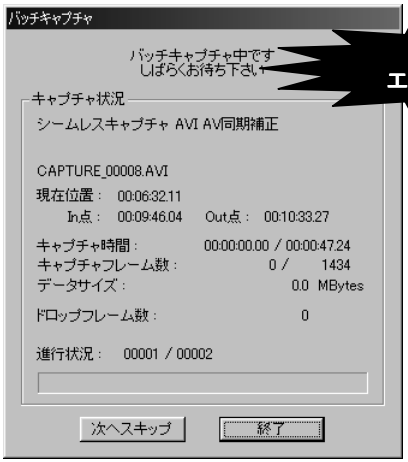
1　[キャプチャ]ボタンをクリックします。

キャプチャリストの先頭項目のIn点をDVメディアから検索し、キャプチャを開始します。



2　キャプチャ中、以下の画面が表示されます。

キャプチャ中のシーンをスキップしたい場合は、[次へスキップ]ボタンをクリックします。



キャプチャ中にエラーが表示された場合

GV-DVC3/CB取扱説明書（別冊）59ページ【キャプチャ中、勝手にキャプチャ処理が・・・】参照

3　キャプチャ中の[情報表示パネル]の[…KHz]を確認します。

このKHz表示はお使いのDVメディアによって異なります。この情報は、後で映像を編集するために『MediaStudio Pro』を起動するときに必要になります（132、133ページ参照）。



4　手順2の画面が消えたら、キャプチャ終了です。

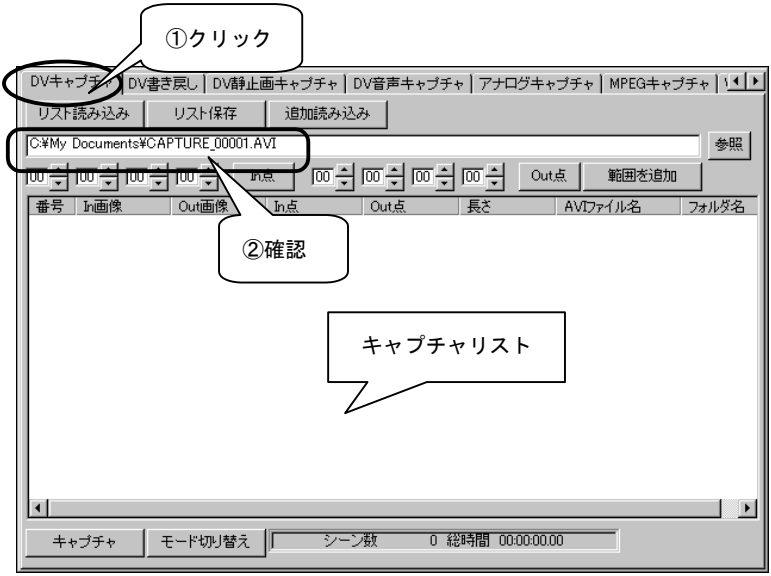
途中で終了したいときは[終了]ボタンをクリックします。

タイムコードでキャプチャする

キャプチャしたい映像の開始点、終了点のタイムコードを指定して、一括してキャプチャすることができます。

1　DV機器を停止状態（テープを再生していた場合は停止する）にします。

2　[ファンクションパネル]の[DVキャプチャ]タブをクリックし、
表示されているファイル名を確認します。



表示されているファイル名がキャプチャ後のAVIファイル名になります。ファイルの格納フォルダを変更したいときは[参照]ボタンをクリックして選択してください。ファイル名を変更したいときは任意のファイル名を入力してください（拡張子は.AVI固定）。

3　[コントロールウィンドウ]で映像を再生し、キャプチャを開始したい場所で[一時停止]ボタンをクリックします。

映像の再生、一時停止の方法は【『DVworks』でDV機器を操作する】77ページを参照してください。

参考

キャプチャしたい範囲のタイムコードが大まかにわかっているときは、開始点、終了点のタイムコードを直接入力することもできます。
ファンクションパネルのIn点、Out点にタイムコードを入力し、手順 **7** へ進んでください。

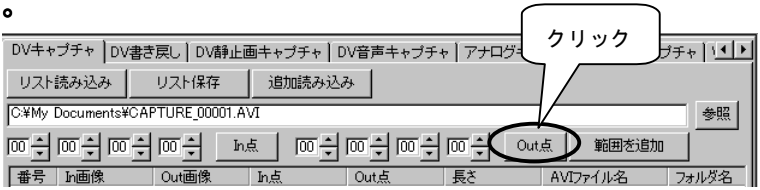


4　**[ファンクションパネル]の[In点]ボタンをクリックします。**

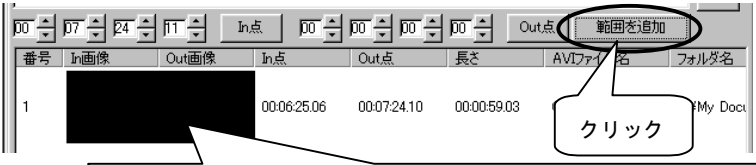


5　**[コントロールウィンドウ]で映像を再生し、キャプチャを終了したい場所で[一時停止]ボタンをクリックします。**

6　**[ファンクションパネル]の[Out点]ボタンをクリックします。**



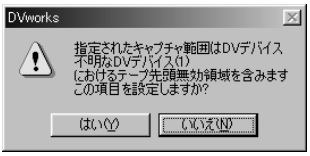
7　[範囲を追加]ボタンをクリックして、キャプチャリストに項目を追加します。



タイムコードによる範囲追加では、ここにはサムネイル画像は表示されません（黒く表示されるだけ）。サムネイル画像が表示されるのは、シーン検出したものを追加したときだけです。

注意

In点の指定によっては、以下のようなメッセージが表示される場合があります。



＜テープ先頭無効領域とは＞

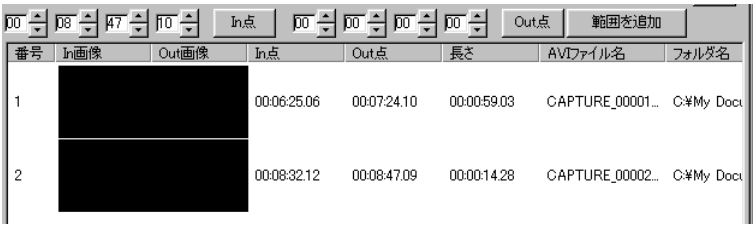
DVテープのメディア先頭は、記録されたデータが乱れる可能性があり、その場合、映像が正常にキャプチャされない場合があります。そのため、DVworksでは、メディア先頭部分を無効領域として設定することができます（初期設定ではテープ先頭から5秒間が無効領域として設定されています）。
タイムコード指定でこの領域を含んだ場合、上のような警告メッセージを表示します。無効領域の変更方法はGV-DVC3/CB取扱説明書（別冊）13ページの「テープ無効領域」を参照してください。

・メッセージが表示されたら

[いいえ]ボタンをクリックし、In点の指定を変更（無効領域を含まない範囲に）することをおすすめします。無効領域を含んでもいい場合は[はい]ボタンをクリックしてください（実際にキャプチャするときにエラーになる可能性があります）。

8　複数追加する場合は、手順3～7を繰り返します。

キャプチャリストの使い方は88ページ【キャプチャ項目の詳細を確認する】や【キャプチャ項目を削除する】を参照してください。



9　キャプチャを行います。

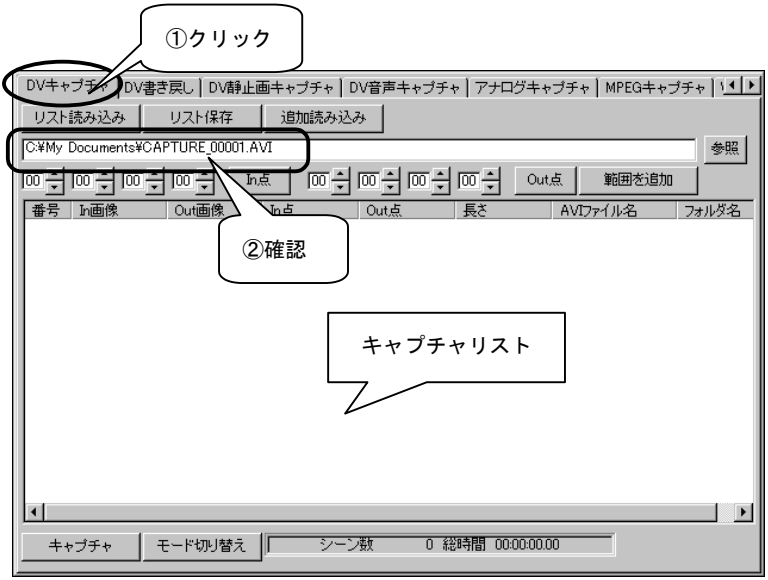
キャプチャ方法は89ページ【キャプチャ項目を一括キャプチャする】を参照してください。

映像を見ながらキャプチャする

[プレビューウィンドウ]に映像を表示しながら、好きな位置でキャプチャすることができます。

1　[コントロールウィンドウ]の（巻き戻し）などで、キャプチャしたい位置より前にDVメディアを戻します。

2　[ファンクションパネル]の[DVキャプチャ]タブをクリックし、
表示されているファイル名を確認します。

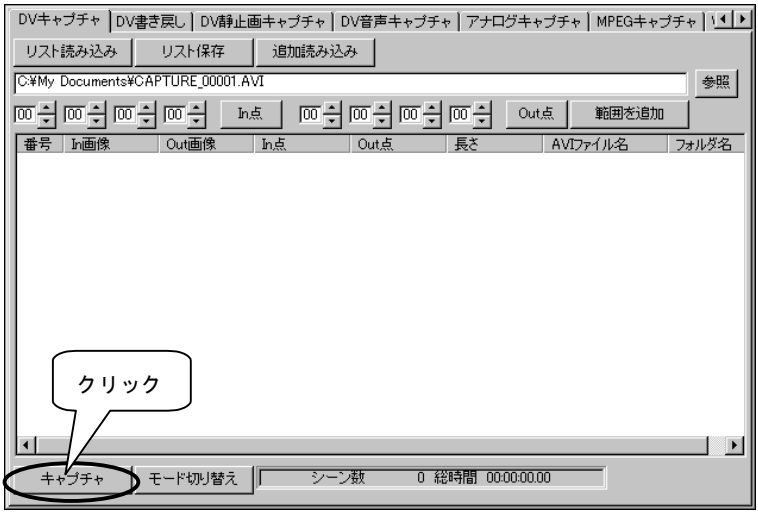


表示されているファイル名がキャプチャ後のAVIファイル名になります。ファイルの格納フォルダを変更したいときは[参照]ボタンをクリックして選択してください。ファイル名を変更したいときは任意のファイル名を入力してください（拡張子は.AVI固定）。

3　[コントロールウィンドウ]の（再生）をクリックし、映像を再生します。

4　キャプチャしたい映像が表示されたら、[キャプチャ]ボタンをクリックします。

クリック後、しばらくしてから自動的にキャプチャを開始します。



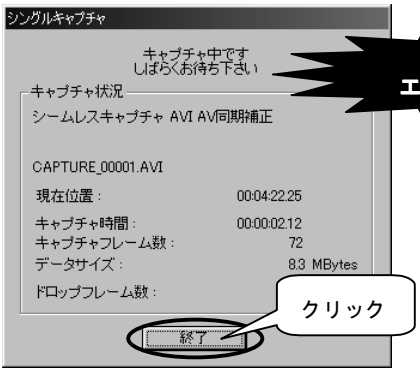
5　キャプチャ中の[情報表示パネル]の[…KHz]を確認し、メモします。

このKHz表示はお使いのDVメディアによって異なります。この情報は、後で映像を編集するために『MediaStudio Pro』を起動するときに必要になります（132、133ページ参照）。



6　キャプチャを終了する場合は[終了]ボタンをクリックします。

自動的にDV機器も停止します。

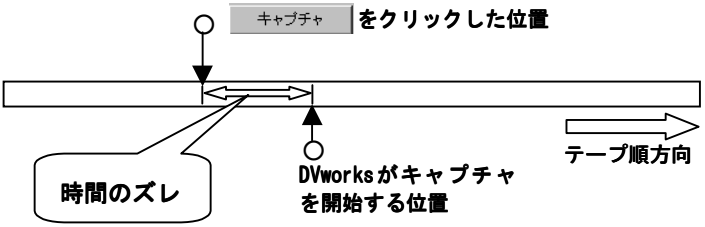


キャプチャ中にエラーが表示された場合

GV-DVC3/CB取扱説明書（別冊）59ページ【キャプチャ中、勝手にキャプチャ処理が・・・】参照

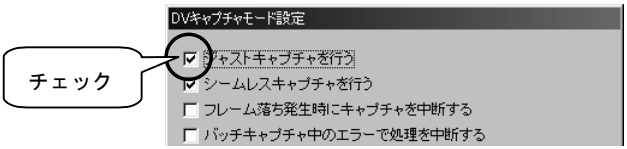
参考：正確な位置でキャプチャするには

[キャプチャ]ボタンをクリックした時点と、実際にキャプチャを開始する時点とは、時間のズレがあります。このズレを防ぐために「ジャストキャプチャ機能」があります。この機能を使うと、[キャプチャ]ボタンをクリックした時点で、自動的に少し前に巻き戻し、ボタンをクリックした位置から正確にキャプチャをスタートさせることができます。



＜ジャストキャプチャの設定方法＞

[モード切り替え]ボタンをクリックし、「ジャストキャプチャを行う」をチェックしてから、キャプチャを行ってください。



MPEG形式でキャプチャする

DVworksを利用すれば、DVテープの映像をリアルタイムMPEGキャプチャすることが出来ます。CPU速度が不充分な場合でも、キャプチャ中の映像を一時的にハードディスクに保管した後エンコードする、オートバッファリング機能が自動的に有効になりますので、短時間でMPEGファイルを作成することが可能です。

注意

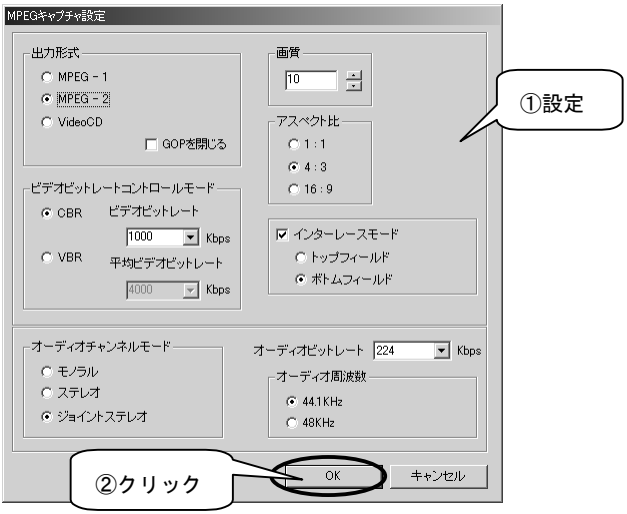
- **MPEGキャプチャを行う際は、IEEE 1394端子にD-VHSデッキを接続しないでください。D-VHSデッキがIEEE 1394端子に接続されていると、MPEGキャプチャ機能はご利用になれません。**
- **「シーン検出して一括キャプチャ」、「タイムコードを指定して一括キャプチャ」（81ページ参照）はできません。**

1　[ファンクションパネル]の[MPEGキャプチャ]タブをクリックし、[設定]ボタンをクリックします。

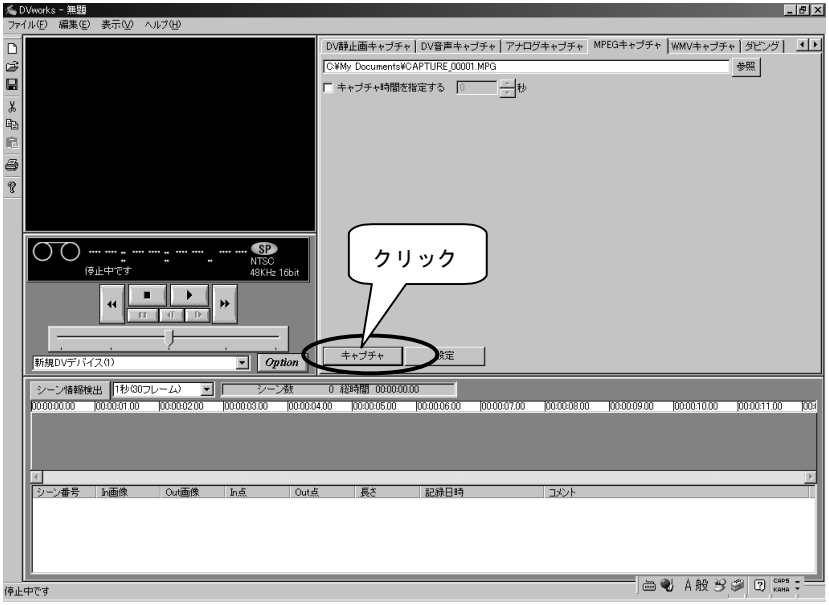


2　キャプチャしたいMPEGファイルの出力形式・ビデオビットレートなどを設定し、[OK]ボタンをクリックします。

設定の詳細については次ページをご参照ください。



3　[キャプチャ]ボタンをクリックします。



MPEG-1	MPEG-1形式で映像をキャプチャします。
MPEG-2	MPEG-2形式で映像をキャプチャします。
VideoCD	VideoCD形式に準拠したMPEG-1で映像をキャプチャします。選択した場合は、ビデオビットレートが1123Kbpsに、オーディオビットレートが224Kbps、オーディオサンプリング周波数が44.1KHzにそれぞれ固定されます。
GOPを閉じる	チェックを入れると、GOPを閉じます。 キャプチャしたMPEGファイルが編集ソフト、DVDオーサリングソフト等で、正常に扱えない場合は、チェックしてキャプチャを行ってください。
ビデオビットレートコントロールモード	**＜CBR＞** 固定ビットレート形式でキャプチャします。 **＜VBR＞** 可変ビットレート形式でキャプチャします。 **＜ビデオビットレート＞** キャプチャするファイルのビットレートを設定します。 ビットレートを高くするほど、エンコードに多くの時間が必要とされます。 **＜平均ビットレート＞** VBRをチェックした場合のみ有効です。VBR時の平均ビットレートを設定します。
オーディオチャンネルモード	キャプチャするファイルのオーディオチャンネル形式を選択します。
画質	MPEGファイルの画質を設定します。10が標準画質となっており、1-20までの20段階で調節できます。数字を大きくするほど、画質は向上しますが、エンコードに多くの時間が必要になります。
アスペクト比	キャプチャするMPEGファイルのアスペクト比を設定します。
インターレースモード	映像をインターレースモードでエンコードするかどうかを設定します。チェックを入れた場合、フィールドオーダーをトップフィールド先行にするか、ボトムフィールド先行にするか設定します。
オーディオビットレート	キャプチャするファイルのオーディオビットレートを設定します。
オーディオ周波数	キャプチャするファイルのオーディオ周波数を設定します。 キャプチャしたMPEGファイルからDVD-Videoを作成する場合は、48KHｚをチェックしてください。

4　キャプチャ中は以下の画面が表示されますので、キャプチャを終了したいところで[キャプチャ終了]ボタンをクリックします。



CPU速度が十分でないと、エンコードがリアルタイムに終了しない場合があります。その際は、以下の画面が表示され、リアルタイムにエンコード処理が間に合わなかった部分が続けてエンコードされます。



注意

- **お使いの環境によっては、MPEGキャプチャ中プレビューウィンドウに表示される映像がコマ落ちしたり、ぎこちなく再生される場合がありますが、作成されるファイルに影響はありません。**
- **MPEGキャプチャ中は、プレビュー映像の音声は再生されません。**

WMV形式でキャプチャする

DVworksでは映像をWindows Media Video（WMV）形式に変換してキャプチャすることも可能です。

1　[ファンクションパネル]の[WMVキャプチャ]タブをクリックし、[設定]ボタンをクリックします。



2　キャプチャしたいWMVファイルの形式・ビットレートを設定し、[OK]ボタンをクリックします。

※[メディア形式]でオーディオをチェックした場合は[エンコードプロファイル]も[…オーディオ…]と表示されるオーディオ用のものを選択してください。

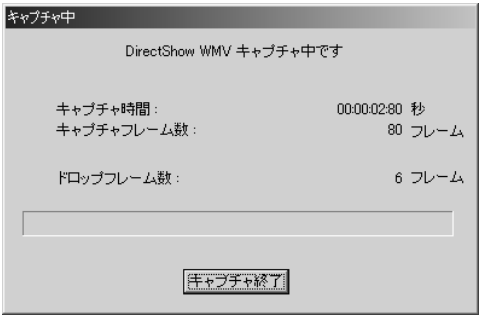
設定の詳細については次ページをご参照ください。



ビデオ	映像と音声をキャプチャします。
オーディオ	音声のみをキャプチャします。
エンコードプロファイル	エンコードするWMVファイルの形式を選択します。 ※ ビットレートが大きい形式ほど、フレーム落ちが発生しやすくなります。

3　**[キャプチャ]ボタンをクリックします。**

4　**キャプチャ中は以下の画面が表示されますので、キャプチャを終了したいところで[キャプチャ終了]ボタンをクリックします。**



注意

・お使いの環境によっては、WMVキャプチャ中プレビューウィンドウに表示される映像がコマ落ちしたり、ぎこちなく再生される場合がありますが、作成されるファイルに影響はありません。

音声だけをキャプチャする

ビデオ映像に録音されている音声だけをキャプチャすることができます。
例えば、ビデオ編集するときに、キャプチャした音声をナレーションや効果音として別の映像と一緒に組み合わせるという使い方ができるようになります。

1　**[コントロールウィンドウ]の（巻き戻し）などで、キャプチャしたい位置より前にDVメディアを戻します。**

2　**[ファンクションパネル]の[DV音声キャプチャ]タブをクリックし、表示されているファイル名を確認します。**



表示されているファイル名がキャプチャ後のWAVファイル名になります。ファイルの格納フォルダを変更したいときは[参照]ボタンをクリックして選択してください。ファイル名を変更したいときは任意のファイル名を入力してください（拡張子は.WAV固定）。

3　**[コントロールウィンドウ]の（再生）ボタンをクリックし、映像を再生します。**

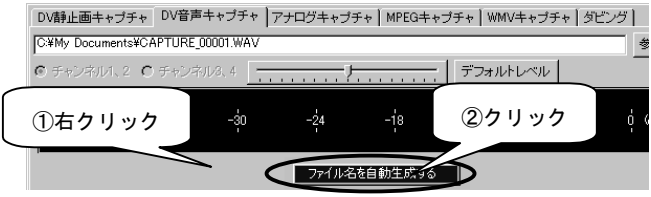
4 キャプチャしたい音声が聞こえたら、[音声キャプチャ]ボタンをクリックします。

クリック後、しばらくしてから自動的にキャプチャを開始します。
音声キャプチャにも「ジャストキャプチャ」機能があります（97ページ【参考】を参照）。この機能を使うときは音声キャプチャを行う前に[モード切り替え]ボタンで設定してください。



参考：連続してキャプチャするには

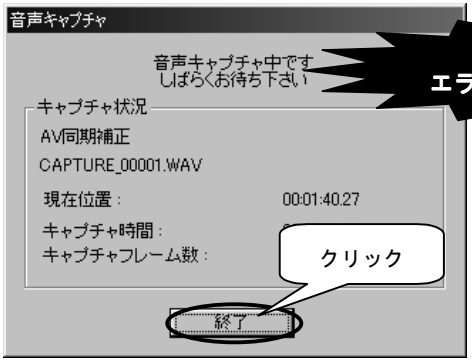
ファンクションパネル上で右クリックして、[ファイル名を自動生成する]ボタンをクリックしておくと、音声をキャプチャするたびに、ファイル名が自動的に作成されるようになります。



例）
最初にキャプチャしたとき：CAPTURE_00001.WAV
次にキャプチャしたとき　：CAPTURE_00002.WAV
（後半の数値５桁が自動的に加算されていく）

5　キャプチャを終了する場合は[終了]ボタンをクリックします。

自動的にDV機器も停止します。



キャプチャ中に
エラーが表示された場合

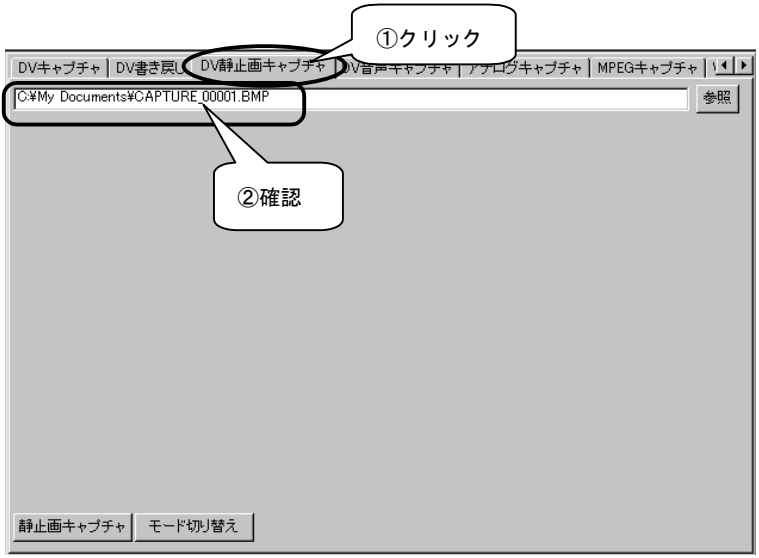
GV-DVC3/CB取扱説明書（別冊）59ページ【キャプチャ中、勝手にキャプチャ処理が・・・】参照

静止画をキャプチャする

ビデオ映像から静止画をキャプチャすることもできます。キャプチャした静止画はBMPファイルに保存されるので、壁紙に使ったり、ペイントなどのソフトウェアで加工することもできます。

1　**[コントロールウィンドウ]の  （巻き戻し）などで、キャプチャしたい位置より前にDVメディアを戻します。**

2　**[ファンクションパネル]の[DV静止画キャプチャ]タブをクリックし、表示されているファイル名を確認します。**

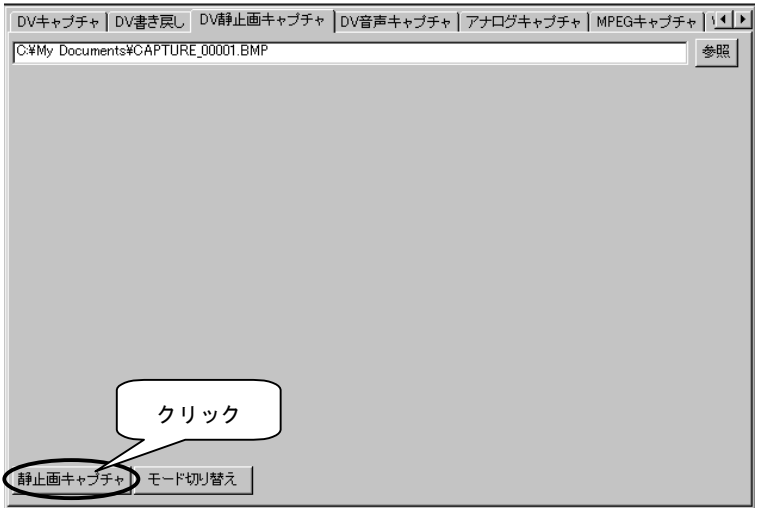


表示されているファイル名がキャプチャ後のBMPファイル名になります。ファイルの格納フォルダを変更したいときは[参照]ボタンをクリックして選択してください。ファイル名を変更したいときは任意のファイル名を入力してください（拡張子は.BMP固定）。

3　**[コントロールウィンドウ]の  （再生）ボタンをクリックし、映像を再生します。**

4　キャプチャしたい映像が表示されたら、[静止画キャプチャ]ボタンをクリックします。

BMPファイルが保存されます。作成される静止画は、大きさが720×480ピクセルで、24ビットカラー固定です（ファイルサイズは約１Mバイト）。



参考：連続してキャプチャするには

ファンクションパネル上で右クリックして、[ファイル名を自動生成する]ボタンをクリックしておくと、静止画をキャプチャするたびに、ファイル名が自動的に作成されるようになります。



例）

最初にキャプチャしたとき：CAPTURE_00001.BMP

次にキャプチャしたとき　：CAPTURE_00002.BMP

（後半の数値５桁が自動的に加算されていく）

4 AVIファイルを DVテープに書き戻す

編集したビデオ作品（AVIファイル）をDV機器で録画してみましょう。
録画するときには『DVworks』を使います。

注意

・本製品を利用しての、パソコンからDV、D-VHS機器への書き戻しについては動作保証外です。以下の機能はお客様の責任でご利用ください。

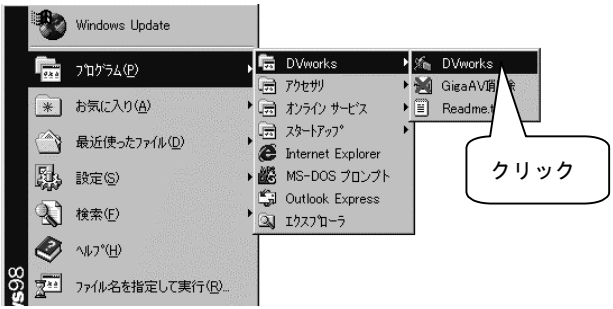
・DV機器は「ビデオ（再生）モード」に設定してください。「ビデオ（再生）モード」のまま録画できます。
・使用しているDVメディアは記録（書き込み）可能にしておいてください。
・録画は、テープの停止位置から行われます。
・MPEG、WMVファイルは、DVテープに書き戻しできません。

1 **DV機器を本製品に接続し、電源を入れて「ビデオ（再生）モード」にします。**

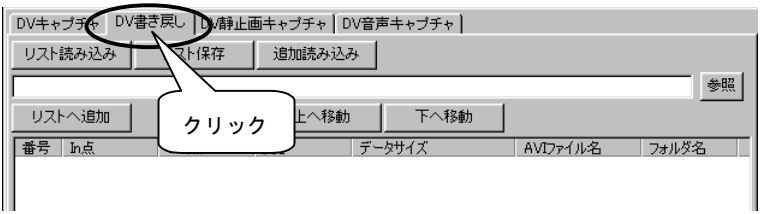
接続方法は【DV機器を接続しよう】62ページ参照

2 **DVメディアを入れ、録画を開始したい位置で停止します。**

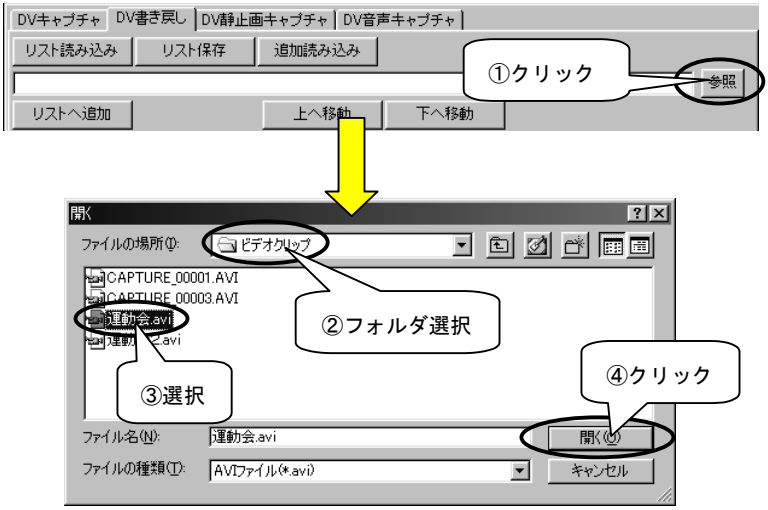
3 **[DVworks]を起動します。**



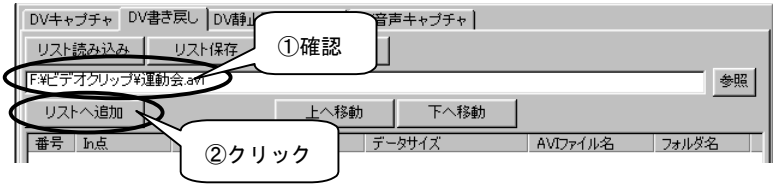
4 **[ファンクションパネル]の[DV書き戻し]タブをクリックします。**



5 **[参照]ボタンをクリックします。**
録画したいAVIファイルを選択して、[開く]ボタンをクリックします。



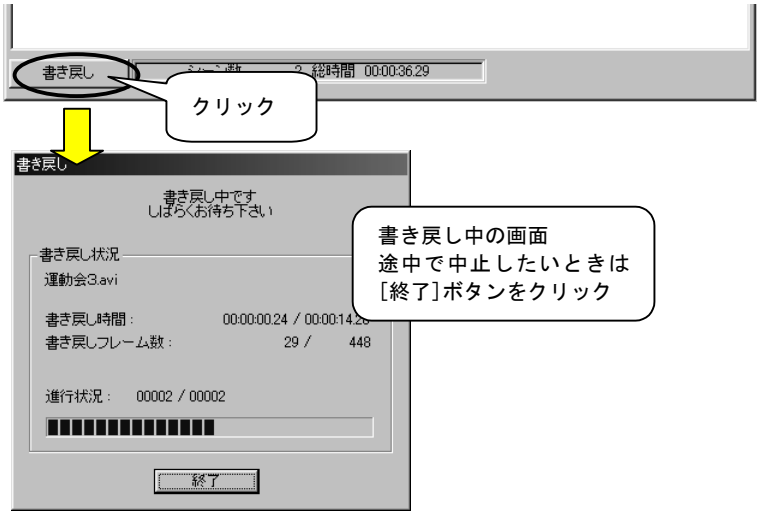
6 **表示されたファイル名を確認後、[リストへ追加]ボタンをクリックします。**



7　つなげて録画したいAVIファイルがあれば、手順5、6を繰り返して、すべて指定します。

録画する順番を変えたいときは、順番を変えたいAVIファイルをクリック後、[上へ移動]ボタンや[下へ移動]ボタンをクリックしてください。

8　[書き戻し]ボタンをクリックすると、DVメディアに書き戻し（録画）を開始します。



9　正常に書き戻し（録画）が終了すると、DV機器は自動的に停止します。

正常に書き戻し（録画）できない場合は…

【正常に動作しない場合】
GV-DVC3/CB取扱説明書（別冊）
47ページを参照してください。

以上で、DV機器への録画（書き戻し）は終了です。

参考１：セーフティエリアについて

AVIファイルに、編集ソフトでタイトルやテロップを入れた場合は、「セーフティエリア」を表示して確認することをおすすめします。

■「セーフティエリア」とは？

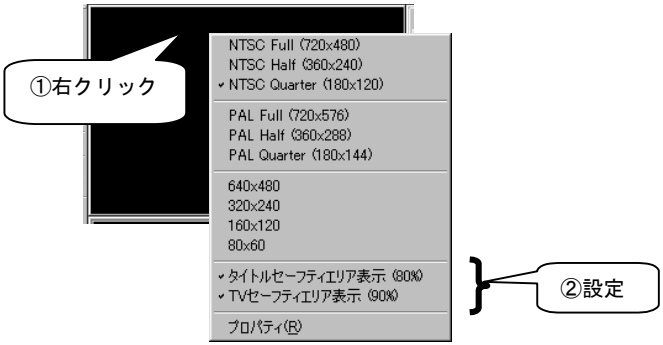
MediaStudio Pro等のDV編集ソフトや一般的な編集ソフトのプレビュー画面では、撮影した映像は、100%のサイズで表示されます。しかしテレビでは、画面が欠けることを防ぐために一回り小さいサイズでしか表示されません。このため、テレビでみると、編集ソフトを使って入れたタイトルやテロップが消えたり、欠けたりしてしまう場合があります。

DVworksの「セーフティエリア」では、テレビに表示される目安として「TVセーフティエリア（90%）」および「タイトルセーフティエリア（80%）」の白い枠線を表示させ、タイトルやテロップがエリア内に収まっているか確認することができます。

※ テレビの機種によって多少誤差がありますので、セーフティエリアはあくまで目安としてご利用ください。

■「セーフティエリア」の設定方法

「セーフティエリア」はプレビューウィンドウを右クリックし、表示されたメニュー内の項目をチェックすれば設定できます。



■タイトルやテロップがエリア内に収まっているかの確認方法

111ページ手順**8**の書き戻し中に、プレビュー画面で確認できます。

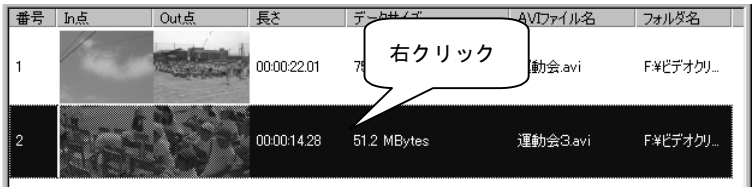
はみ出している場合は、再度編集ソフトで編集し直してください。

参考２：トリミングについて

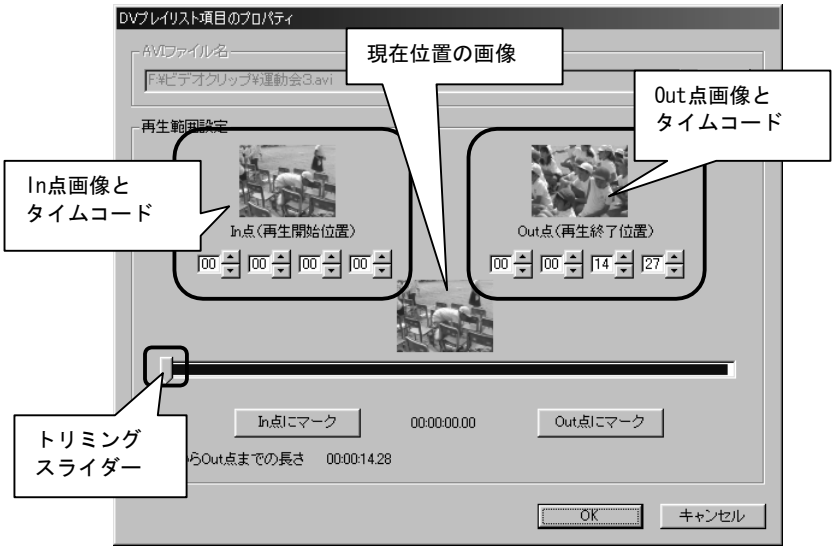
DVテープに書き戻す前に、AVIファイルの中の録画したい部分だけを抜き出してから録画することもできます。（トリミング機能）

＜トリミング方法＞

①書き戻しリストのトリミングを行いたいファイルを右クリックし、[プロパティ]をクリックします。



②以下の画面が表示されます。



③「トリミングスライダー」をマウスで移動させて、トリミングしたい開始点で[In点にマーク]ボタン、終了点で[Out点にマーク]ボタンをクリックします。

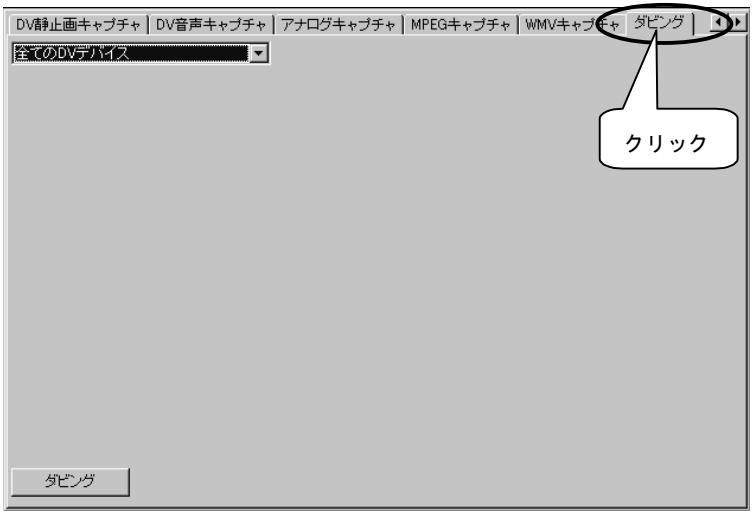
④［OK］ボタンをクリックすれば、設定できます。

⑤111ページ手順**8**以降を行って、DV機器へ書き戻します。

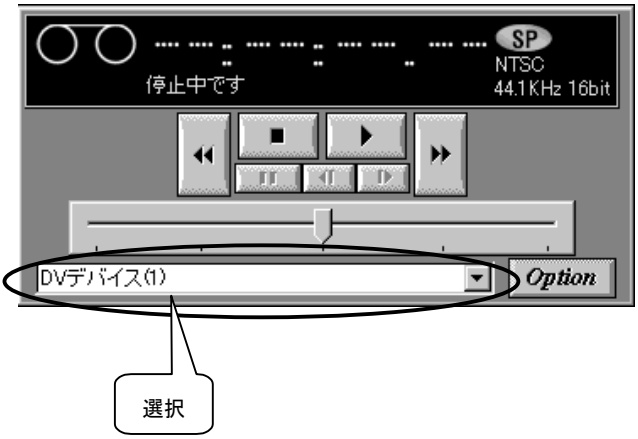
5 DVテープを ダビングする

DVwokrsを使えば、GV-DVC3/CBの端子に接続した片方のDV機器からもう一方のDV機器へ映像をデジタルダビングすることができます。

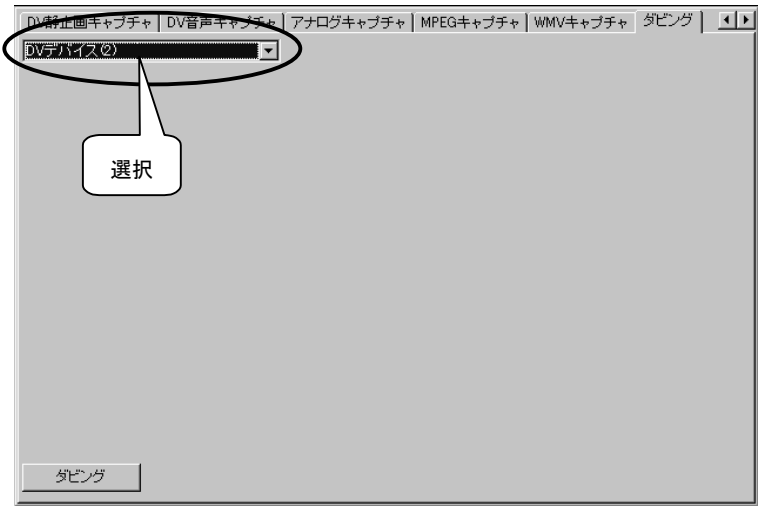
1 [ファンクションパネル]の[ダビング]タブをクリックします。



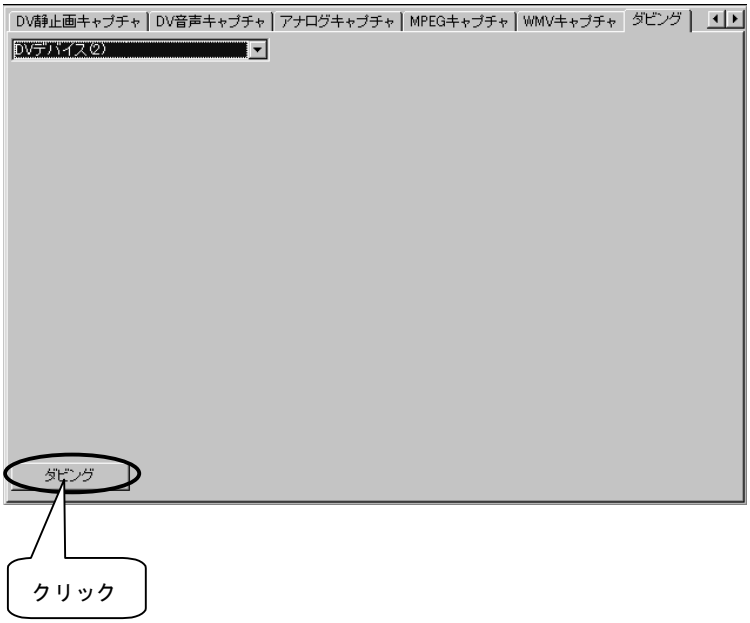
2 **ダビング元のDV機器を[コントロールウィンドウ]のDV機器選択ダイアログで選択します。**



3 **ダビング先のDV機器をDV機器選択ダイアログで選択します。**



4 [ダビング]ボタンをクリックします。



ステップ3

映像のキャプチャ＆書き戻し（D-VHS機器編）

1 D-VHSデッキを接続しよう

添付のD-VHS用ユーティリティソフト「I-O DATA D-VHS Cap」を使えば、D-VHSテープに記録されているMPEG-2データをデジタルでキャプチャできます。

注意

- **D-VHSからのキャプチャ、Windows XPでのみ行えます。他のOSではご利用いただけませんのでご注意ください。**
- **CS放送、BS放送をデジタル録画したD-VHSテープからは映像をキャプチャできません。**
- **BS/CSチューナーから直接映像をキャプチャすることはできません。**
- **「I-O DATA D-VHS Cap」では、D-VHSの映像プレビュー表示には対応しておりません。キャプチャ中の映像を見たい場合や、テープの頭出しを行う場合は、別途テレビモニタをご用意ください。**

D-VHSデッキの接続とドライバのインストール

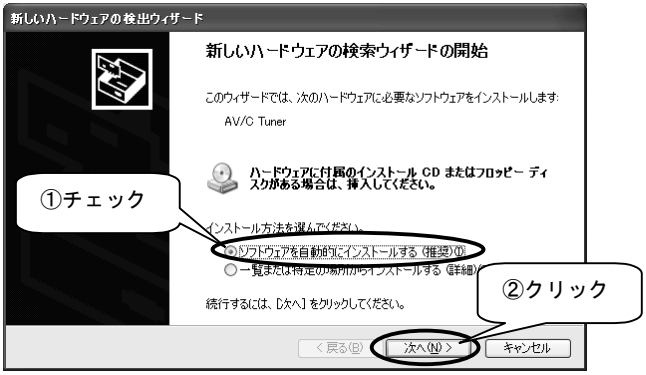
1　D-VHSデッキのi.LINK端子（4ピン）と本ボードを、DVケーブル（4ピン-4ピン）で接続します。

2　D-VHSデッキを接続すると自動的にドライバがインストールされます。

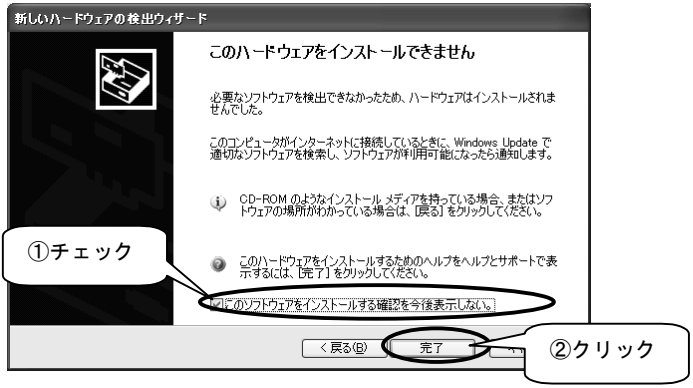
お使いのD-VHSデッキによっては以下の「パターン①」か、次ページの「パターン②」のうちのどちらか、あるいは両方が表示されます。

パターン①

1. 以下が表示された場合[ソフトウェアを自動的にインストールする（推奨）]をチェックして[次へ]ボタンをクリックします。



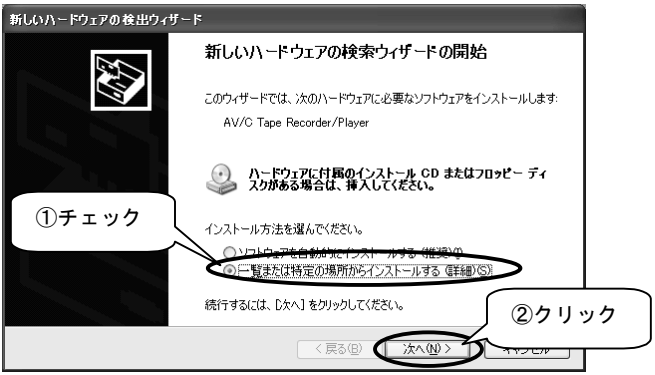
2. [このソフトウェアをインストールする確認を今後表示しない]をチェックして[完了]ボタンをクリックします。



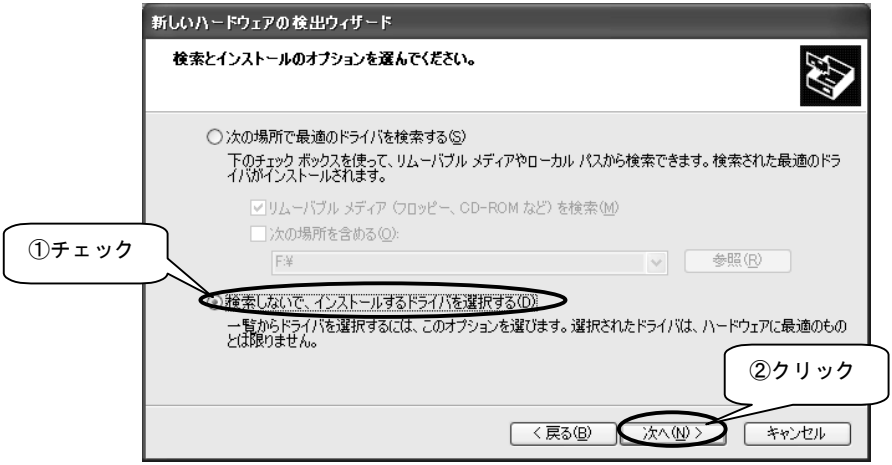
以上でインストールは終了です。

パターン②

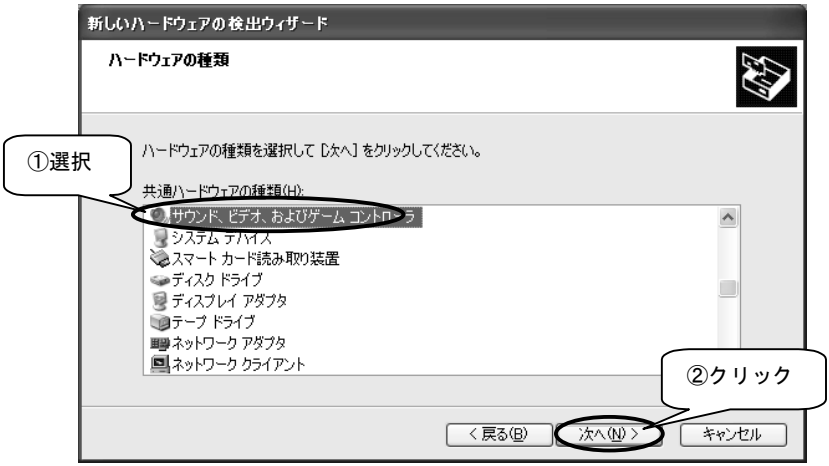
1. [一覧又は特定の場所からインストールする（詳細）]チェックして[次へ]ボタンをクリックします。



2. [検索しないで、インストールするドライバを選択する]を選択して[次へ]ボタンをクリックします。



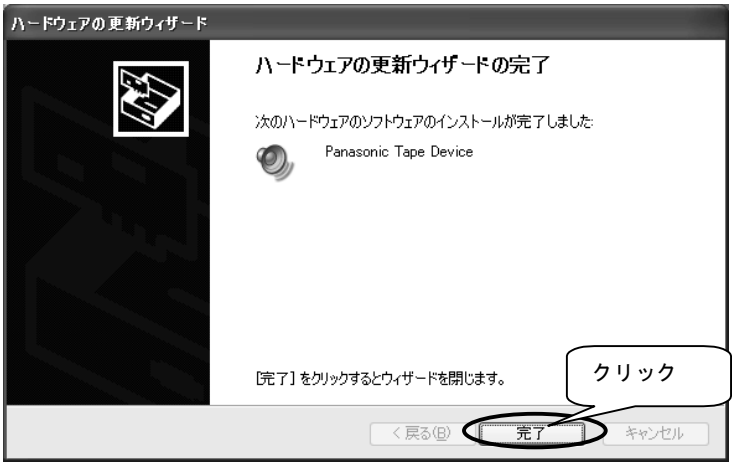
3. [サウンド、ビデオ、及びゲームコントローラ]を選択して[次へ]ボタンをクリックします。



4. 製造元として[Panasonic]、モデルとして[Panasonic Tape Device]を選択して[次へ]ボタンをクリックします。
   ※ Panasonic社製以外のD-VHS機器でも[Panasonic Tape Device]を選択してください。



5. [完了]ボタンをクリックします。



以上でインストールは終了です。

D-VHSデッキを取り外す

D-VHSデッキを取り外す場合は、以下の手順で取り外してください。

1　本PCカードに接続しているケーブルから取り外します。

注意

- パソコンの電源が入っている状態でも取り外せます。
- 取り外す際には、必ずケーブルのコネクタを持って取り外してください。ケーブルを持って取り外さないでください。
- D-VHSデッキが動作していないこと（再生等を行っていないこと）を確認した上で取り外してください。
- D-VHSデッキを操作するアプリケーション（添付のD-VHS Cap等）を終了してから取り外してください。
- D-VHSデッキを含む複数の1394機器を接続している場合は、他の機器が動作している時に、動作していない機器のケーブルを取り外したり、電源を切ることはおやめください。

参考

D-VHSデッキの電源を切ってから取り外すこともできます。

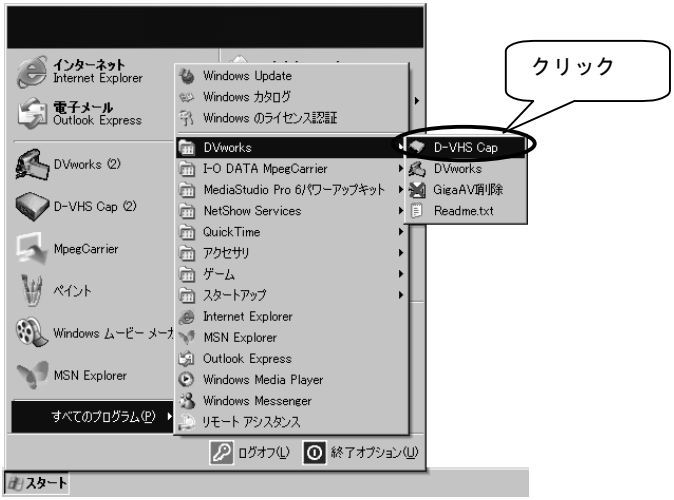
2　ケーブル取り外し後、D-VHSデッキの電源を切ってください。

2 D-VHSデッキから映像をキャプチャしよう

注意

- D-VHSデッキ側が映像を出力できる状態（再生状態）に設定してください。D-VHSデッキの設定方法は各デッキの取扱説明書をご参照ください。
- CS放送、BS放送をデジタル録画したD-VHSテープからは映像をキャプチャできません。
- BS/CSチューナーからは映像のキャプチャはできません。
- キャプチャできるD-VHSテープはSTDモードおよびLS-3モードで記録したテープのみです。
- 通常VHSモードで録画したテープや、HS形式でキャプチャしたテープからは正常にキャプチャできません。

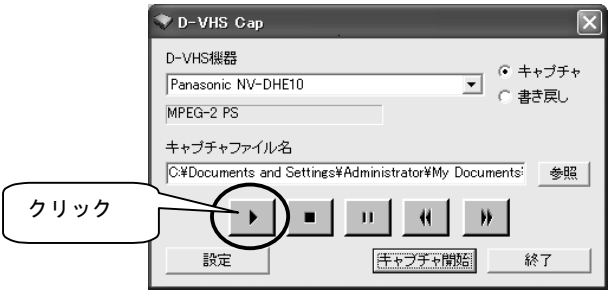
1 [スタート]→[すべてのプログラム]→[DVworks]→[D-VHS Cap]をクリックします。



2　**キャプチャ先のD-VHS機器を選択し、[キャプチャ]をチェックします。**



3　**[再生]ボタンをクリックし、デッキを再生状態にします。**

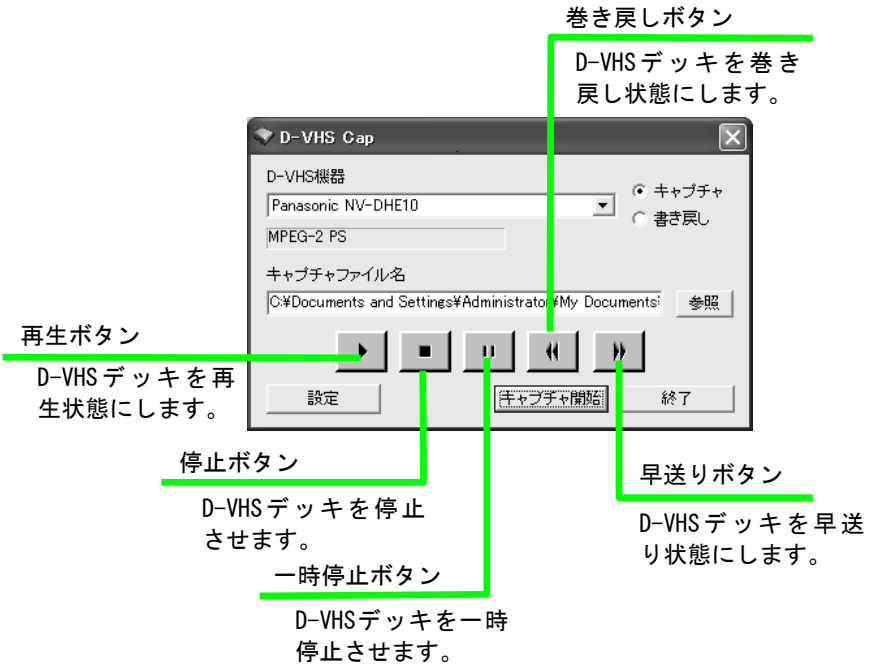


4　**キャプチャしたいシーンで[キャプチャ開始]ボタンをクリックします。**

5　**キャプチャ終了したいシーンでキャプチャ[終了]ボタンをクリックします。**

D-VHSデッキのコントロール

D-VHS Cap上から、再生、早送り、巻き戻し等、D-VHSデッキをコントロールすることができます。



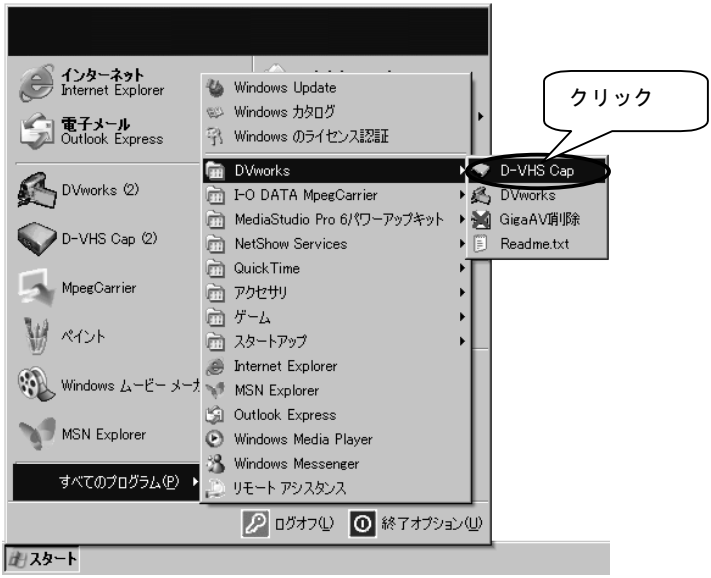
3 D-VHSデッキにMPEGファイルを書き戻す

注意

・本製品を利用しての、パソコンからDV、D-VHS機器への書き戻しについては動作保証外です。以下の機能はお客様の責任でご利用ください。

・D-VHSデッキに書き戻すMPEG-2ファイルは、D-VHSからキャプチャしたファイルか、付属のビデオ編集ソフト、MediaStudio Proにて、D-VHS（STD）またはD-VHS（LS-3）形式にてエンコードしたファイルを使用してください（124ページ参照）。
・他社製品でキャプチャしたMPEGファイルは正常に書き戻せない場合があります。その場合も、付属のビデオ編集ソフト MediaStudio ProにてD-VHS（STD）またはD-VHS（LS-3）形式にて再エンコードしてください。
・D-VHSデッキ側が映像を入力できる状態に設定してください。D-VHSデッキの設定方法は各デッキのマニュアルをご参照ください。
・D-VHSデッキからキャプチャしたMPEG-2ファイルは、キャプチャ元のD-VHSデッキに書き戻してください。キャプチャ元のデッキ以外に書き戻した場合は、正常に映像が記録されない場合があります。
・D-VHSデッキは、D-VHS Capでのみ操作可能です。「DVworks」では操作できません。

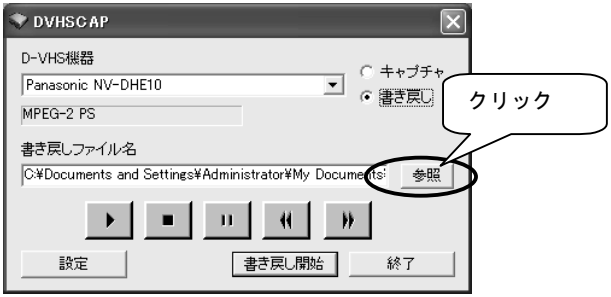
1　[スタート]→[すべてのプログラム]→[DVworks]→[D-VHS Cap]をクリックします。



2　キャプチャ先のD-VHS機器を選択し、[書き戻し]をチェックします。



3 **[参照]ボタンをクリックし、D-VHSテープに書き戻したいMPEG-2ファイルを指定します。**



4 **[巻き戻し][早送りボタン]を使って、D-VHSテープを書き戻し開始位置まで移動させます。**

5 **[書き戻し開始]ボタンをクリックします。**

6 **書き戻しを途中で終了させたいときは、[終了]ボタンをクリックします。**



MEMO

ステップ4

『MediaStudio Pro』を使ったビデオ編集

1 『MediaStudio Pro』を起動しよう

『MediaStudio Pro』を使えば、本格的な映像編集を行うことができます。インストール方法は【『MediaStudio Pro』をインストールする】42ページを参照してください。
なお、本書では『MediaStudio Pro』の基本的な操作のみを説明します。詳しくは『MediaStudio Pro』のPDFマニュアルまたはオンラインヘルプを参照してください。

参考

DV機器からのキャプチャに関しては、「MediaStudio Pro」の「Video Capture6.0」の機能もご使用頂けますが、より高機能で使いやすい「DVworks」のご使用をおすすめします。

注意

ここで説明する『MediaStudio Pro 6.0 Basic VE with Power up kit』は、弊社ではサポートしておりません。サポート先に関しては【サービス添付品のお問い合わせ先】11 ページか、裏表紙を参照してください。

1 [スタート]→[プログラム]→[Ulead MediaStudio Pro 6.0 VE]→[Video Editor 6.5]の順にクリックします。



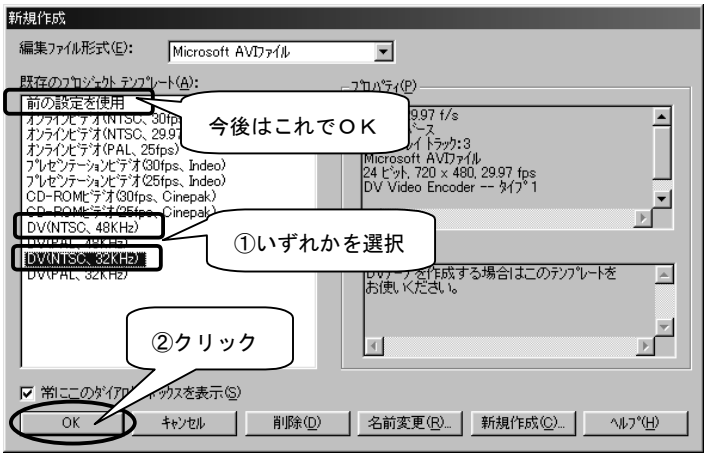
編集結果をAVI形式で保存したい場合（編集した映像をDVテープに書き戻す場合） → **以下の手順２へ**

編集結果をMPEG形式で保存したい場合（編集した映像をDVDに保存したり、D-VHSに書き戻す場合） → **次ページの手順２へ**

● AVI形式で保存する場合

2 [DV(NTSC,48KHz)]または[DV(NTSC,32KHz)]のいずれかを選択し、[OK]ボタンをクリックします。

編集したいAVIファイルをキャプチャしたときに確認した、KHz（82、96ページ参照）に合わせたものを選択してください。
今後は[前の設定を使用]を選択すればOKです。



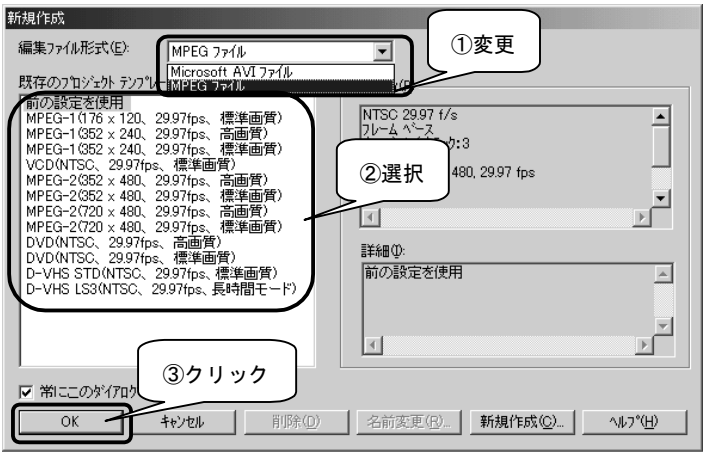
135ページ手順３へ進みます。

● MPEG形式で保存する場合

※ MPEGファイルの編集には、あらかじめ「Panasonic DS MPEG PlugIn for Ulead」のインストールが必要です。46ページを参照して「Panasonic DS MPEG PlugIn for Ulead」をインストールしてください。

2 [編集ファイル形式]を[MPEGファイル]に変更し、編集後に出力したいMPEGファイルの形式を選択※して[OK]ボタンをクリックします。

※ 編集後のファイルを添付のMyDVD等を使用してDVD Videoの作成に利用する場合は、
[DVD(NTSC、29.97fps、高画質]
[DVD(NTSC、29.97fps、標準画質]
のいずれかを選択してください。
編集後のファイルをD-VHSに書き戻す場合は、
[D-VHS STD(NTSC、29.97fps、標準画質）]
[D-VHS LS3(NTSC、29.97fps、長時間モード）]
を選択してください。
Video CDを作成する場合は、
[VCD(NTSC、29.97fps、標準画質)]
を選択してください。



3　初期画面が表示されます。

お使いの環境によって表示されるレイアウトは異なります。下記は1024×768の場合です。

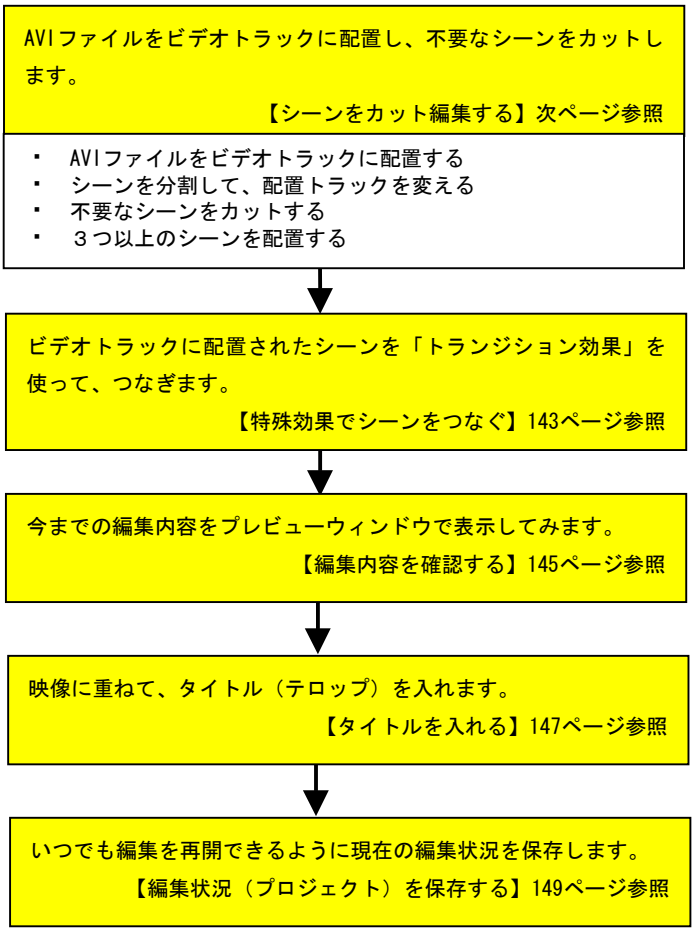


ウィンドウ名	主な用途
プレビュー	編集した結果を表示します。
ソース	使用するAVIファイルの映像を表示します。
プロダクション ライブラリ	特殊な映像効果を集めた作品集です。このライブラリを使えば特殊効果を簡単に実現できます。
タイムライン	実際に編集を行う作業領域です。 ・ Va、Vb：編集したいAVIファイルを配置 ・ Fx：シーン切替の特殊効果を配置 ・ V1～Vn：タイトルなどを配置 ・ Aa、Ab:Va、Vbに配置したAVIファイルの音声が配置 ・ A1～An：その他のオーディオを配置

2 映像を編集しよう

ここでは、【ステップ2】でキャプチャしたAVIファイルを使って次のような編集を行う過程を例に、基本的な映像編集の方法を説明します。

※ ここではAVIファイルの場合の例として説明していますが、MPEGファイルの場合でも手順は変わりません。



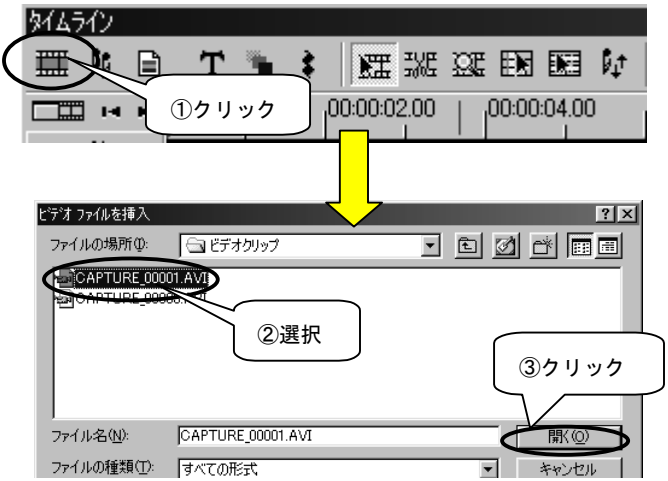
シーンをカット編集する

キャプチャしたAVIファイルをビデオトラックに配置し、シーンを分割したり、不要なシーンをカットしてみましょう。

AVIファイルを配置する

まずは編集したいAVIファイルをビデオトラック（VaまたはVb）に配置します。

1　タイムラインの をクリックして、編集したいAVIファイル（ビデオファイル）を選択します。



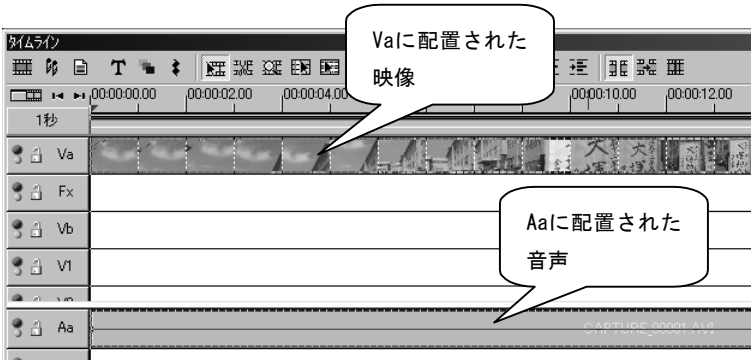
2　VaまたはVbトラックの任意の位置に、カーソル（手のマークになっている）を合わせてクリックします。

この場合はVaトラックの先頭をクリックします。

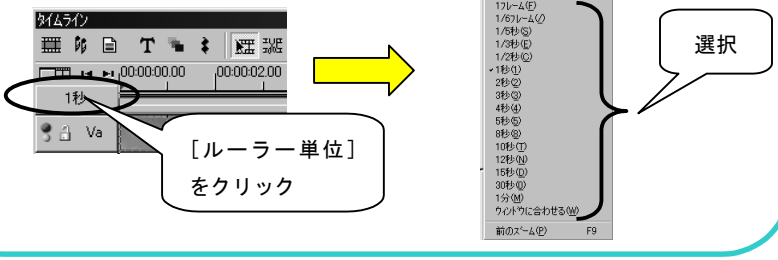


3　指定したトラックに映像が配置されます。

同時にビデオファイルの音声もオーディオトラックに配置されます。



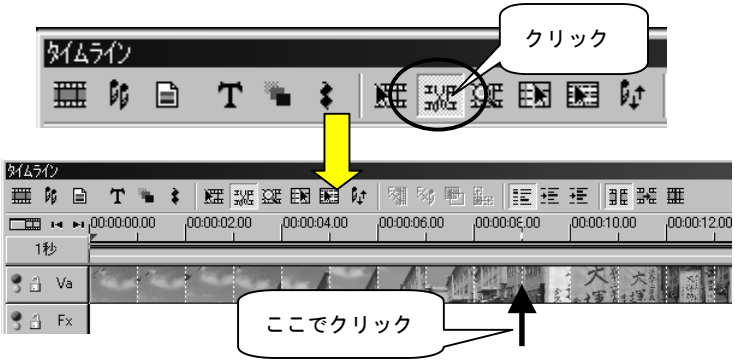
映像が長かったり短かった場合は[ルーラー単位]を変更すると映像が確認しやすくなります（標準は１秒単位）。



シーンを分割して、配置トラックを変える

ここでは、Vaトラックの映像を２つに分割し、後半をVbトラックへ移動します。

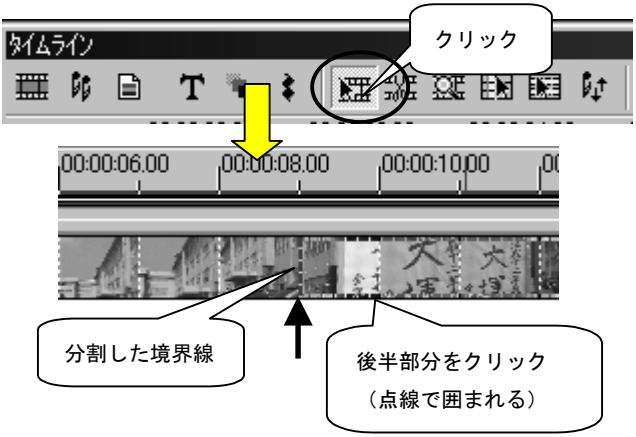
1　タイムラインの をクリックし、カーソル（はさみマーク）を分割したいところに合わせて、クリックします。



クリックすると、グレーの境界線が引かれます。また、その映像に対応したオーディオトラックにも同様に境界線が引かれます。

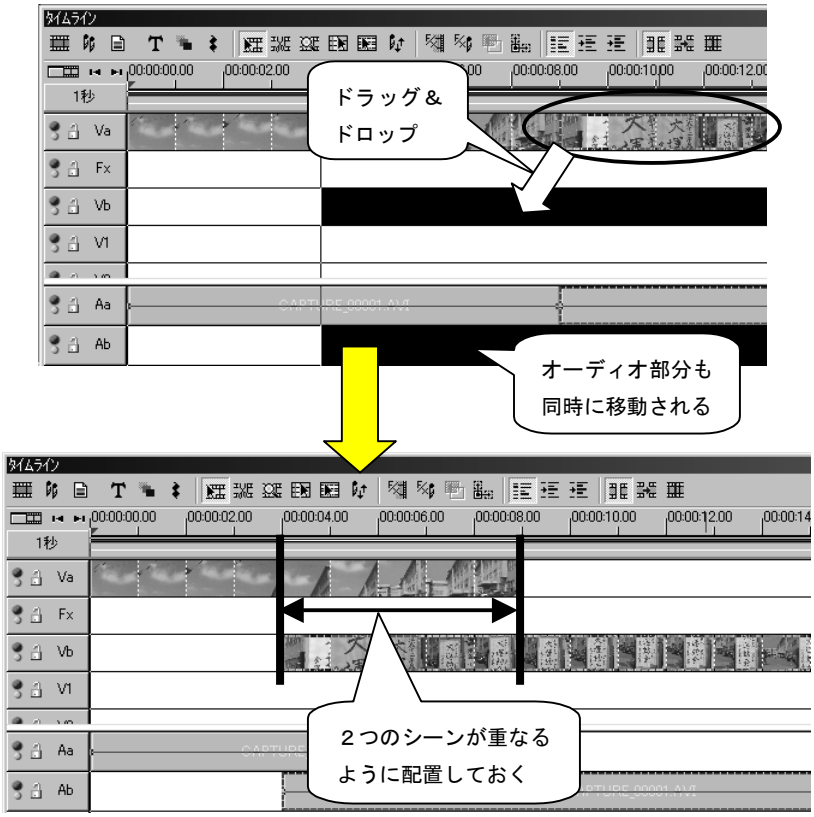
2　タイムラインの をクリックし、分割した映像の後半部分をクリックします。

先ほど分割したので、分割した境界線から後の部分だけが点線で囲まれます（クリップ選択状態）。対応する音声も点線で囲まれます。



3　後半部分をVbトラックへドラッグ＆ドロップします。

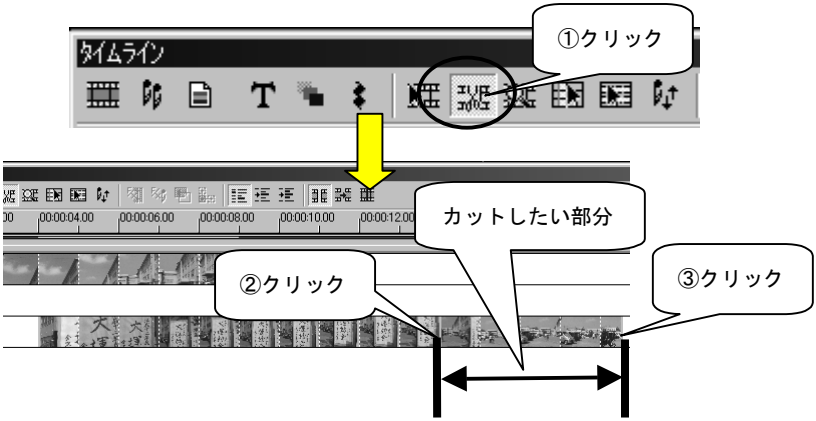
Vaトラックと Vbトラックのシーンは後で特殊効果を使ってつなぐので、Vbトラックは２つの映像が重なる位置にドラッグしておきます。



不要なシーンをカットする

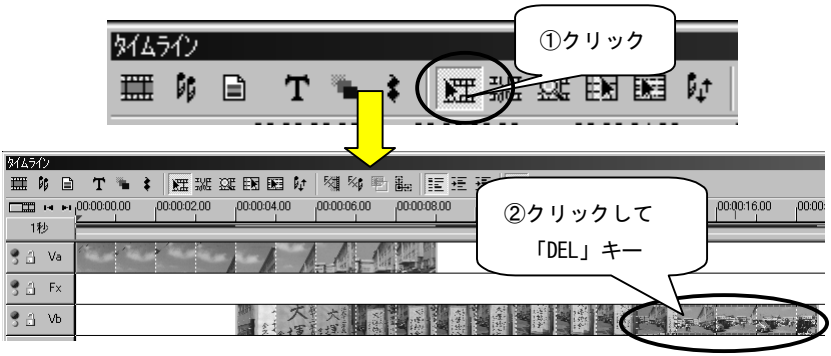
ここでは、Vaトラックの最後の映像をカットします。

1　タイムラインの  をクリックし、カーソル（はさみマーク）を不要な部分の先頭と最後をクリックします。



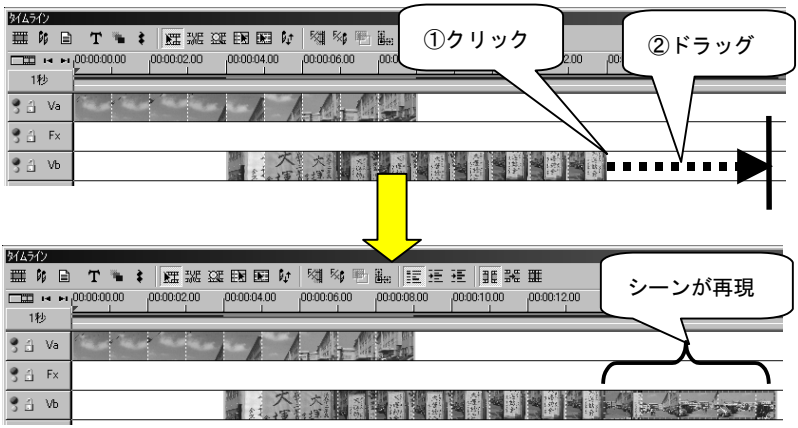
2　タイムラインの  をクリックし、不要な部分をクリックして、「DEL」キーを押します。

シーンが削除されます。カットシーンの後に映像がある場合は、後の映像をドラッグして、カットシーンの前の映像とつなげておいたり、カット部分に別の映像を挿入することもできます。



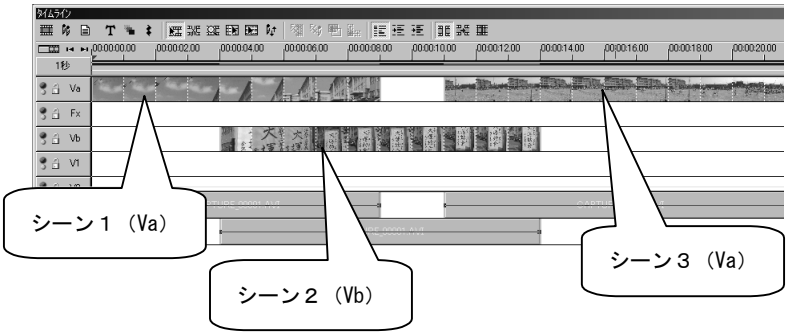
参考

シーンをカットしたからといって、元のAVIファイルからそのシーンが削除されるわけではありません。あくまでもタイムライン上のシーンがカットされるだけです。シーンの右端をマウスでつまんで、右方向にドラッグすればカットしたシーンを再現することができます。



3つ以上のシーンを配置する

ビデオトラックはVaとVbの２つですから、３つ以上のシーンを配置するには、Va→Vb→Va→Vbのように交互に２つのトラックを使っていきます。



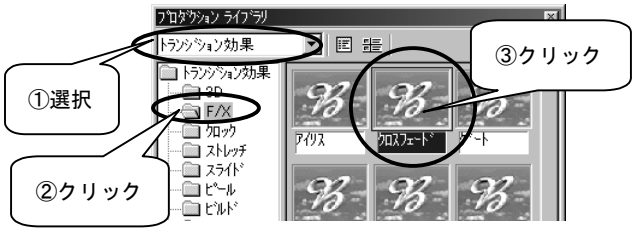
３つのシーンを配置した例

特殊効果でシーンをつなぐ

プロダクションライブラリに登録されている特殊効果を使って、シーンをつないでみましょう。シーンをつなぐには「トランジション効果」を使います。数あるトランジション効果のうち、ここでは「クロスフェード効果」と「ターンページ効果」を使ってみます。

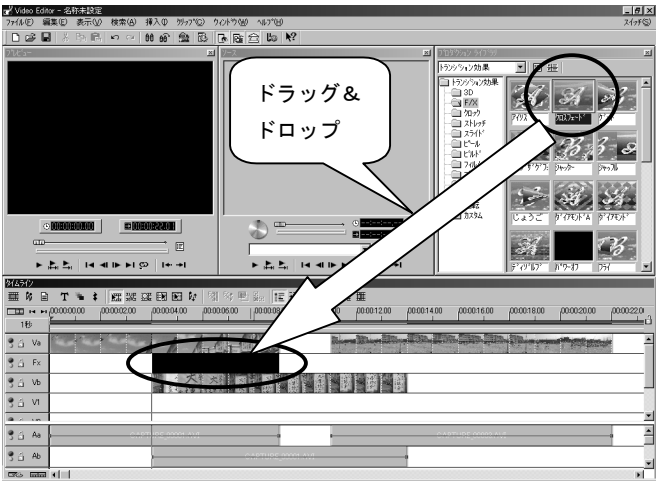
1　プロダクションライブラリの[トランジション効果]を選び、使いたい特殊効果をクリックします。

ここでは[F/X]フォルダに入っている[クロスフェード効果]をクリックします。



2　選択した特殊効果を、タイムラインのFxトラックへドラッグ＆ドロップします。

ドロップ位置はシーンのつなぎ目になります。



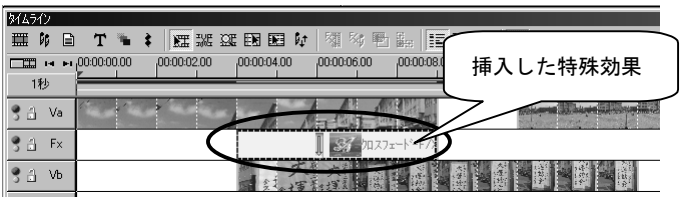
3　位置を決めてクリックすると、詳細設定画面が表示されるので、[OK]ボタンをクリックします。

設定内容については[ヘルプ]ボタンをクリックしてください。



4　特殊効果が挿入されました。

矢印はシーンの切替順（VaからVbへの切替）を示します。



同様に、VbとVaを[ピール]フォルダにある[ターンページ]を使ってつないでみましょう。矢印が上向きになっていることを確認してください。



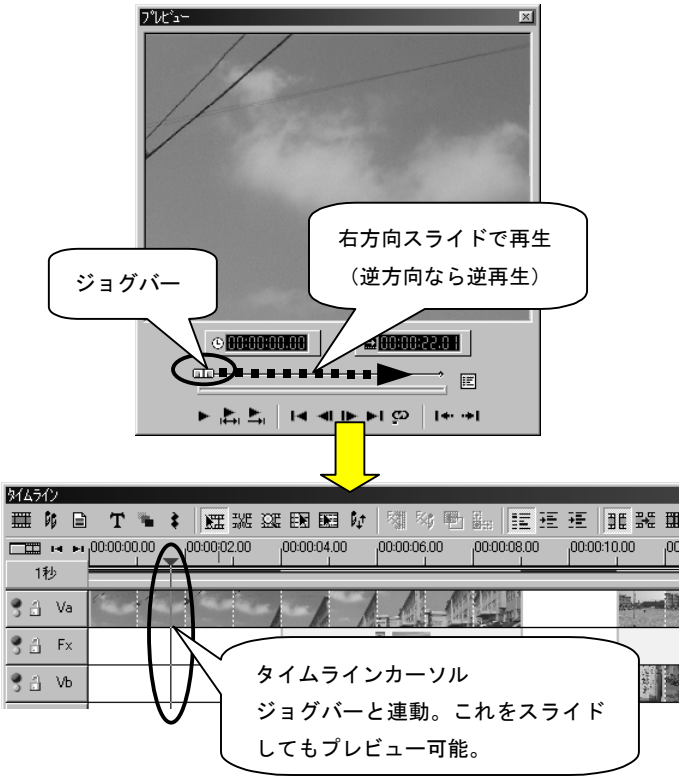
もう１度、別の特殊効果をプロジェクトライブラリから選んでドラッグ＆ドロップすると、選択した特殊効果を変更することができます。また、効果の設定を変えたいときは、Fxトラック上の特殊効果をダブルクリックしてください。

編集内容を確認する

今までの編集で映像がどのようになっているか、プレビューウィンドウを使って確認してみましょう。

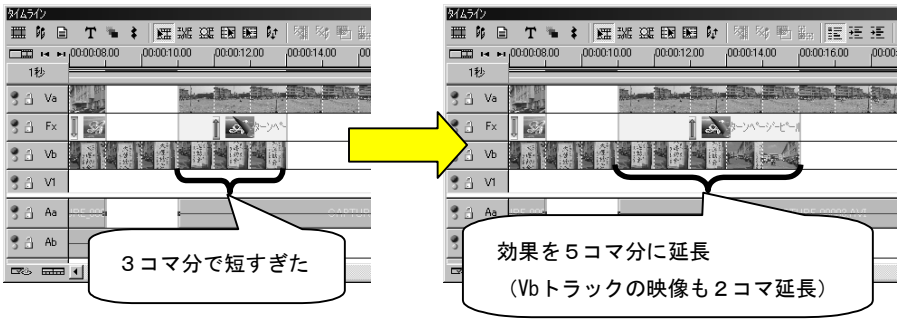
1　プレビューウィンドウの[ジョグバー]をマウスでつまみ、右方向にゆっくりスライドします。

マウスをスライドする速度に合わせて、プレビューウィンドウに編集結果の映像が再生されます。
タイムライン上でも同時にカーソルが移動し、どの辺の映像が再生されているか、確認することができます。



確認後の修正例として、ターンページ効果をもう少し長くする方法を見てみましょう。
こういった修正は、シーンをドラッグ＆ドロップすることで簡単にできます。

修正前　　修正後



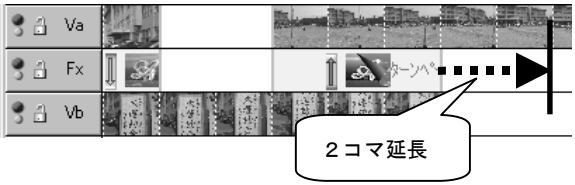
＜修正例＞

1　**タイムラインの　が選択されていることを確認します。**

2　**ターンページ効果をクリックし、点線部分の右端にカーソルを合わせます。**

カーソルが ⇨⇦ になることを確認します。

3　**広げたい位置までドラック＆ドロップします。**



4　**同様に、Vbトラックの映像もドラック＆ドロップで広げます。**



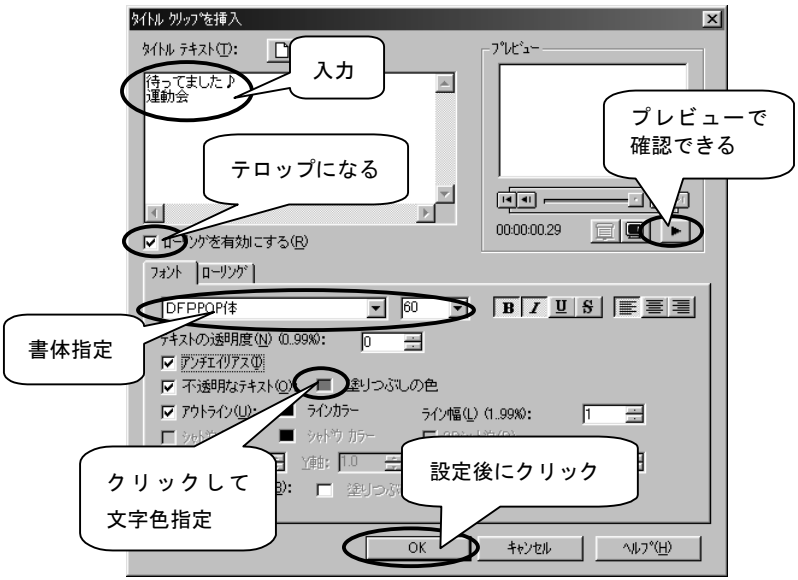
タイトルを入れる

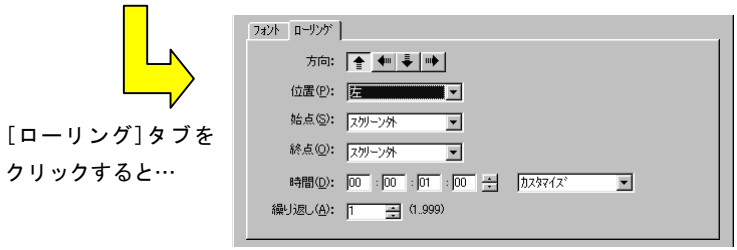
作品の先頭にタイトルを入れてみましょう。映像に重ねて文字が流れる「テロップ式」のタイトルも簡単に入れることができます。

1　タイムラインの T をクリックします。

2　タイトルや書体などを指定し、[OK]ボタンをクリックします。

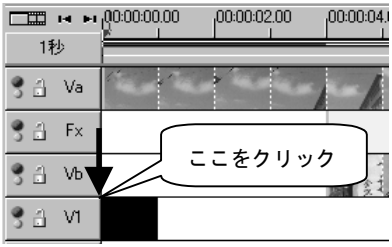
[ローリングを有効にする]をチェックするとテロップになります。[ローリング]タブをクリックして詳細設定を行うこともできます。
詳しい設定内容については[ヘルプ]をクリックしてください。





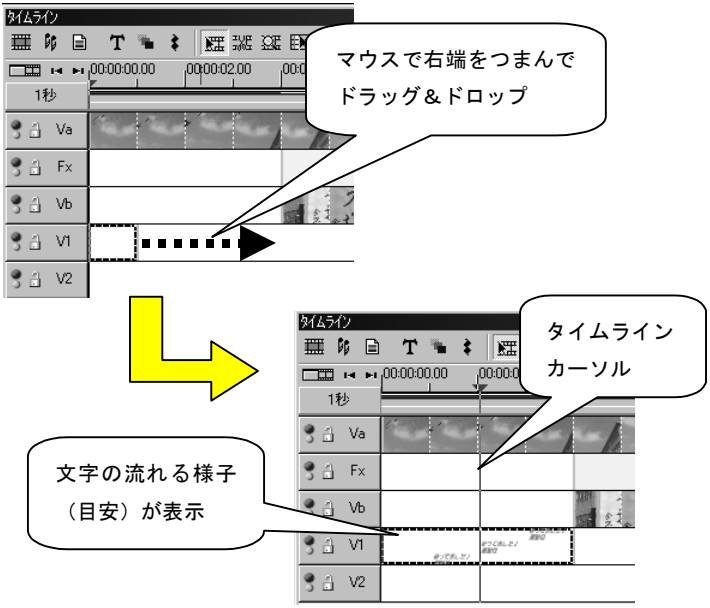
3　V1トラック上の挿入したい位置にカーソル（手のマーク）合わせ、クリックします。

タイトルクリップはV1～V3トラックへ挿入します。ここでは先頭をクリックします。



4　テロップの長さをドラッグ＆ドロップで調節します。

ジョグバーまたはタイムラインカーソルを動かしてプレビューウィンドウで確認しながら調節してください（145ページ【編集内容を確認する】参照）。



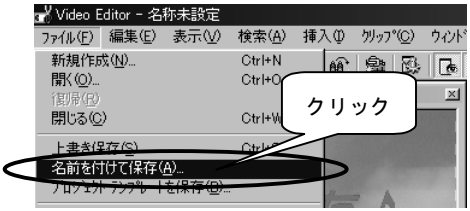
編集状況(プロジェクト)を保存する

これまでの編集状況をプロジェクトファイルとして保存しておくことができます。プロジェクトファイルを保存しておけば、編集の途中で中止した場合も、すぐに再開することができます。

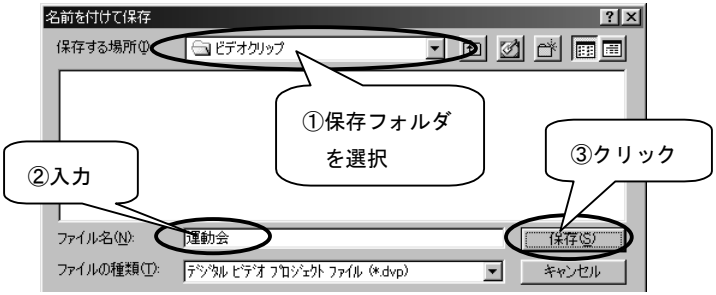
注意

ここで保存するのは編集状況であって、編集した結果の映像ではありません。したがって、編集状況を保存した後でも、編集に使っている AVI ファイルなどは必要ですので、削除したり、フォルダを移動したりしないでください。

1　**[ファイル]メニューの[名前を付けて保存]を選びます。**



2　**保存フォルダおよびファイル名を指定して、[保存]ボタンをクリックします。（拡張子は.dvp）**

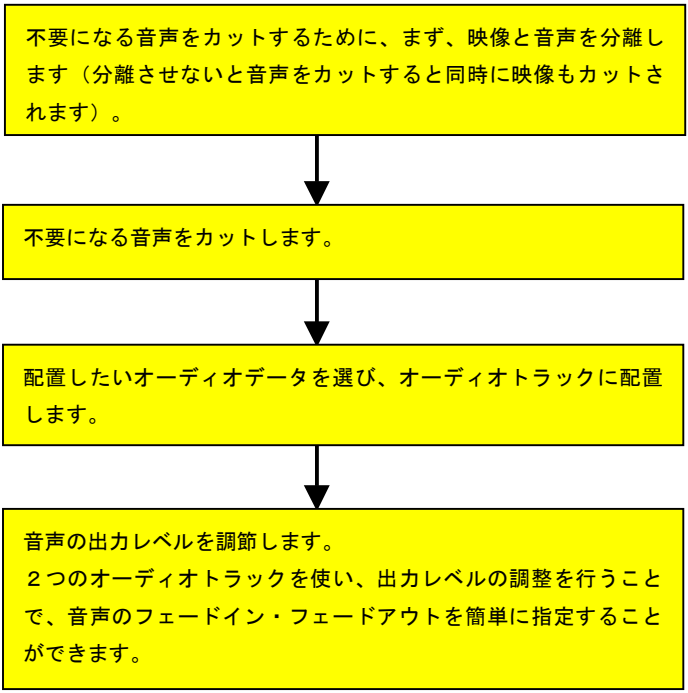


保存したファイルを開く

[ファイル]メニューの[開く]を選び、開きたいファイルを指定します。

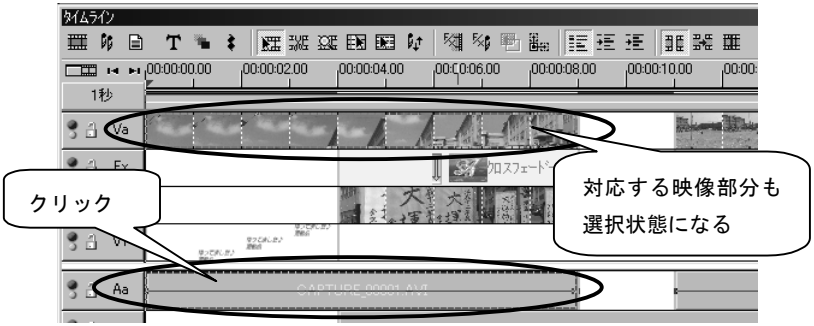
3 BGMやナレーションを入れよう

『MediaStudio Pro』のオーディオトラックには、AVIファイルの音声のほか、WAVファイルやMPEGファイルのオーディオデータを配置することもできます。ここでは、【ステップ2】でキャプチャした音声をナレーションとして配置してみましょう。ナレーションでもBGMでも用意するオーディオデータの内容が異なるだけで、手順はまったく同じです。
主な手順は次のようになります。



1　不要になる音声をクリックします。

ここではAaトラックの音声をカットします。



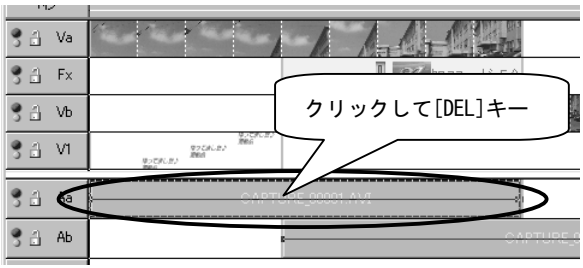
2　選択した音声トラック上で右クリックし、[分離]を選びます。

ビデオトラックとオーディオトラックが分離するので、どちらか一方だけのカットや移動ができるようになります。



3　不要な部分をクリックし、「DEL」キーを押します。

音声部分だけが消えます。



4　タイムラインの をクリックし、配置したいオーディオデータを選択し、[開く]ボタンをクリックします。

をクリックするとオーディオデータを再生します。



5　**A1トラック上の挿入したい位置にカーソル（手のマーク）を合わせ、クリックします。**

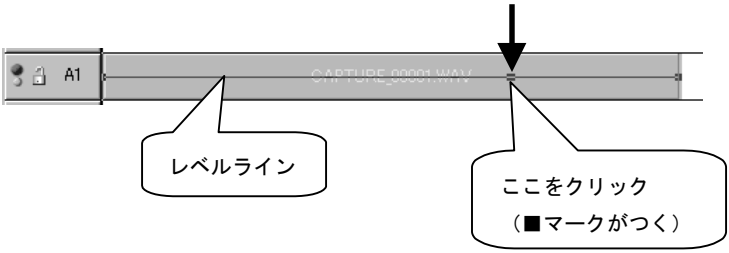


音声の出力レベルを調節する

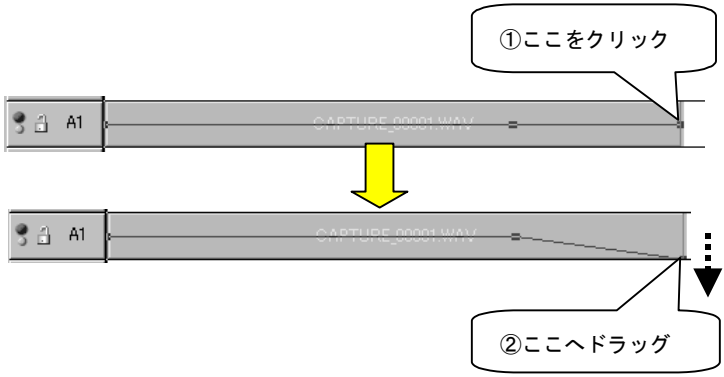
音声の出力レベル（ボリューム増減）とそのポイントを指定してみましょう。ここでは、A1トラックの後半をだんだん下げ（フェードアウト）、Aaトラックの開始をだんだん上げていく（フェードイン）例を説明します。

1　**オーディオトラックのレベルラインのうち、出力レベルを変更したいポイントをクリックします。**

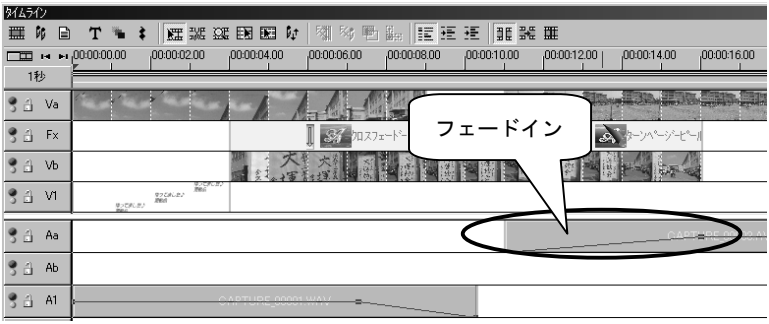
クリックした時点に■マークがつきます。



2　トラックの終わりにある■マークをマウスでつまみ、トラック下方へドラッグ＆ドロップします。



3　同様に、Abトラックの音声をフェードインします。



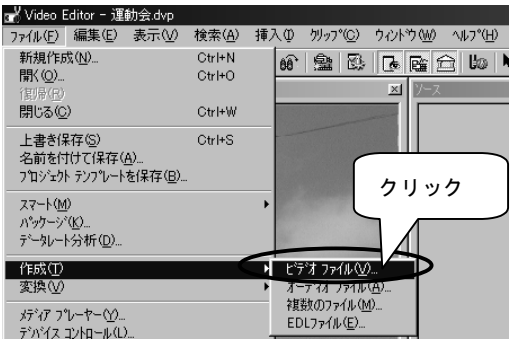
4 編集した作品を保存しよう(レンダリング)

編集が思い通りに出来たら、その結果をファイルとしてハードディスクに保存します。今までプレビューウィンドウで確認してきた内容は一時的な領域に記憶されているもので、ファイルとしてハードディスクに保存されているわけではありません。ファイルとして保存することを「レンダリング」といいます。

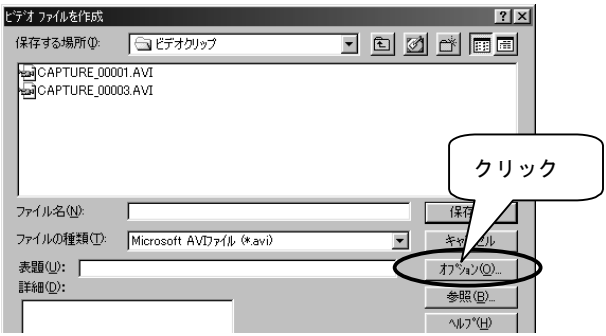
■ AVI形式で保存する場合

（MPEG形式で保存する場合は159ページをご覧ください。）

1 [ファイル]メニューの［作成］から、［ビデオファイル］をクリックします。



2 [オプション]ボタンをクリックします。



3　[全般]タブをクリックし、以下の設定を行います。

- データトラック：オーディオとビデオ
- フレームレート：29.97
- フレームサイズ：720x480



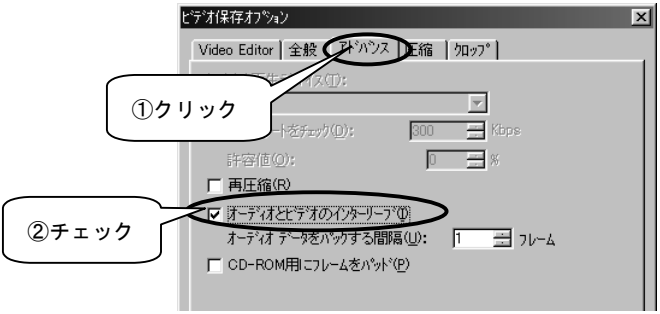
注意

[全般]～[クロップ]までのタブが表示されない場合は、『MediaStudio Pro』CD-ROM 内の「ドライバをインストールする」→「NetShow ツール」をインストールしてください。

4　[詳細設定]タブをクリックし、[オーディオとビデオのインターリーブ]をチェックします。

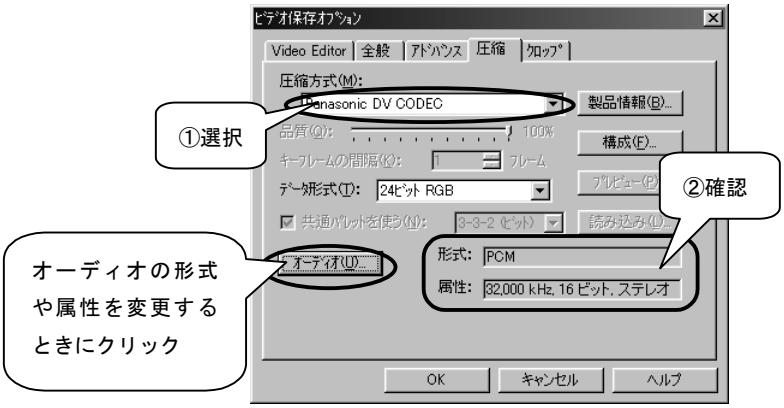
※画面例も[アドバンスタブ]は[詳細設定]タブと
　お読み替えください。

[オーディオデータをパックする間隔]は変更不要です。



5　[圧縮]タブをクリックし、以下の設定を行います。

圧縮方式：「Panasonic DV CODEC」または
「Panasonic and I-O DATA DV GigaAVI CODEC」
オーディオの形式：PCM
オーディオの属性：「32.000kHz,16ビット,ステレオ」または
「44.100kHz,16ビット,ステレオ」または
「48.000kHz,16ビット,ステレオ」



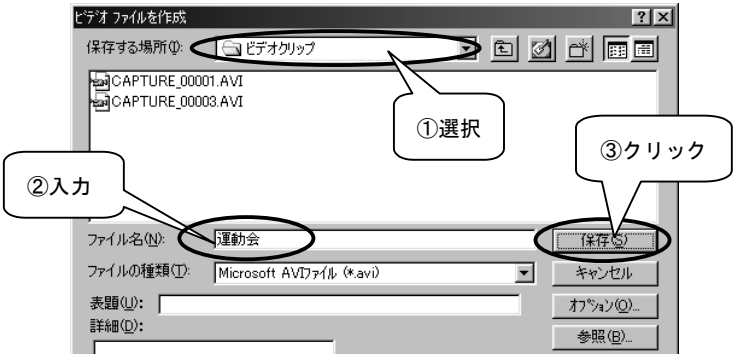
注意

- **[Panasonic DV CODEC]は２GバイトまでのAVIファイル（約9分30秒以内）を作成します。それ以上のAVIファイルを作成するときは[Panasonic and I-O DATA DV GigaAVI CODEC]を選択してください（GigaAVIファイルについてはGV-DVC3/CB取扱説明書（別冊）80ページ【２G以上のAVIファイルを扱うには】参照）。**
- **オーディオトラックを使っていないときは［オーディオ］ボタンは選択できません。**
- **[オーディオ]ボタンをクリックしても画面が表示されないときは『MediaStudio Pro』CD-ROM 内の「ドライバをインストールする」→「NetShow ツール」をインストールしてください。**

6　[OK]ボタンをクリックします。

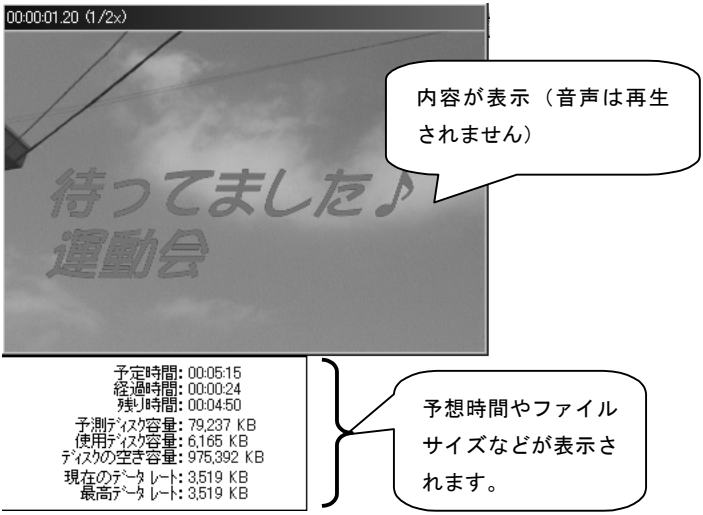
7　保存したいフォルダを選択し、AVIファイルの名前を入力して、[保存]ボタンをクリックします。

表題や詳細欄に編集内容メモを入力しておくこともできます。



8　保存（レンダリング作業）を開始します。

お使いの環境や編集内容によっては、時間がかかる場合があります。



9　保存が終わったら、作成したAVIファイルが自動的に表示されます。内容を確認してください。

以上で、AVIファイル（またはGigaAVIファイル）の作成は終了です。

注意

『MediaStudio Pro』の[ファイル]メニューにある[テープへの録画]は、アナログ機器用のため、DV機器への録画はできません。

■MPEG形式で保存する場合

1　[ファイル]メニューの［作成］から、［ビデオファイル］をクリックします。



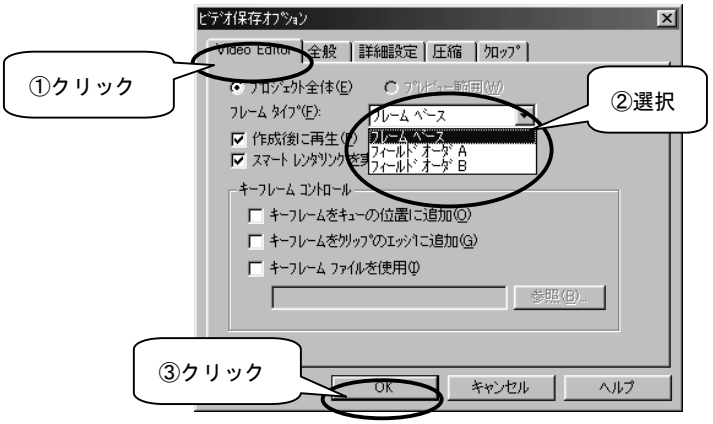
2　[Video Editor]タブをクリックし、[フレームタイプ]を選択後、[OK]ボタンをクリックします。

●［フレームタイプ］の選択方法

・「DVworks」にてDVカメラからキャプチャしたAVIファイルを編集する場合→「フィールドオーダーA」を選択

・「DVworks」にてDVカメラからキャプチャしたMPEGファイルを編集する場合→「フィールドオーダーA」を選択

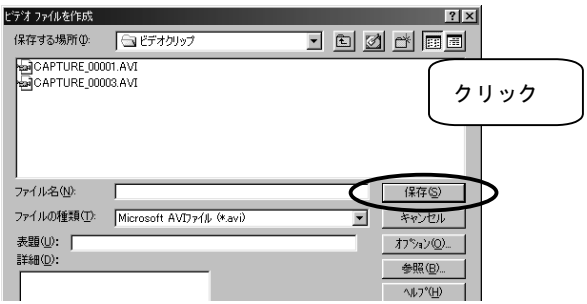
・「D-VHS Cap」にてD-VHSデッキからキャプチャしたMPEGファイルを編集する場合→「フィールドオーダーB」を選択



3　[保存]ボタンをクリックします。

注意

【MPEG形式で保存する場合】(134ページ)で設定したMPEGファイル形式で保存されます。



以上で、MPEGファイルの作成は終了です。

ステップ5

ストレージ機器の取り扱い

1 基本操作について

ここでは、本PCカードに1394対応のストレージ機器（ハードディスクやMOドライブ等）を接続する場合、取り外す場合の基本的な操作について説明します。

機器を本PCカードに接続する場合・取り外す場合

ストレージ機器は、1394対応のケーブルで本PCカードに接続します。
パソコンの電源を入れた状態でも接続できます。
※コネクタの向きなどを確認した上で接続してください。
Windows使用中に取り外す場合は【ステップ5】(171ページ)の手順で取り外してください。

注意

1394対応のストレージ機器に関する注意事項

ストレージ機器を含む1394機器のつなげ方、取り外し方、および使い方については、各社の1394機器の取扱説明書を参照してください。誤った操作方法は機器およびディスクの破損、もしくはデータの消失、またはWindowsの正常動作の妨げとなりますのでご注意ください。

・ストレージ機器は電源をONにしてから、本製品につなげてください。
ストレージ機器の電源がOFFの状態で本製品につなげると、
→ストレージ機器が認識されないなどの現象が発生し、正常動作いたしません。

・ストレージ機器の動作中に、ケーブルを取り外したり、電源を切ることはおやめください。

・ストレージ機器を含む複数の1394機器をつないだ場合、他の機器が動作している時に動作していない機器のケーブルを取り外したり、電源を切ることはおやめください。また、1394機器の動作中に、他の1394機器を接続することも正常動作の妨げになる場合があります

※ストレージ機器を含む1394機器が正常に動作しない場合や認識されない場合は、いったんケーブルを抜いてから1394機器の電源の入れ直しを行い、1394機器の電源がONの状態で再度接続してください。また、接続する1394機器によっては上記以外の制限事項がありますので、必ず各1394機器の取扱説明書も参照してください。

2 ストレージ機器を接続する

本PCカードに1394対応のハードディスクやMOドライブ等のストレージ機器を接続してみましょう。

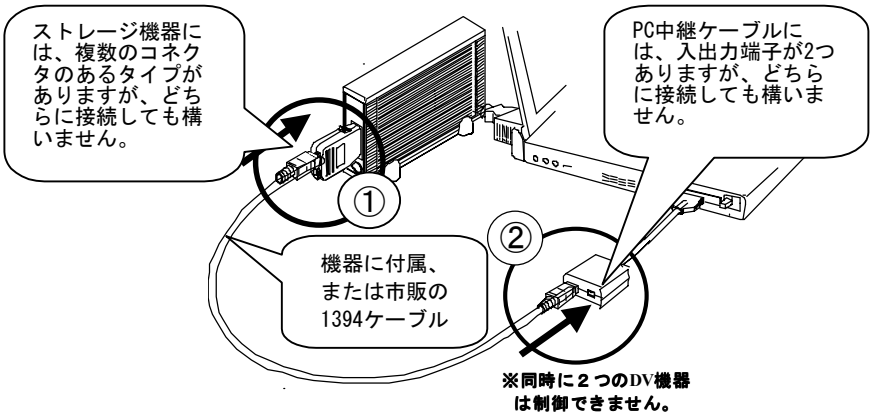
1 お使いのストレージ機器の電源を入れてください。

注意

ストレージ機器の操作については、各機器メーカーへお問い合わせください。

2 機器にある1394(i.LINK)端子と本PCカードを、1394ケーブルで接続します。

※ケーブルは機器付属のもの、あるいは市販のケーブル（6ピン⇔4ピン）をご使用ください。
ストレージ機器との接続の詳細は、ストレージ機器の取扱説明書を参照してください。



接続時のポイント

・ストレージ機器の電源を入れてから、本 PC カードと接続します。
（パソコンの電源が入っている状態で接続できます。）
・本 PC カードは、パソコンの電源が入っている状態でも取り付けできます。
ただし、本 PC カードを PC カードスロットへ挿入する際には、ストレージ機器を接続した状態で挿入しないでください。本 PC カードを PC カードスロットに挿入後、Windows が正常に起動している状態（本 PC カードが正常に認識されている状態）でストレージ機器を接続するようにして下さい。

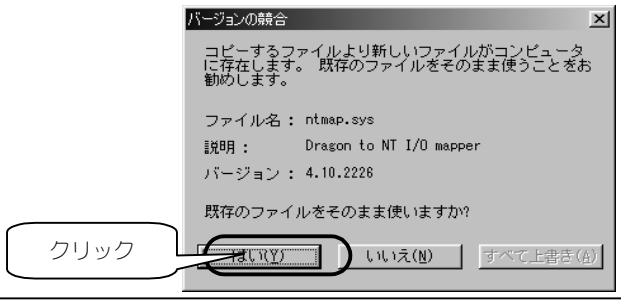
3　接続すると、パソコン(Windows)が、接続したストレージ機器を自動認識します。

注意

・本PCカードに２台以上の機器を接続する場合には、注意事項があります。
詳細は、「GV-DVC3/CB取扱説明書（別冊）【本PCカードに２台以上の機器を接続する場合】(91ページ)を参照してください。
・本PCカードに接続したストレージ機器からパソコンを起動させることはできません。

注意

Windows 98 SEで[バージョンの競合]画面が表示された場合は、すべて[はい] ボタンをクリックしてください。



3 ストレージ機器が正しく接続されているかを確認する

ここでは、ストレージ機器が正しく接続されているかをWindows上から確認します。

・Windows XP/2000の場合は下記を参照してください。
Windows Me/98 SEの場合は168ページを参照してください。

注意

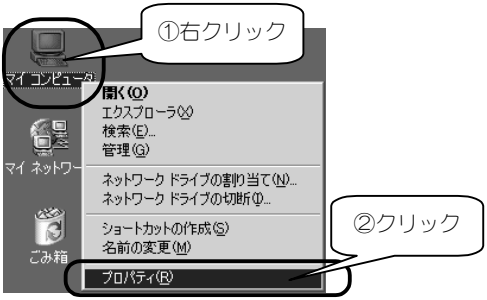
・確認は以下の手順のように「デバイスマネージャ」画面で確認できますが、表示は接続したストレージ機器により異なります。詳細は、ストレージ機器の取扱説明書を参照するか、またはストレージ機器メーカーにお問い合わせください。
・本取扱説明書には、ストレージ機器のフォーマット方法は記載されておりません。フォーマットが必要な機器については、ストレージ機器の取扱説明書を参照するか、またはストレージ機器メーカーにお問い合わせください。

Windows XP/2000の場合

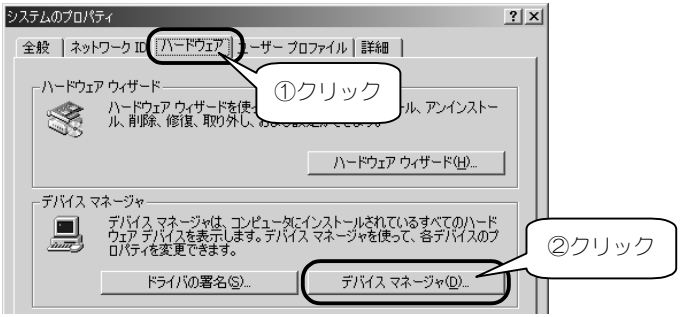
接続の確認は［デバイスマネージャ］画面で行いますが、表示は接続したストレージ機器により異なります。
詳細は各ストレージ機器の取扱説明書を参照してください。
ここでは、例としてハードディスク、MOドライブを接続した場合を説明します。

1 ［マイコンピュータ］を右クリックし、メニュー内の［プロパティ］をクリックします。

Windows XP の場合は、以下の手順を行います。
①[スタート]をクリックし、表示された画面内の[マイコンピュータ]を右クリックします。
②表示されたメニューの[プロパティ]をクリックします。



2　［ハードウェア］タブ、続けて［デバイスマネージャ］をクリックします。



3　[表示]メニュー内の［デバイス（種類別）］をクリックします。



4　[ディスクドライブ]をダブルクリックし、その下に接続した機器が表示されていることを確認します。

※表示は接続したストレージ機器により異なります。詳細については、ストレージ機器の取扱説明書を参照するか、またはストレージ機器メーカーにご確認ください。



参考

接続している機器は、次ページ【ストレージ機器の正しい取り外し手順】での取り外し時に表示される機器名でも確認できます。



機器の表示がない場合は…

GV-DVC3/CB 取扱説明書（別冊）69 ページ「接続したストレージ機器が［デバイスマネージャ］の［ディスクドライブ］に表示されない」をご参照ください。

5　［デバイスマネージャ］を閉じます。

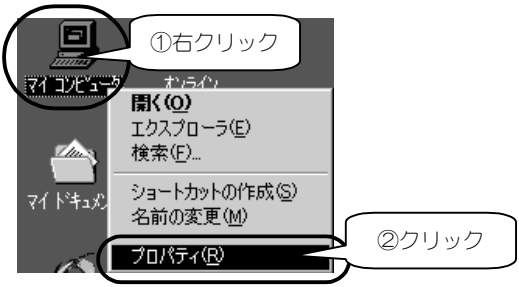
以上で、Windows XP/2000でのストレージ機器の接続の確認は終了です。

Windows Me/98の場合

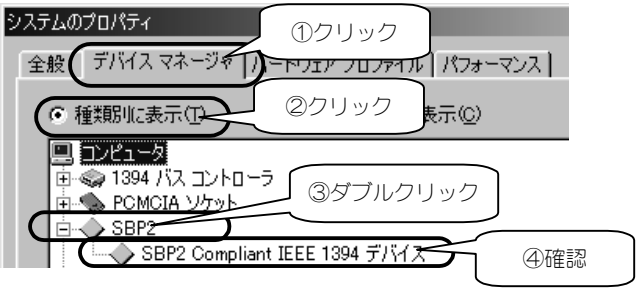
接続の確認は「デバイスマネージャ」画面で行いますが、表示は接続したストレージ機器により異なります。
詳細は各ストレージ機器の取扱説明書を参照してください。

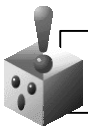
ここでは、例としてハードディスク、MOドライブを接続した場合を説明します。

1　[マイコンピュータ]を右クリックし、メニュー内の[プロパティ]をクリックします。



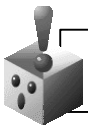
2　[デバイスマネージャ]タブをクリックし、[種類別に表示]で[SBP2]をダブルクリックし、[SBP2 Compliant IEEE 1394 デバイス]が表示されているかを確認します。





[SBP2]が見当たらない場合は…

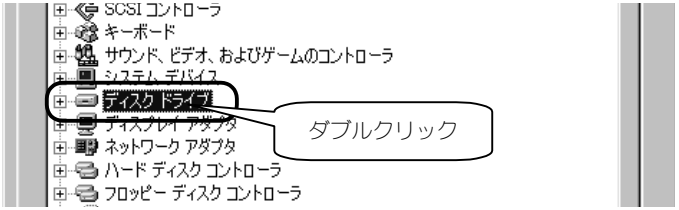
「GV-DVC3/CB 取扱説明書（別冊）69 ページ「SBP2 の表示がない」をご参照ください



[SBP2 Compliant IEEE 1394 デバイス]が見当たらない場合は…

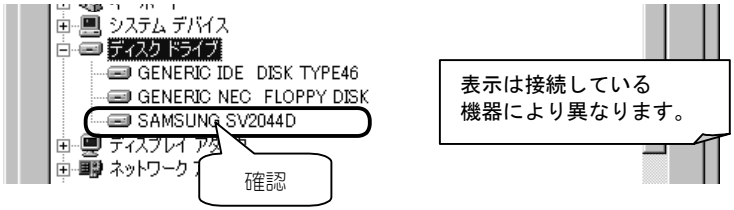
「GV-DVC3/CB 取扱説明書（別冊）69 ページ「SBP2 Compliant IEEE 1394 デバイスの表示がない」をご参照ください

3　[ディスクドライブ]をダブルクリックします。



4　接続したストレージ機器が表示されているかを確認します。表示されていれば、正常に認識されています。

※表示は接続したストレージ機器により異なります。詳細については、ストレージ機器の取扱説明書を参照するか、またはストレージ機器メーカーにご確認ください。



接続している機器がわからない
場合は・・・

以下の手順で確認することができます。

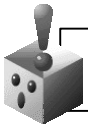
1　【ストレージ機器の正しい取り外し手順】(161ページ)を参照して、一旦接続している機器を取り外します。

2　取り外し後、前ページの手順で再度[ディスクドライブ]の表示を確認します。



3　接続する機器の電源が入っていることを確認後、本PCカードに機器を接続します。

4　再度、[ディスクドライブ]の表示を確認します。
追加されているドライブ（の表示）が、本PCカードに接続した機器です。



機器の表示がない場合は…

GV-DVC3/CB取扱説明書（別冊）69ページ「接続したストレージ機器が［デバイスマネージャ］の［ディスクドライブ］に表示されない」をご参照ください。

5　[記憶装置]をダブルクリックし、その下に接続した機器が表示されていることを確認します。
※表示については、ストレージ機器の取扱説明書をご覧ください。

6　[OK]ボタンをクリックします。

以上で、Windows Me/98 SEでのストレージ機器の接続の確認は終了です。

4 ストレージ機器の正しい取り外し手順

ストレージ機器は、以下または次ページの手順にしたがって、取り外すことができます。

取り外し手順ーその１

本PCカードを取り外した後に、ストレージ機器を取り外す手順です。

1 **【6.OS上で本PCカードを取り外す方法】(49ページ)を参照して、本PCカードを取り外します。**

注意

・パソコンの電源が入っている状態でも取り外せます。
・取り外す際には、必ずケーブルのコネクタを持って取り外してください。ケーブルを引っ張って取り外さないでください。
・ストレージ機器が動作していないこと（読み込み・書き込み等を行っていないこと）を確認した上で取り外してください。
・ストレージ機器を操作するアプリケーションを終了してから取り外してください。
・ストレージ機器にストレージ機器がデイジーチェーン接続されている場合は、末端のストレージ機器から取り外してください。
・ストレージ機器を含む複数の1394機器をデイジーチェーン接続した場合は、他の機器が動作している時に、動作していない機器のケーブルを取り外したり、電源を切ることはおやめください。

2 **本PCカードに接続しているケーブルを取り外します。**

3 **ケーブル取り外し後、ストレージ機器の電源を切ってください。**

取り外し手順ーその２

ストレージ機器のみを取り外す手順です。
この場合、次ページの【ストレージ機器の取り外し準備】の手順（ストレージの停止）を行った後で、本PCカードに接続しているケーブルを取り外してください。ケーブル取り外し後、ストレージ機器の電源を切ってください。

1　次ページを参照して、ストレージ機器の取り外し準備手順（ストレージの停止）を行います。

注意

・パソコンの電源が入っている状態でも取り外せます。
・取り外す際には、必ずケーブルのコネクタを持って取り外してください。ケーブルを引っ張って取り外さないでください。
・ストレージ機器が動作していないこと（読み込み・書き込み等を行っていないこと）を確認した上で取り外してください。
・ストレージ機器を操作するアプリケーションを終了してから取り外してください。
・ストレージ機器にストレージ機器がデイジーチェーン接続されている場合は、末端のストレージ機器から取り外してください。
・ストレージ機器を含む複数の1394機器をデイジーチェーン接続した場合は、他の機器が動作している時に、動作していない機器のケーブルを取り外したり、電源を切ることはおやめください。

2　本PCカードに接続しているケーブルを取り外します。

3　ケーブル取り外し後、ストレージ機器の電源を切ってください。

ストレージ機器の取り外し準備(ストレージ機器の停止)

1　ストレージ機器が動作していないことを確認します。

2　タスクトレイのアイコンをクリックします。

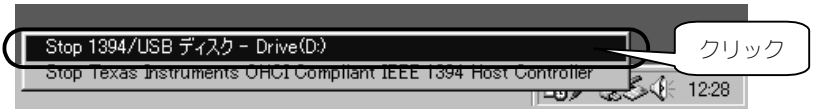


3　以下のように表示される項目をクリックします。

Windows 98 SEの場合、［Stop 1394/USB xxxxxxx］と表示されます。
Windows Me/2000の場合、［xxxxxxx を停止します］と表示されます。

※'xxxxxxx'の箇所は、お使いのストレージ機器により異なります。

(Windows 98 SE での表示例)



(Windows Me/2000 での表示例)



注意

上記画面での［Stop Texas Instruments OHCI ……］(Windows 98 SEの場合)および［Texas Instruments OHCI ‥‥］(Windows 2000の場合)をクリックすると、本PCカードと接続しているストレージ機器の動作をすべて停止します。

仕 様

データ形式	民生用デジタルVCR SD仕様/NTSC方式 （Blue Book準拠 DV-SD/NTSC）
データ処理方式	ソフトウェアDVコーデック
ビデオサイズ	720×480ピクセル(NTSC)
割り込み（IRQ）	Plug & Playシステムによる自動設定(1つ用)
コネクタ	DV入出力端子：IEEE1394(i.LINK)　4ピン×２
消費電流	+3.3V±10%　最大0.3A
温度	0℃～+40℃
湿度	20%～80%
サイズ	85.6(D)mm×54.0(W)mm×5.0(H)mm （中継ケーブルを含まず）
付属ケーブルのケーブル長	PCカード中継ケーブル・・・16cm DVケーブル・・・1.5m

サポートセンターへのお問い合わせ

サービス添付のソフトウェアに関するお問い合わせ先については、11ページか、裏表紙を参照してください。

■お知らせいただく事項

1. お客様の住所・氏名・郵便番号・連絡先の電話番号および FAX 番号
2. ご使用の弊社製品名と、サポートソフトウェアディスクのシリアル No.
3. ご使用のパソコン本体と周辺機器の型番。
4. ご使用の OS とアプリケーションの名称、バージョンおよびメーカー名。
5. 現在の状態（どのようなときに、どうなり、今はどうなっているか。画面の状態やエラーメッセージなどの内容）。

■オンライン

インターネット　http://www.iodata.jp/support/

■郵便

〒920-8513　石川県金沢市桜田町2丁目84番地 ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
サポートセンター「GV-DVC3/CB」係　宛

■電話

電話番号　金沢　076-260-3646
東京　03-3254-1036
受付時間　9:30～19:00　月～金曜日（祝祭日を除く）

■FAX

FAX 番号　金沢　076-260-3360
東京　03-3254-9055
宛先　株式会社アイ・オー・データ機器
サポートセンター「GV-DVC3/CB」係　宛

本製品に関するお問い合わせはサポートセンターのみで行っています。
予めご了承ください。

サポートソフトのバージョンアップ

入手方法は以下の通りです。

■オンライン

インターネット　http://www.iodata.jp/lib/

■サービス窓口からの郵送

下記の窓口までお問い合わせください。（送料および手数料はお客様負担）

〒920-8513　石川県金沢市桜田町2丁目84番地 ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
「GV-DVC3/CB」 サービス窓口　宛

電話番号　076-260-3663
受付時間　9:30～12:00　13:00～17:00
月～金曜日（祝祭日を除く）

■ご注意

オンラインによるダウンロードはお客様の責任のもとで行ってください。
添付ソフトウェアの中には、当サービス対象外のソフトウェアもあります。

保証について

■保証期間

・保証期間は、お買い上げの日より１年間です。保証期間を過ぎたものや、保証書に販売店印とお買い上げ日の記述のないものは、有償修理となります。お送りいただいた製品を検査後、有償となる場合のみ往復ハガキにて修理金額をご案内致しますので、修理するか否かをご検討の上、往復ハガキにご記入いただきご返送ください。また、修理を受ける場合には保証書が必要になりますので、大切に保管してください。

・弊社が販売終了を決定してから、一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。
詳細は、ハードウェア保証書をご覧ください。

■保証範囲

次のような場合は、保証の責任を負いかねます。予めご了承ください。

・本製品の使用によって生じた、データの消失および破損。

・本製品の使用によって生じた、いかなる結果やその他の異常。

・弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障。

修理について

弊社製品の修理につきましては、以下の事項をご確認の上、販売店へご依頼いただくか、または下記修理品送付先までお送りくださいます様、お願い致します。

- 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。
  また、修理品のデータにつきましては、故障症状確認の際にすべて消去されます。
- 修理品にはご使用の環境や現在の状態（『サポートセンターへのお問い合わせ』の「お知らせいただく事項」）をお書き添えください。
- 保証期間中は無償で修理いたします。ただし、次の場合は有償となります。
  ◇保証書がない場合
  ◇保証書の所定事項が未記入の場合
  ◇電源 ON で挿入、抜去、逆挿入など誤った操作方法や、お買い上げ後の輸送、
  落下、取り付け場所の移設による破損、故障の場合
  ◇落雷などの事故による破損の場合
  ◇本製品を改造した場合
- 保証期間後は有償で修理いたします。
  製品によっては主要部品がユニット化（一体化）されている場合があります。これらの製品で故障が主要部品におよんでいた場合、各ユニットの交換を実費で行います。
- 修理品送付先

住所　〒920-8513
石川県金沢市桜田町 2 丁目 84 番地 アイ・オー・データ第 2 ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
「GV-DVC3/CB」 修理係　宛

※修理品を送付される場合は、輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材を使用してください。また、紛失等のトラブルを避けるため、**宅配便**または**書留郵便小包**でのご送付をお願いいたします。

- 修理品納期問い合わせについて

受付窓口	**「GV-DVC3/CB」　サービス窓口**
電話番号	**金沢　076-260-3663**
受付時間	**9:30～12:00　13:00～17:00**
	月～金曜日（祝祭日を除く）

※申し込まれた修理品の納期をお知りになりたい場合は、上記までお問い合わせください。

GV-DVC3/CB 取扱説明書
2002.Apr.12　112683-01
発　行　　株式会社アイ・オー・データ機器
〒920-8512 石川県金沢市桜田町3丁目10番地

©2002 I-O DATA DEVICE,INC. All rights reserved.
本製品および本書は著作権法により保護されておりますので
無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。